

令和7年度
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書



令和7年9月調査
大分市 男女共同参画センター

< 目 次 >

調査の概要	1
あなたご自身のことについて（回答者属性）	2
1. 男女平等に関する意識について	4
2. 政策・方針決定の場への女性の参画について	13
3. 仕事と家庭生活等の両立について	15
4. 子育て・介護について	20
5. ハラスメントについて	22
6. ドメスティック・バイオレンス（DV）について	25
7. 困難な問題を抱える女性について	30
8. 性的マイノリティについて	33
9. 男女共同参画に関する施策などについて	36
自由意見（男女共同参画および女性問題等に対するご意見）	41

調査の概要

1. 調査の目的

第4次おおいた男女共同参画推進プラン(令和4年度～令和8年度)の期間満了に伴う次期プラン策定の基礎資料とするとともに、市民の男女共同参画に関する意識啓発を行うことを目的とする。

2. 調査対象者

住民票登録状況より無作為抽出した大分市内在住の18歳以上の男女各1,500人

3. 調査方法

郵送配布

4. 回答方法

郵送またはインターネットによる回収

5. 調査期間

令和7年9月1日～令和7年9月30日

6. 回収状況

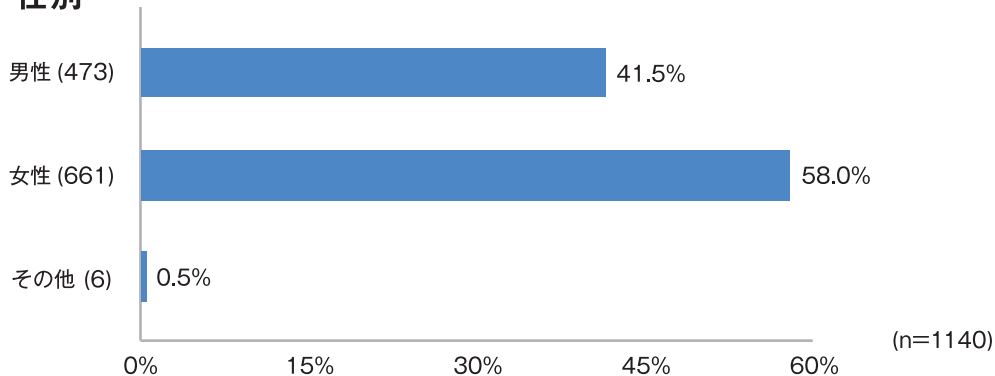
項目	件数
発送数	3,000件
回収数(郵送)	658件
回収数(インターネット)	485件
回収数(計)	1,143件
回収率	38.1%

7. 調査報告書の読み方

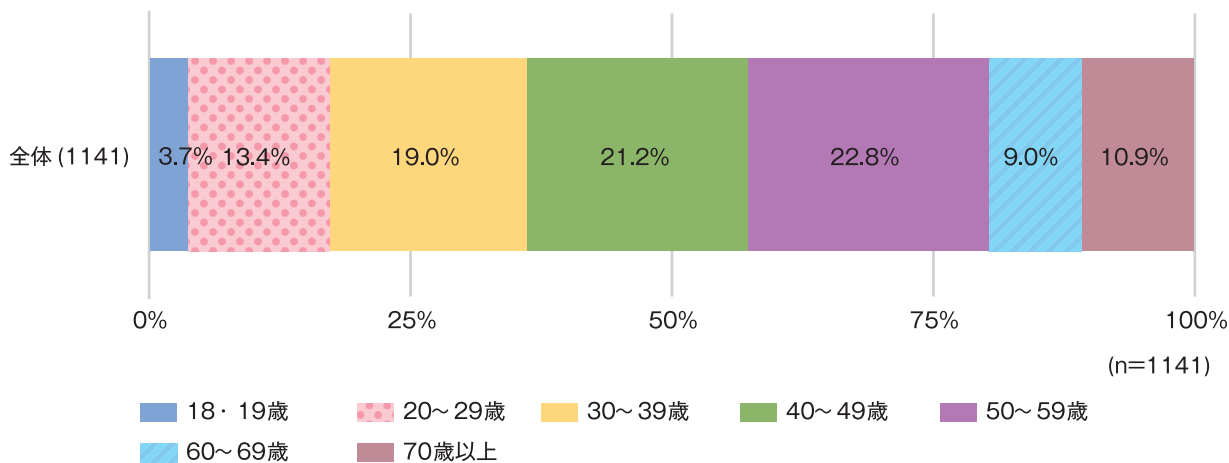
- ① 調査結果の構成比はすべて百分率(%)で表しており、その質問の回答者総数を基数として、小数第2位以下を四捨五入して算出している。なお、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
- ② 質問項目は回答率(%)で示している。
- ③ 属性別では、属性無回答とその他を除いているため、全体の回答者数と異なることがある。
- ④ グラフ中の「n」(net)とは、その質問の回答者数を表す。

あなたご自身のことについて（回答者属性）

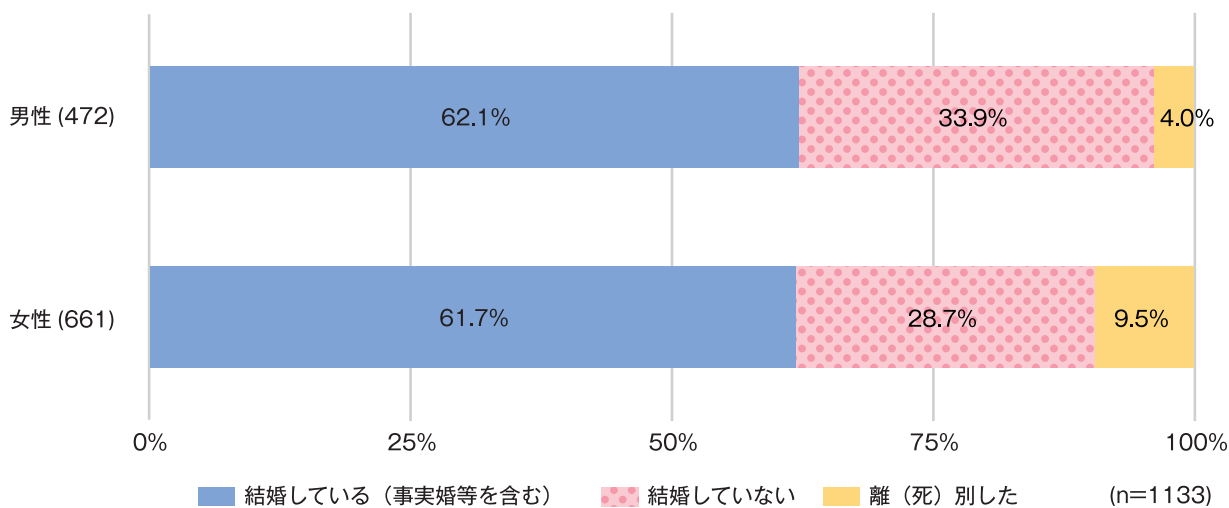
■ 性別



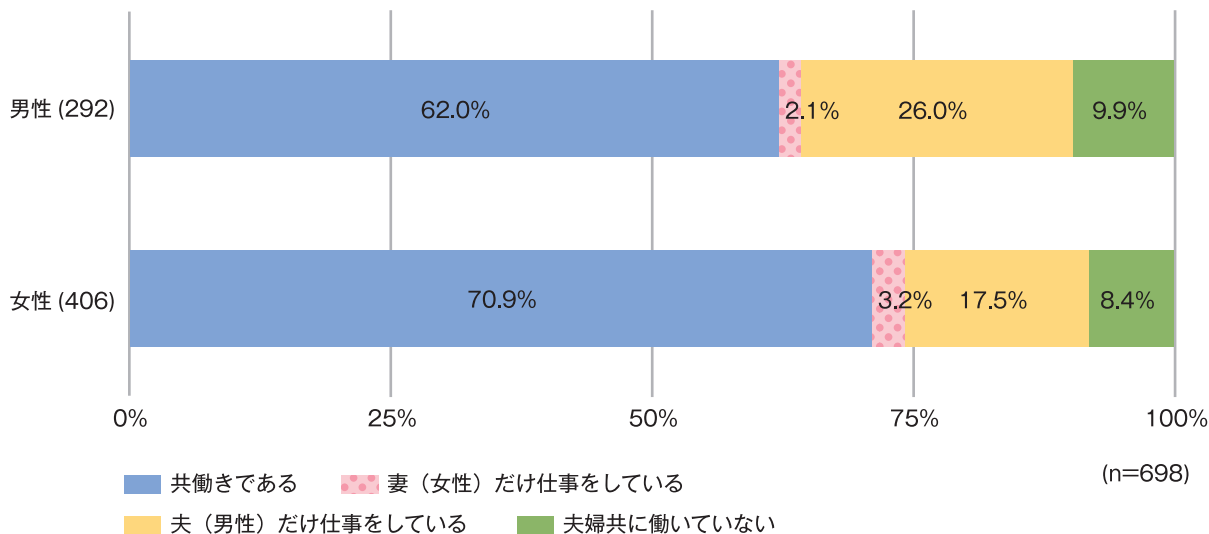
■ 年齢



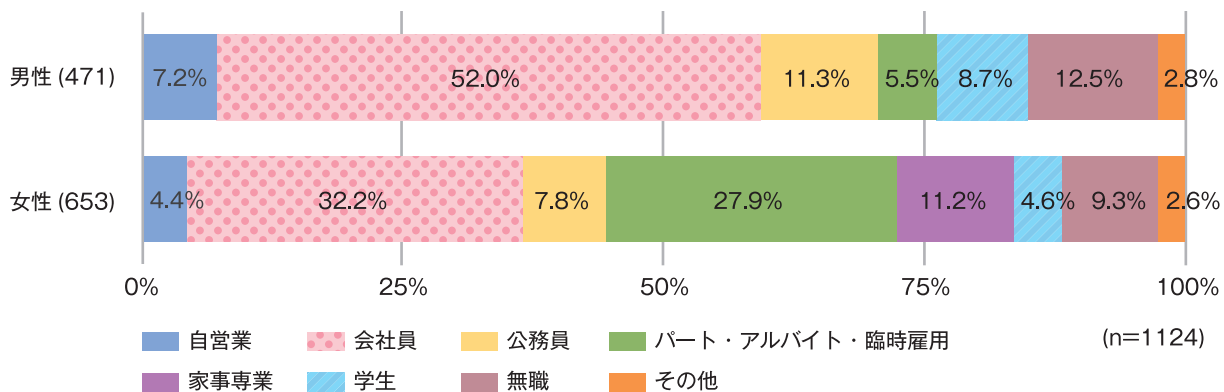
■ 婚姻状況



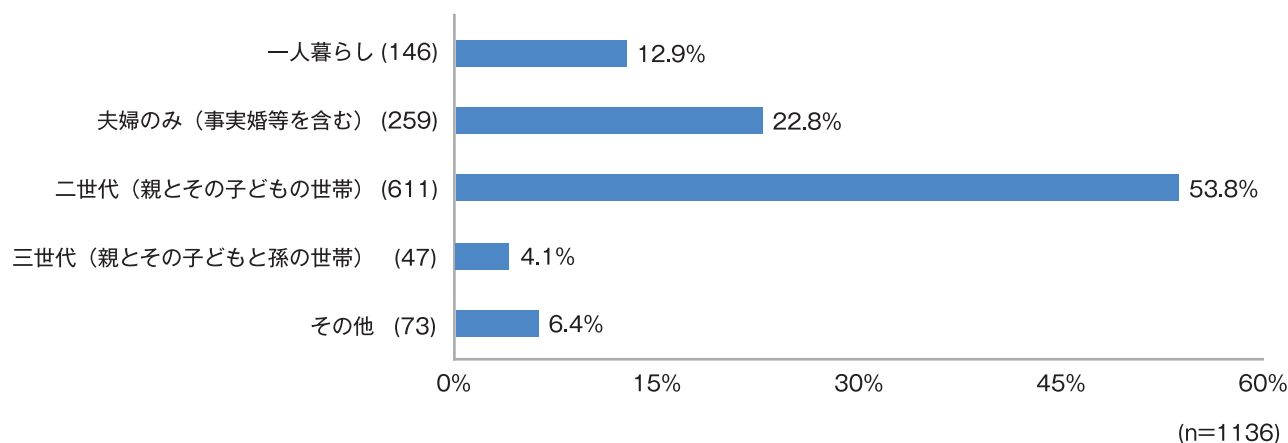
■ 「結婚している」を選んだ方の家庭内の勤務状況



■ 職業等

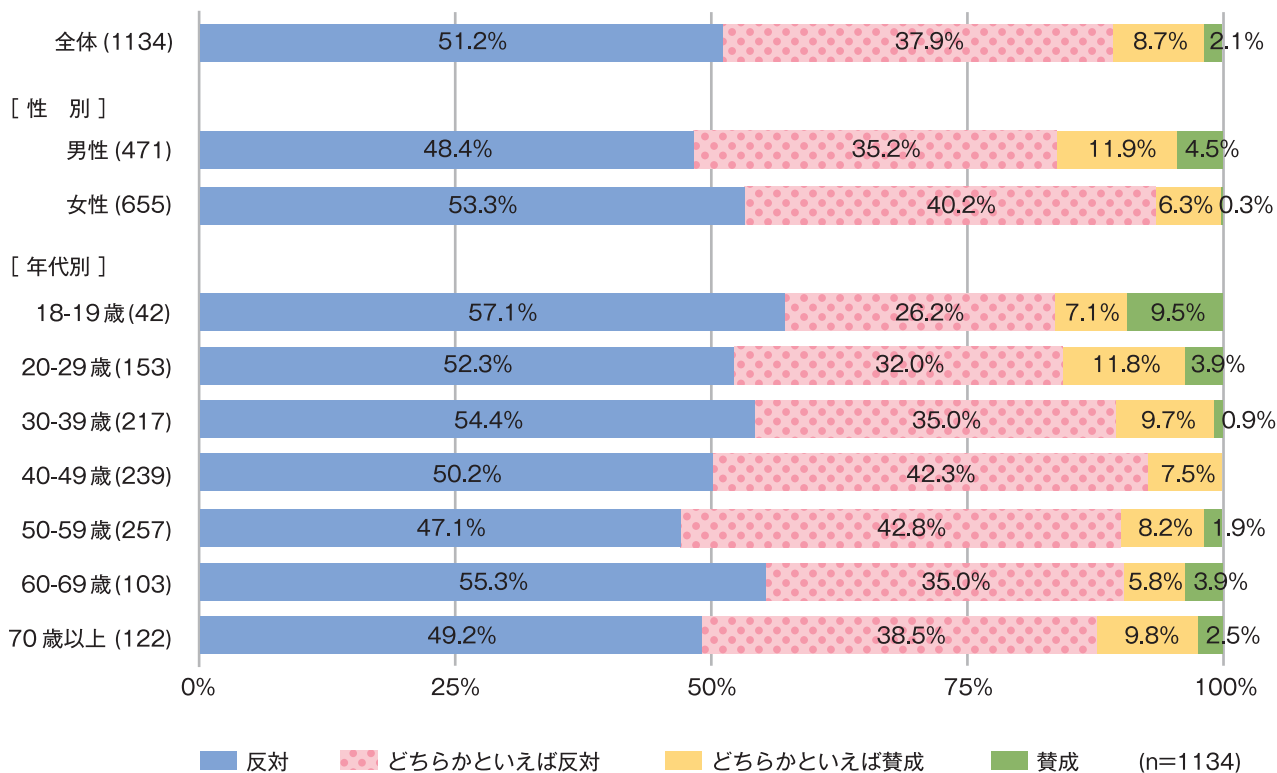


■ 家族構成



1. 男女平等に関する意識について

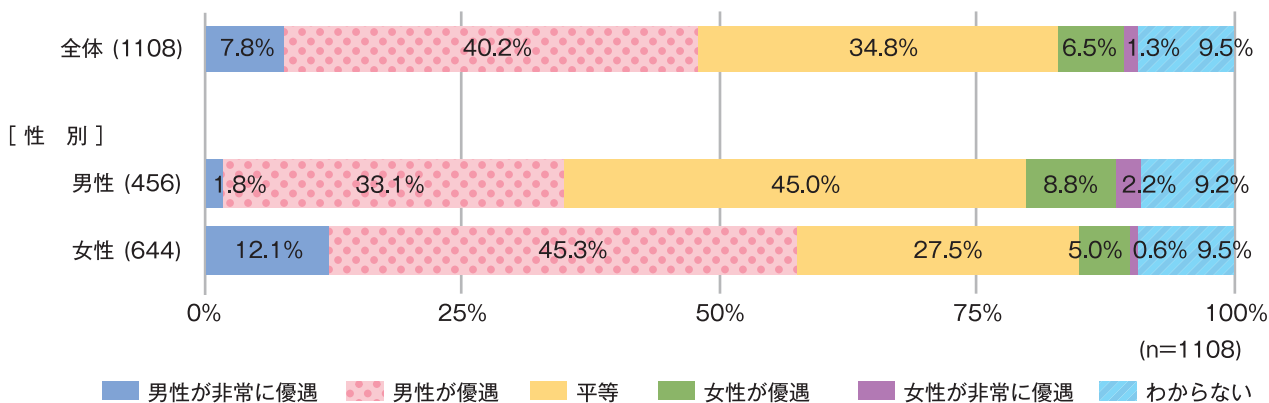
問1. 「男は仕事、女は家庭」、「男だから・・・、女だから・・・」といった性別による役割を固定した考え方（性別による固定的役割分担意識）についてどう思いますか。



- 全体では、「反対」が51.2%で最も高く、次いで「どちらかといえば反対」が37.9%となっている。
- 性別にみると、男女ともに「反対」が最も高く（男性48.4%、女性53.3%）、次いで男女ともに「どちらかといえば反対」となっている（男性35.2%、女性40.2%）。
「反対」と「どちらかといえば反対」とを合わせた割合は、男性が83.6%に対し、女性は93.5%と女性のほうが高くなっている。
- 年代別にみると、全体と同じ傾向であるが、18-19歳で「反対」(57.1%)と6割近くが回答している。

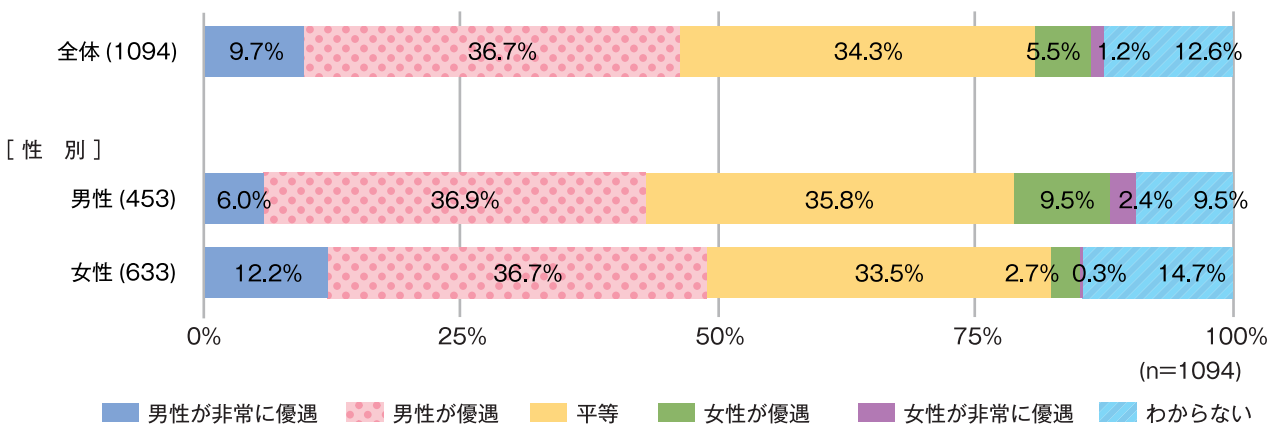
問2. 次のいろいろな分野で男女の意識や地位は平等になっていると思いますか。

(a) 家庭生活では



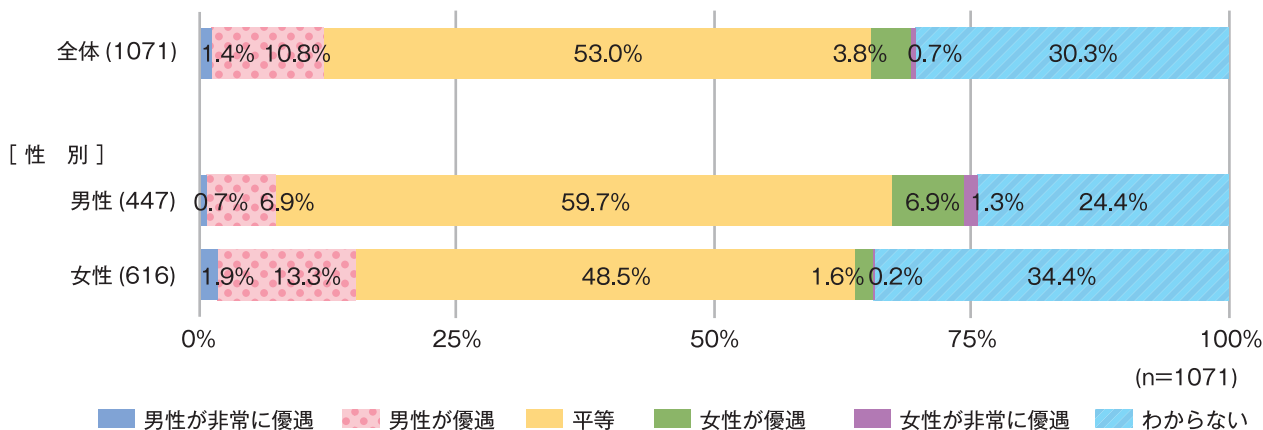
- 全体では、「男性が優遇」が40.2%で最も高く、次いで「平等」が34.8%となっている。
- 性別にみると、男性は「平等」が45.0%と最も高くなっているが、女性は「男性が優遇」が45.3%で最も高くなっており、男女間で認識の差がうかがえる。

(b) 職場では



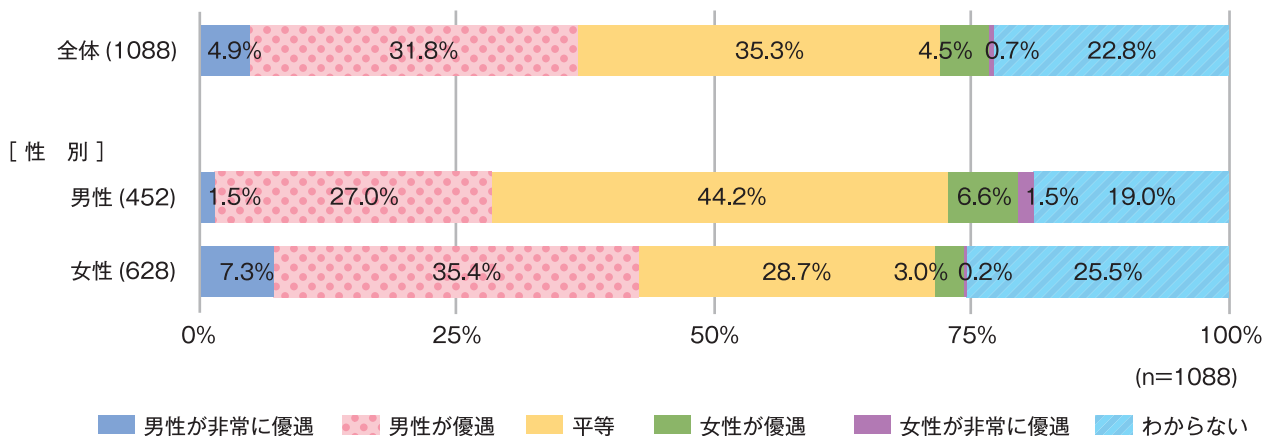
- 全体では、「男性が優遇」が36.7%で最も高く、次いで「平等」が34.3%で僅差となっている。

(c) 学校教育の場では



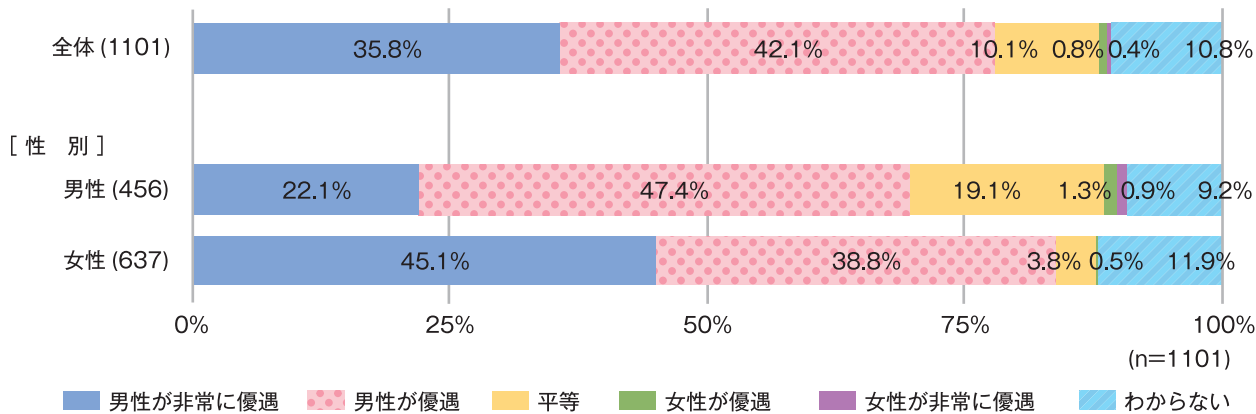
- 全体では、「平等」が53.0%で最も高く、次いで「わからない」が30.3%、「男性が優遇」が10.8%となっている。

(d) 地域活動・社会活動の場では



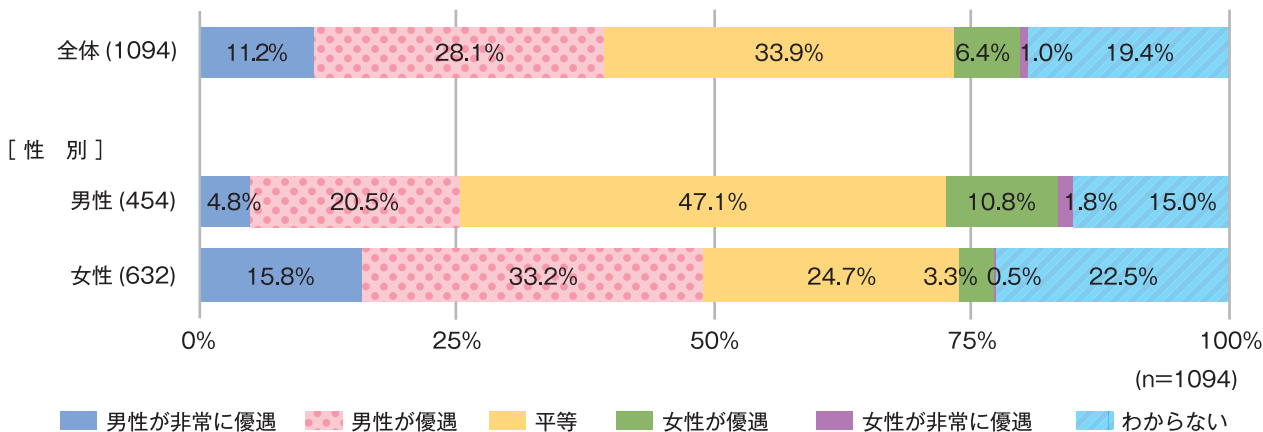
- 全体では、「平等」が35.3%で最も高く、次いで「男性が優遇」が31.8%となっている。
- 性別にみると、男性は「平等」が44.2%と最も高くなっているが、女性は「男性が優遇」が35.4%で最も高くなっており、男女間で認識の差がうかがえる。

(e) 政治の場では



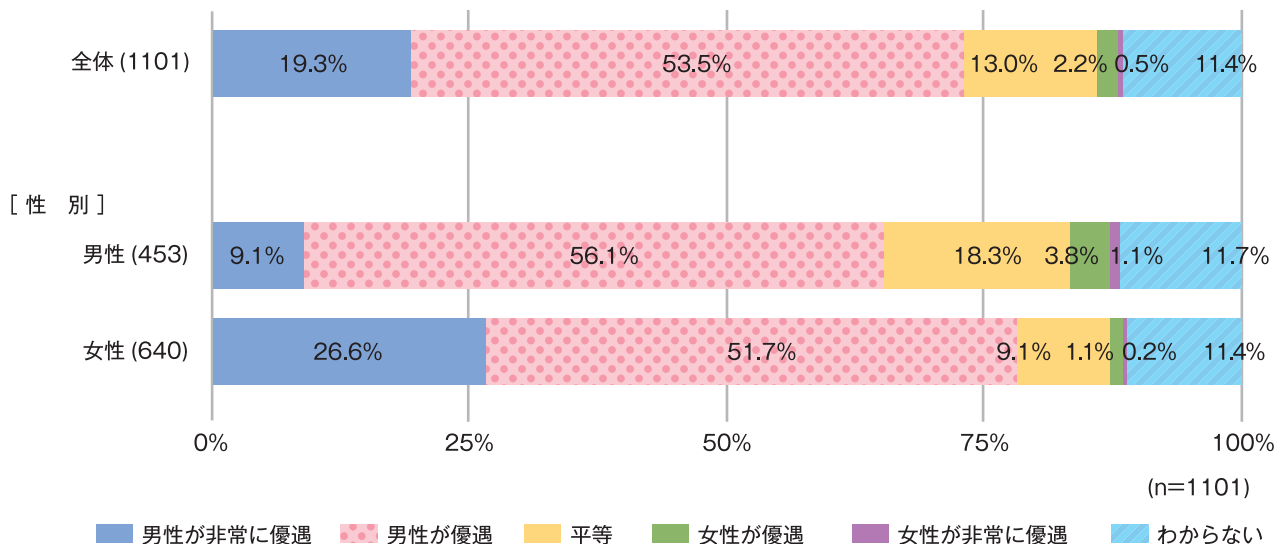
- 全体では、「男性が優遇」が42.1%で最も高く、次いで「男性が非常に優遇」が35.8%となっている。
- 性別にみると、男性は「男性が優遇」が47.4%と最も高くなっているが、女性は「男性が非常に優遇」が45.1%で最も高くなっており、男女間で認識の差がうかがえる。

(f) 法律や制度のうえでは



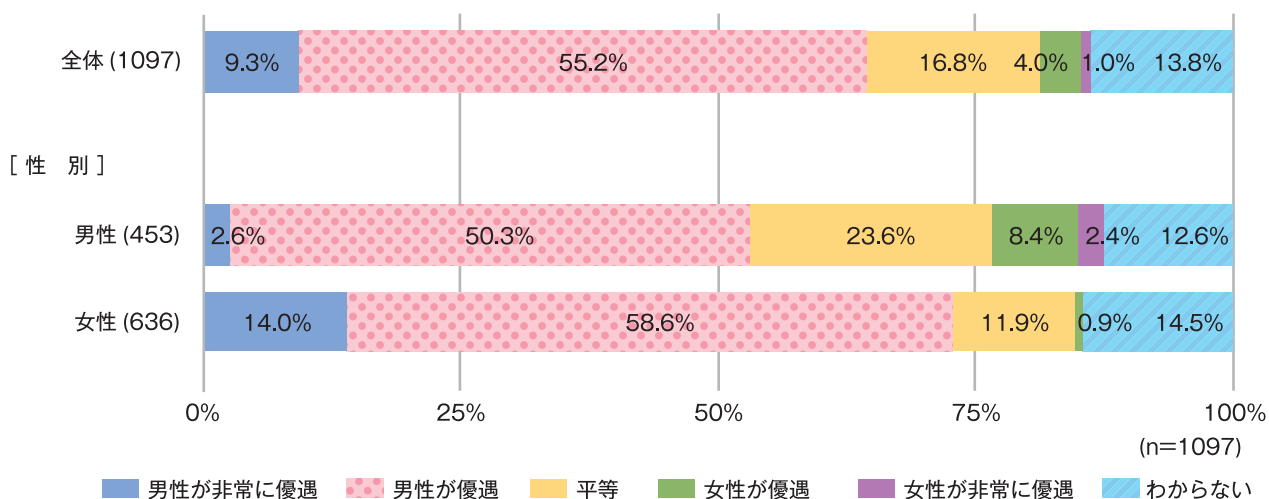
- 全体では、「平等」が33.9%で最も高く、次いで「男性が優遇」が28.1%となっている。
- 性別にみると、男性は「平等」が47.1%と最も高くなっているが、女性は「男性が優遇」が33.2%で最も高くなっており、男女間で認識の差がうかがえる。

(g) 社会の慣習やしきたりなどでは



- 全体では、「男性が優遇」が53.5%で最も高く、次いで「男性が非常に優遇」が19.3%となっている。
- 性別にみると、男女ともに「男性が優遇」が最も高く（男性56.1%、女性51.7%）、次いで男性では「平等」（18.3%）となっているが、女性は「男性が非常に優遇」（26.6%）となっている。
「男性が非常に優遇」と「男性が優遇」とを合わせた割合は、男性が65.2%に対し、女性は78.3%と女性のほうが高くなっている。

(h) 社会全体では

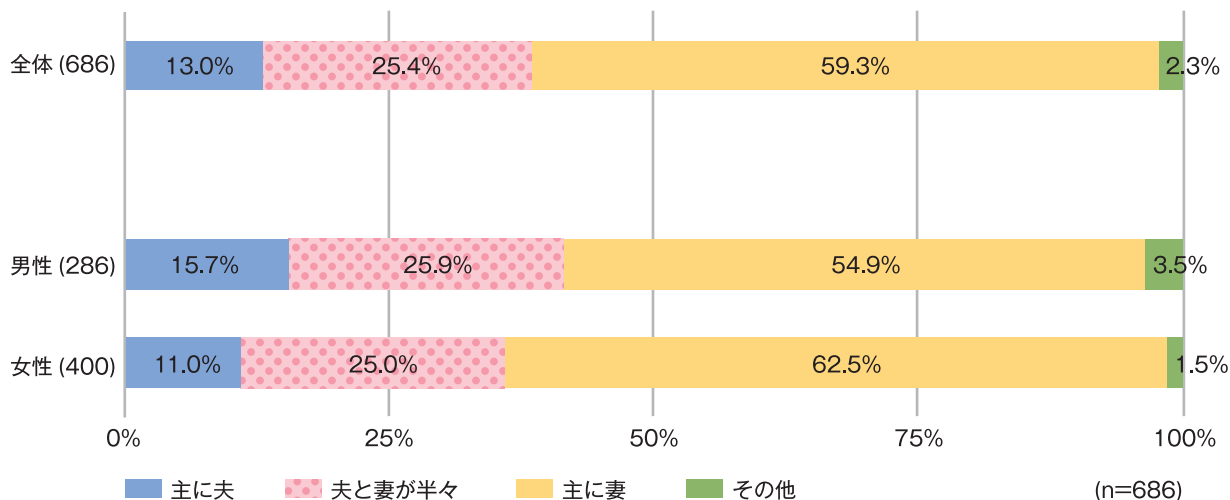


- 全体では、「男性が優遇」が55.2%で最も高く、次いで「平等」が16.8%となっている。
- 性別にみると、男女ともに「男性が優遇」が最も高く（男性50.3%、女性58.6%）、次いで男性では「平等」（23.6%）となっているが、女性は「男性が非常に優遇」（14.0%）となっている。
「男性が非常に優遇」と「男性が優遇」とを合わせた割合は、男性が52.9%に対し、女性は72.6%と女性のほうが高くなっている。

問3. 結婚している方にお聞きします。ご家庭で、次にあげる家事等はどなたが主にしていますか。

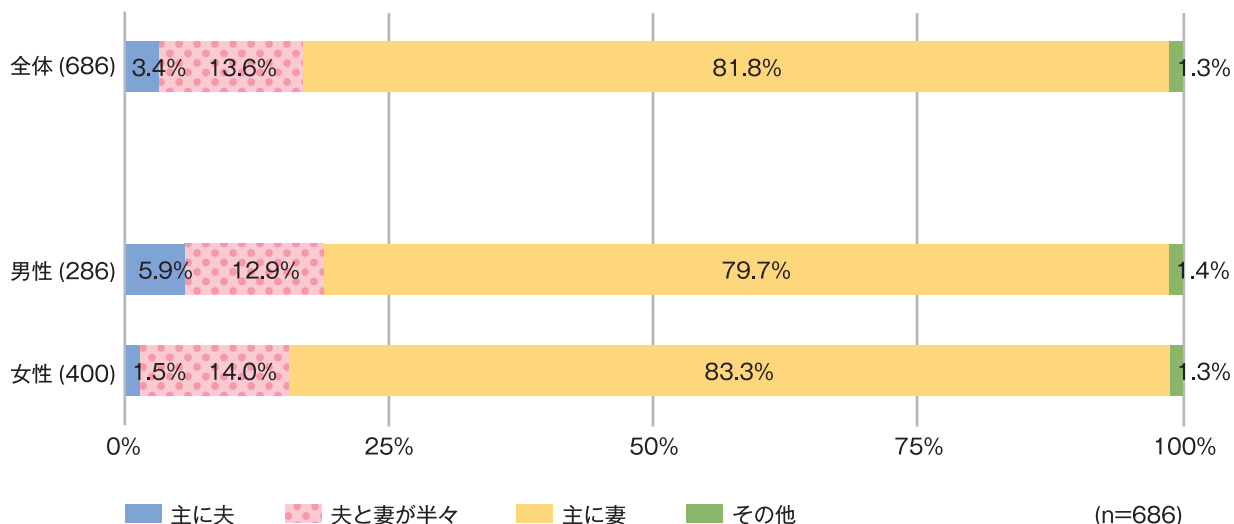
※該当のない項目は「その他」を選択

(a) 家計の管理



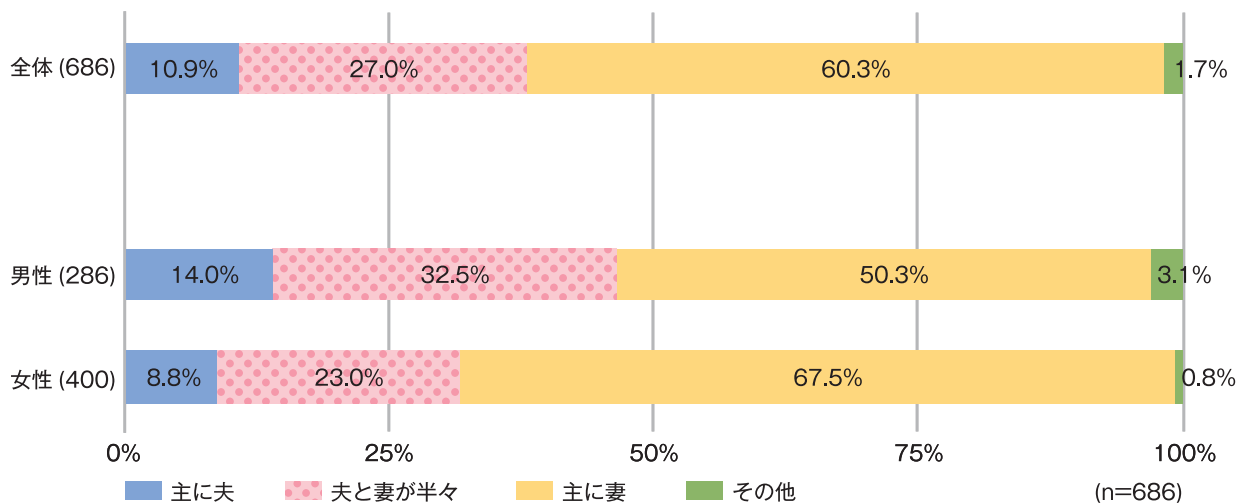
- 全体では、「主に妻」が59.3%で最も高く、次いで「夫と妻が半々」が25.4%となっている。
- 性別にみると、男女ともに「主に妻」が最も高くなっているが、男性の54.9%に対し、女性は62.5%と高くなっている。

(b) 食事のしたく



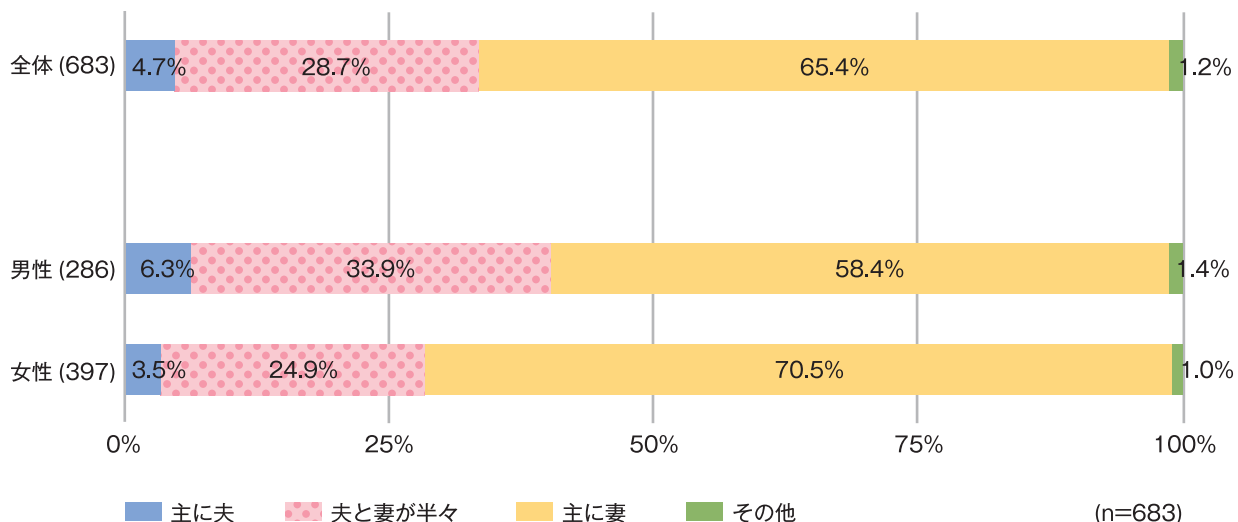
- 全体では、「主に妻」が81.8%で最も高く、大部分を占めている。

(c) 食後の片付け



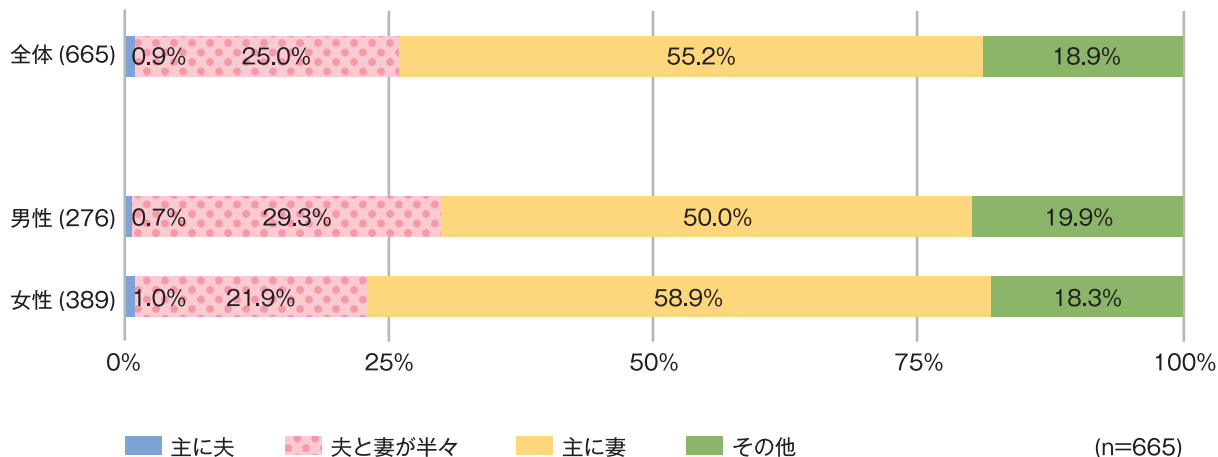
- 全体では、「主に妻」が60.3%で最も高く、次いで「夫と妻が半々」が27.0%となっている。
- 性別にみると、男女ともに「主に妻」が最も高くなっているが、男性の50.3%に対し、女性は67.5%と高くなっている。

(d) 掃除、洗濯



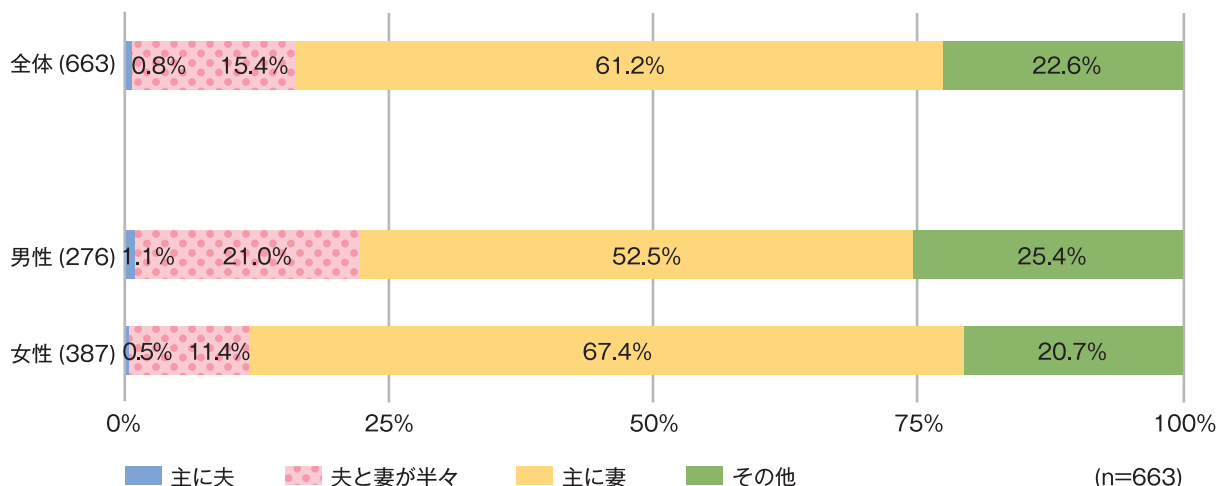
- 全体では、「主に妻」が65.4%で最も高く、次いで「夫と妻が半々」が28.7%となっている。
- 性別にみると、男女ともに「主に妻」が最も高くなっているが、男性の58.4%に対し、女性は70.5%と高くなっている。

(e) 育児、子どもの教育



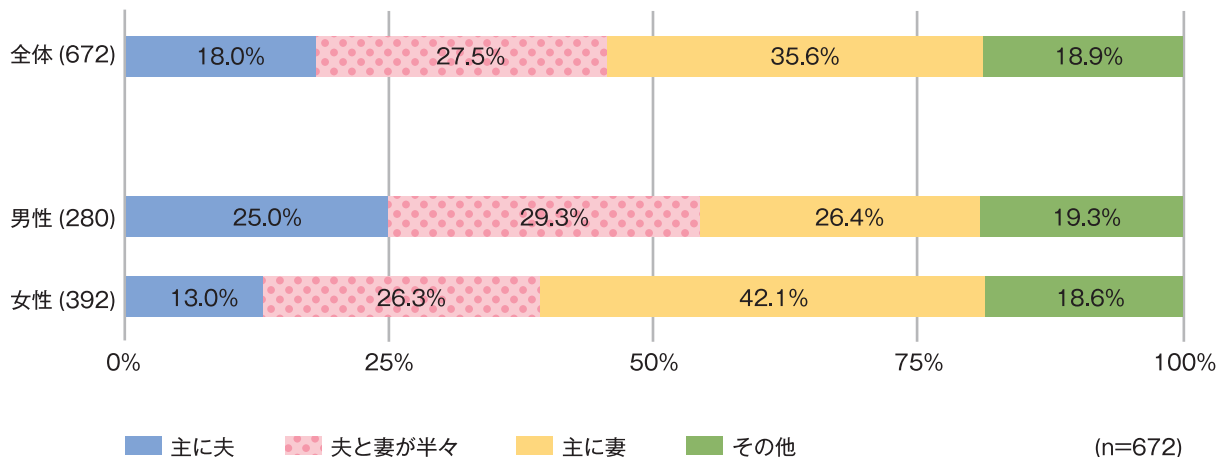
- 全体では、「主に妻」が55.2%で最も高く、次いで「夫と妻が半々」が25.0%となっている。
- 性別にみると、男女ともに「主に妻」が最も高くなっているが、男性の50.0%に対し、女性は58.9%と高くなっている。

(f) 学校行事やPTA行事への参加



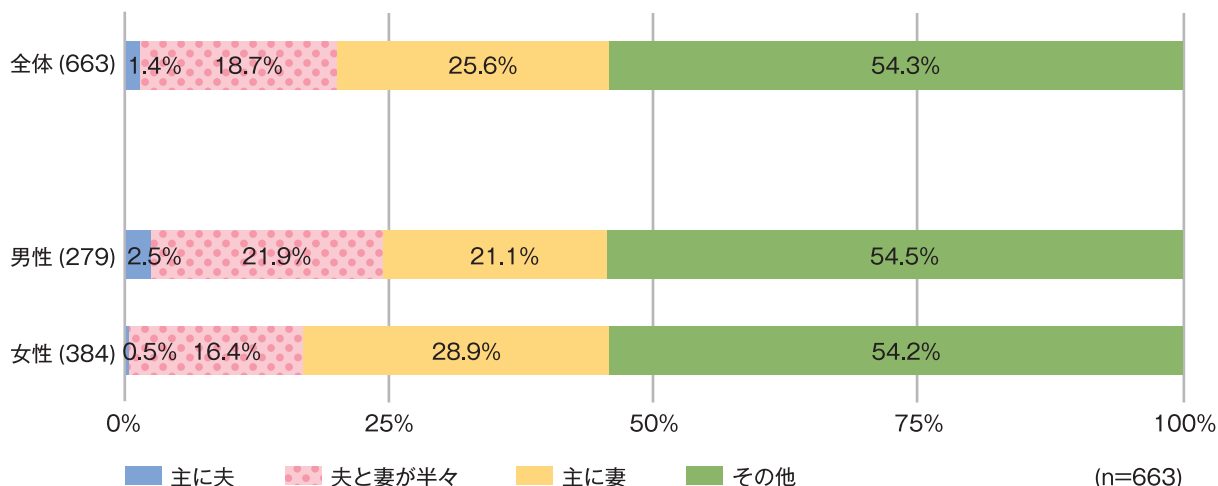
- 全体では、「主に妻」が61.2%で最も高く、過半数を占めている。
- 性別にみると、男女ともに「主に妻」が最も高くなっているが、男性の52.5%に対し、女性は67.4%と高くなっている。

(g) 町内行事等への参加



- 全体では、「主に妻」が35.6%で最も高く、次いで「夫と妻が半々」が27.5%となっている。
- 性別にみると、男性は「夫と妻が半々」が29.3%と最も高く、次いで「主に妻」が26.4%で僅差となっているが、女性は「主に妻」が42.1%で最も高くなっており、男女間で認識の差がうかがえる。

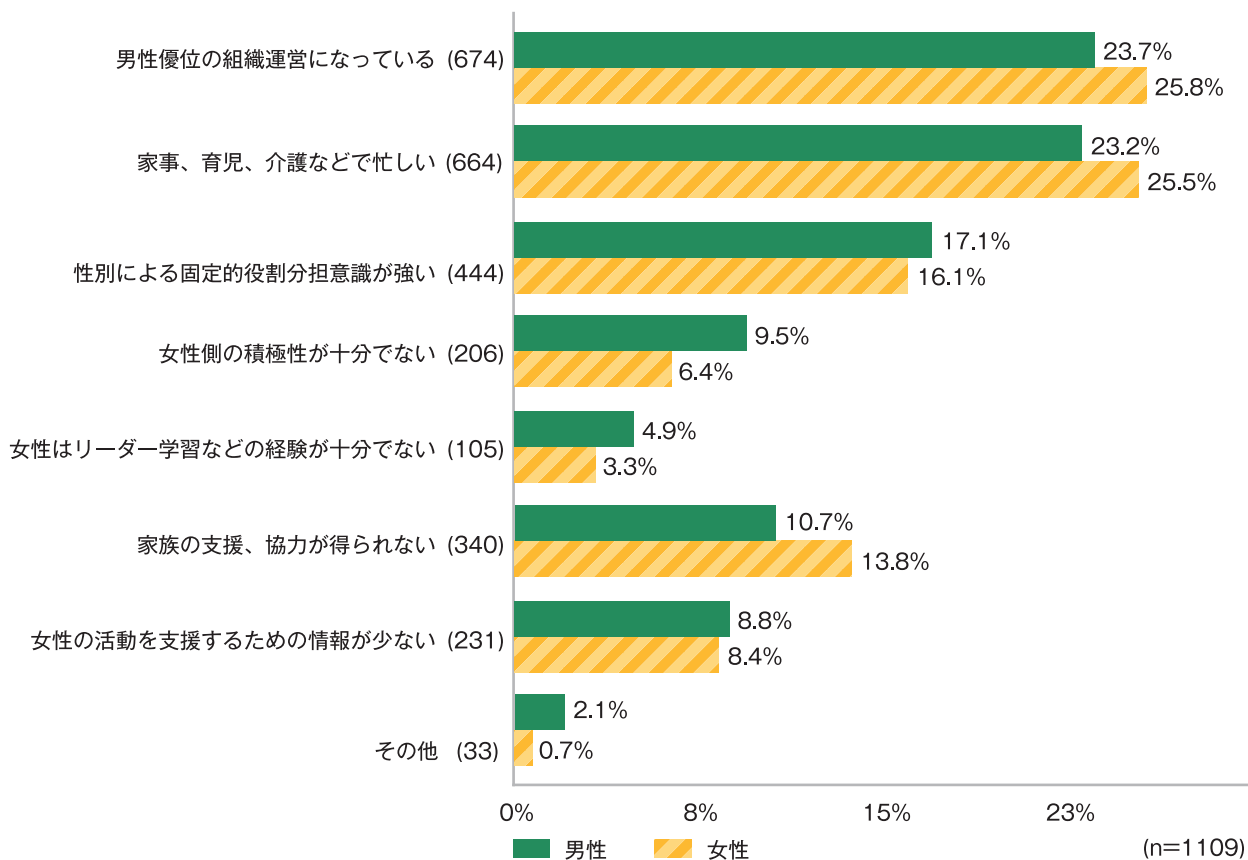
(h) 高齢者の世話、介護



- 全体では、「その他」が54.3%で最も高く、次いで「主に妻」が25.6%となっている。

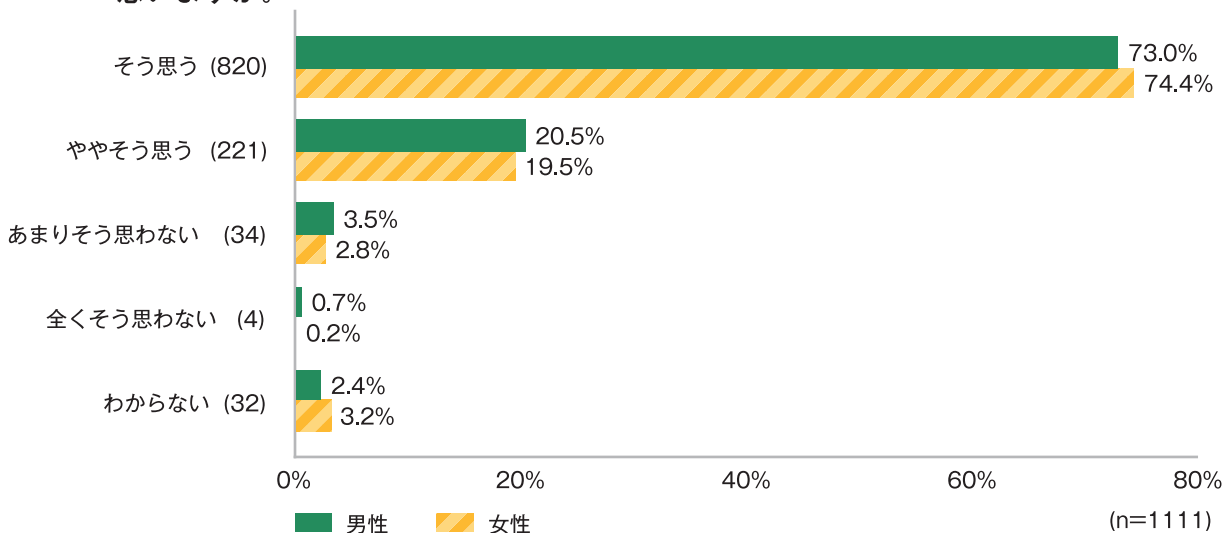
2. 政策・方針決定の場への女性の参画について

問4. 女性の社会進出は進んでいますが、議員、役員・管理職などに女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。(〇は3つまで)



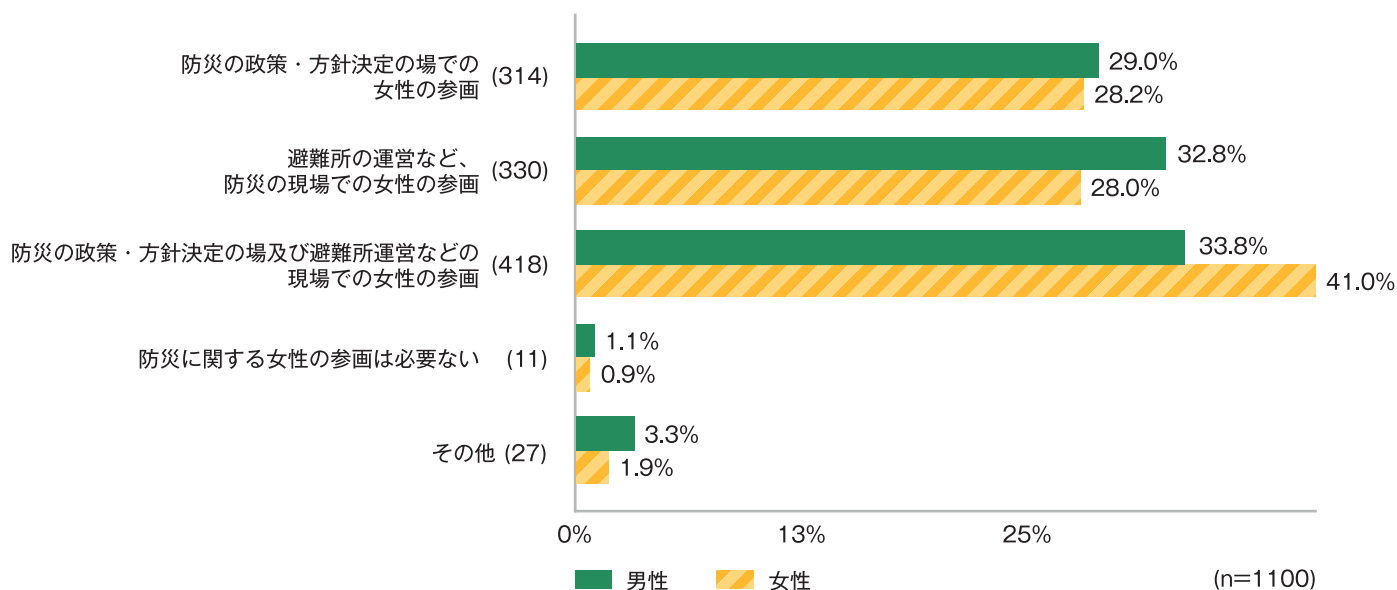
- 男女ともに「男性優位の組織運営になっている」が最も高く(男性23.7%、女性25.8%)、次いで男女ともに「家事、育児、介護などで忙しい」が男性23.2%、女性25.5%で僅差となっている。

問5. 地域や職場での防災活動(避難訓練や備蓄など)について、女性の意見(女性の観点)が必要だと思えますか。



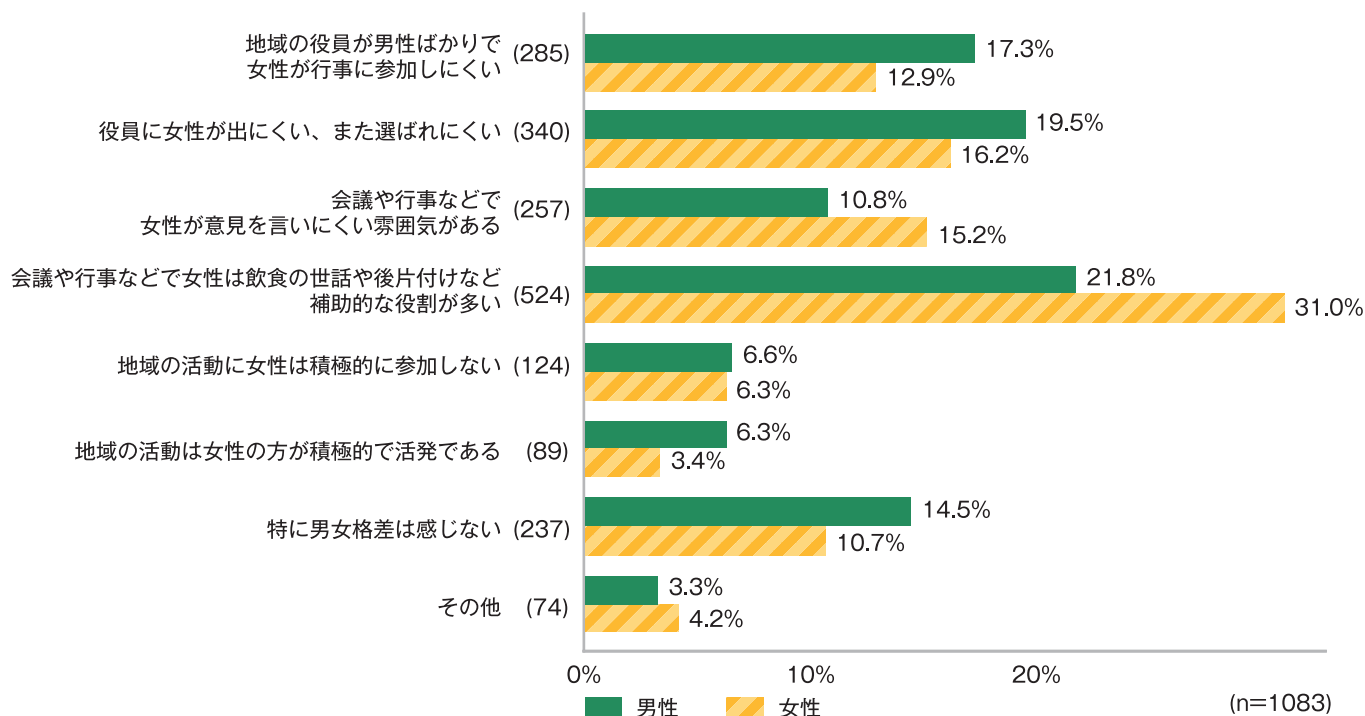
- 男女ともに「そう思う」が最も高くなっており(男性73.0%、女性74.4%)、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は、男女ともに9割を超える。

問6. 防災分野における男女共同参画を進めるため、どのようなことが必要だと思いますか。



- 男女ともに「防災の政策・方針決定の場及び避難所運営などの現場での女性の参画」が最も高くなっているが、男性の33.8%に対し、女性は41.0%と高くなっている。「防災の政策・方針決定の場での女性の参画」、「避難所の運営など、防災の現場での女性の参画」の一方または双方が必要と思う男女の割合は、男性95.6%、女性97.2%で、どちらもかなり高くなっている。

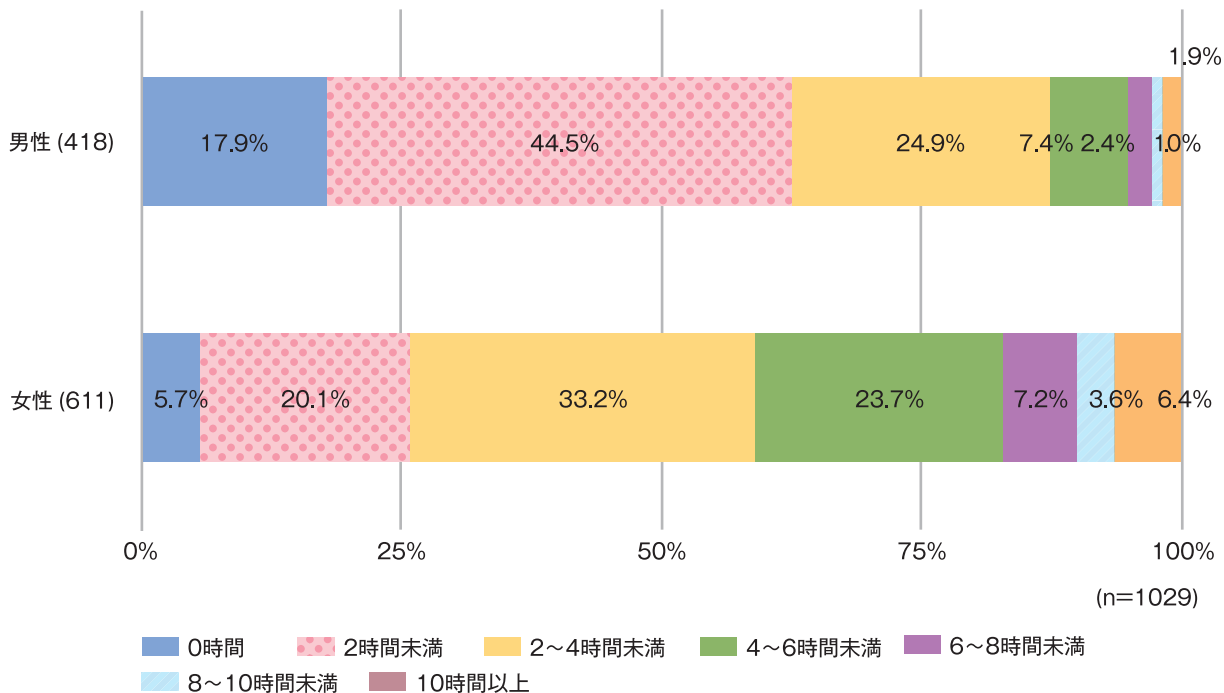
問7. 自治会活動の中での女性の参画について、どう思いますか。(○は3つまで)



- 男女ともに「会議や行事などで女性は飲食の世話や後片付けなど補助的な役割が多い」が最も高くなっているが、男性の21.8%に対し、女性は31.0%と高くなっている。男性は、次いで「役員に女性が出にくい、また選ばれにくい」が19.5%、「地域の役員が男性ばかりで女性が行事に参加しにくい」が17.3%で僅差となっている。女性は、次いで「役員に女性が出にくい、また選ばれにくい」が16.2%、「会議や行事などで女性が意見を言いにくい雰囲気がある」が15.2%となっており、男女間で認識の差がうかがえる。

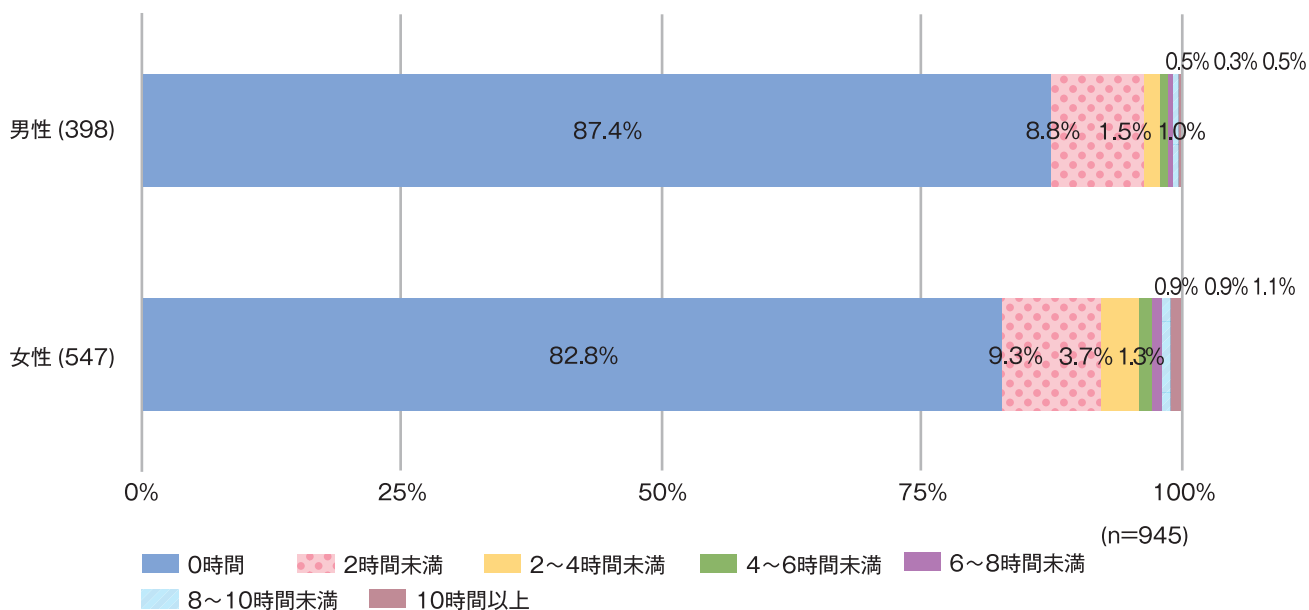
3. 仕事と家庭生活等の両立について

問8. 1日の平均家事・育児時間は何時間ですか。



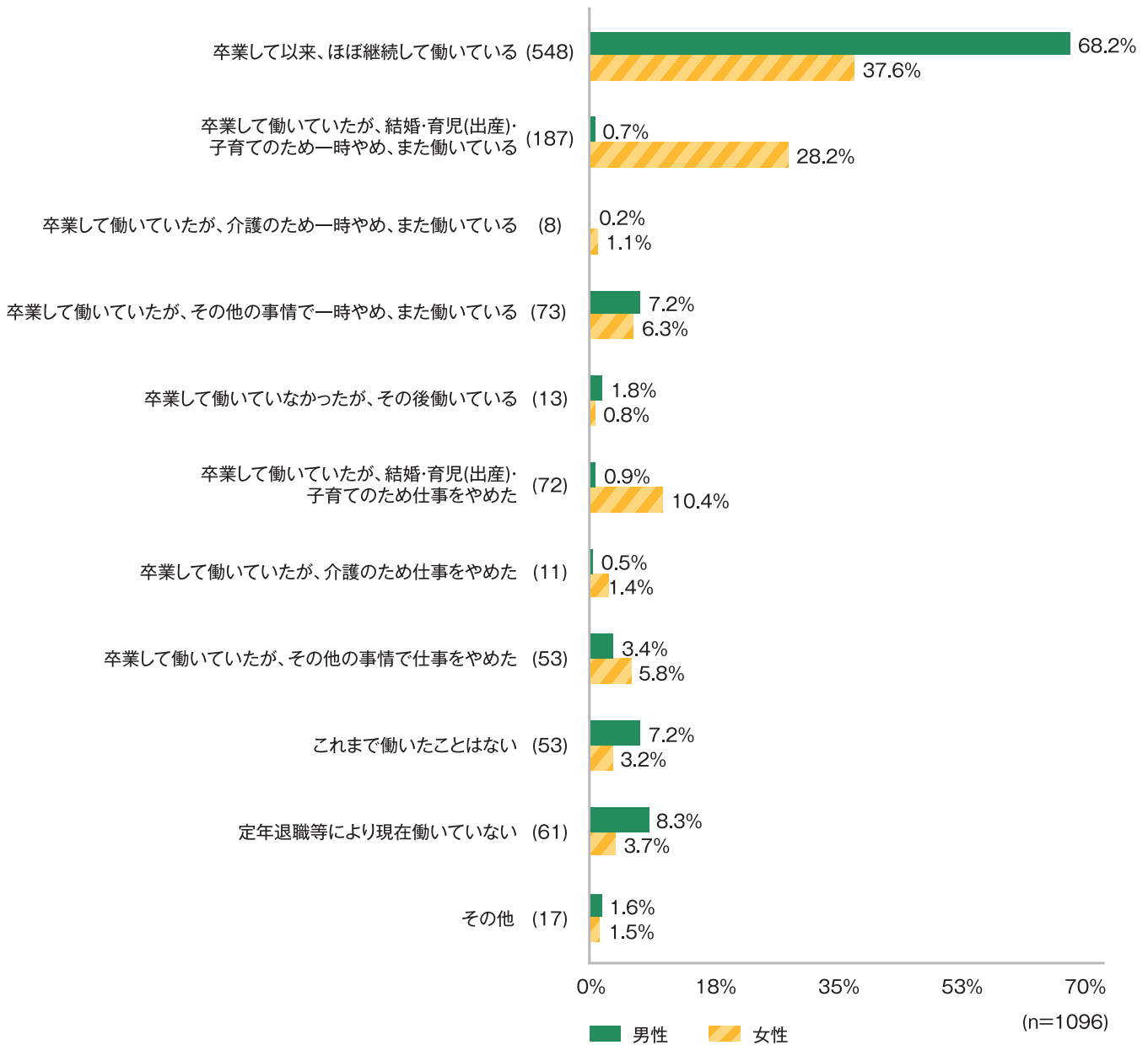
- 男性は「2時間未満」が44.5%と最も高くなっており、次いで「2~4時間未満」が24.9%となっているが、女性は「2~4時間未満」が33.2%で最も高くなっており、次いで「4~6時間未満」が23.7%となっている。
 「0時間」と「2時間未満」とを合わせた割合は、男性が62.4%と過半数を占めているのに対し、女性は25.8%にとどまっている。

問9. 1日の平均介護時間は何時間ですか。



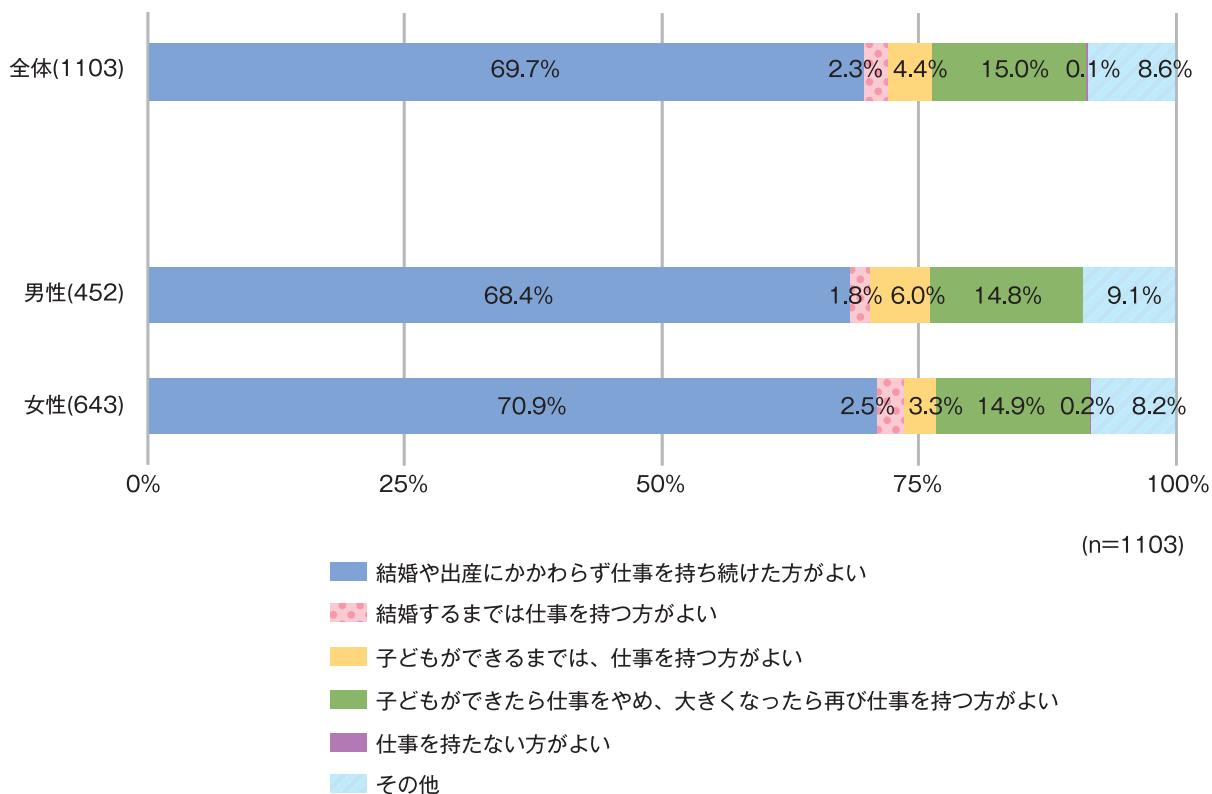
- 男女ともに「0時間」が最も高くなっているが、男性の87.4%に対し、女性は82.8%となっている。
 「0時間」以外を答えた割合では、男性は12.6%に対し、女性は17.2%と女性のほうが高くなっている。

問10. 今までの就職状況は次のどれにあたりますか。



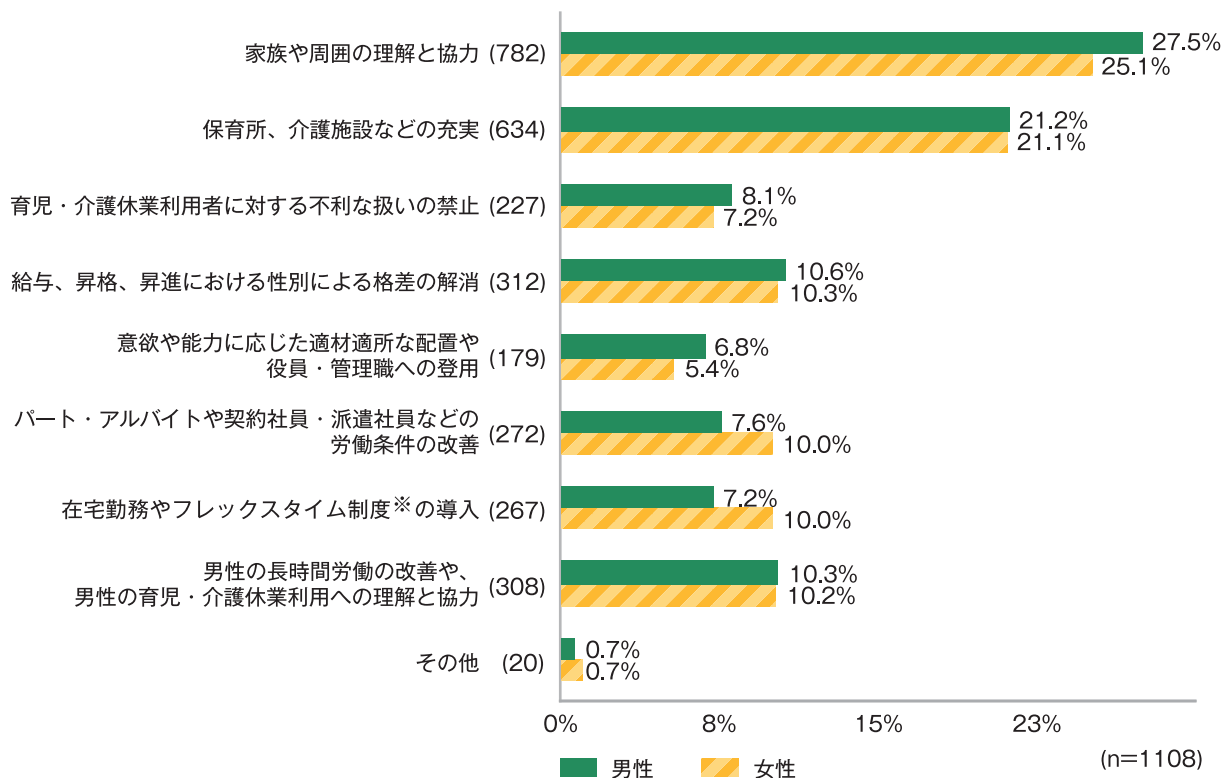
- 男女ともに「卒業して以来、ほぼ継続して働いている」が最も高くなっているが、男性が68.2%と過半数を占めているのに対し、女性は37.6%となっている。
 しかし「卒業して働いていたが、結婚・育児(出産)・子育てのため一時やめ、また働いている」では、女性が28.2%に対し男性は0.7%と極めて低くなっている。

問11. 女性が仕事を持つことについて、どう思いますか。



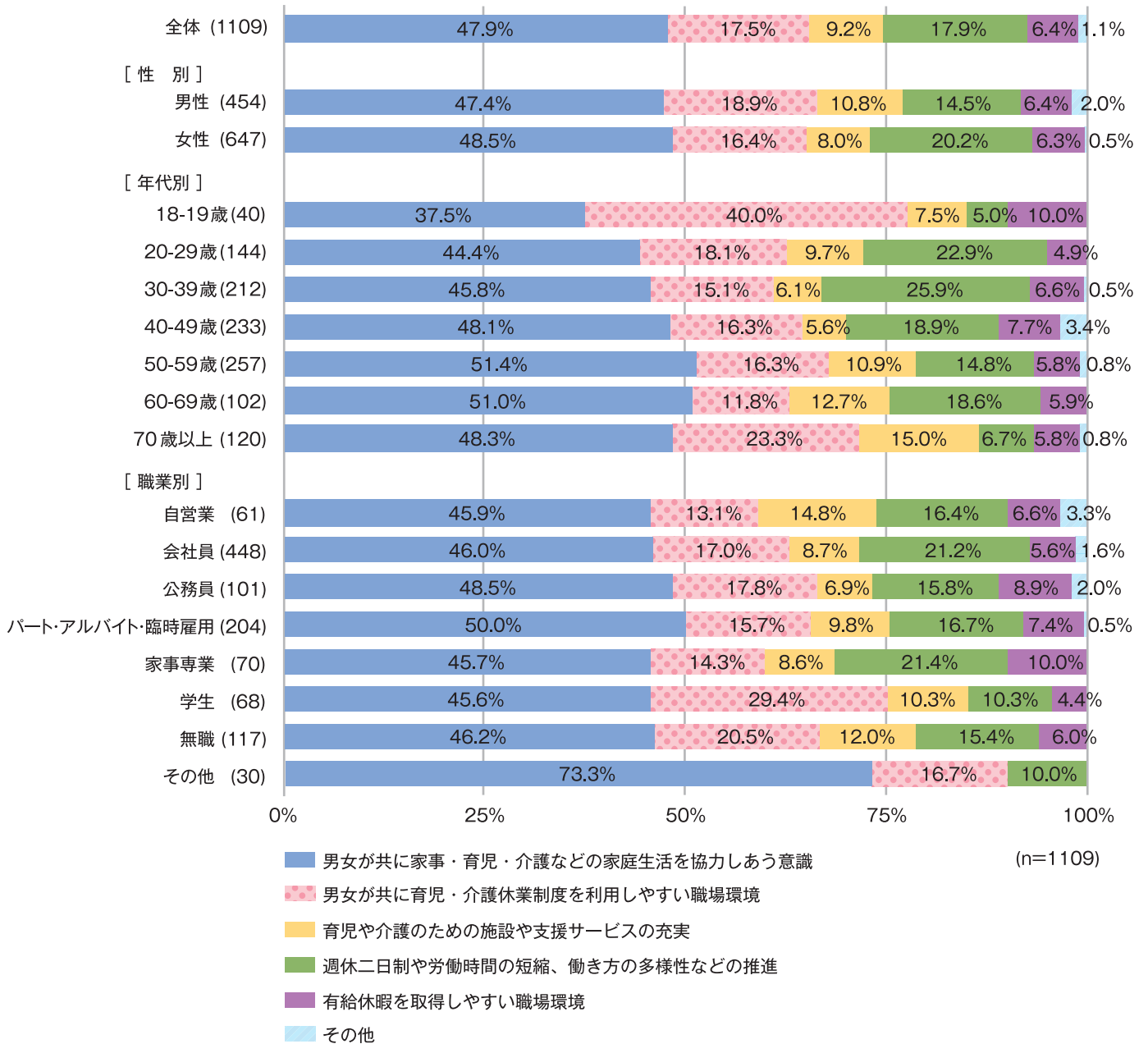
- 全体では、「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」が最も高く、69.7%と過半数を占めており、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が15.0%となっている。

問12. 女性が仕事をもち続けるために必要な支援や対策は何だと思いますか。(○は3つまで)



- 男女ともに「家族や周囲の理解と協力」が最も高く（男性27.5%、女性25.1%）、次いで男女ともに「保育所、介護施設などの充実」となっている（男性21.2%、女性21.1%）。

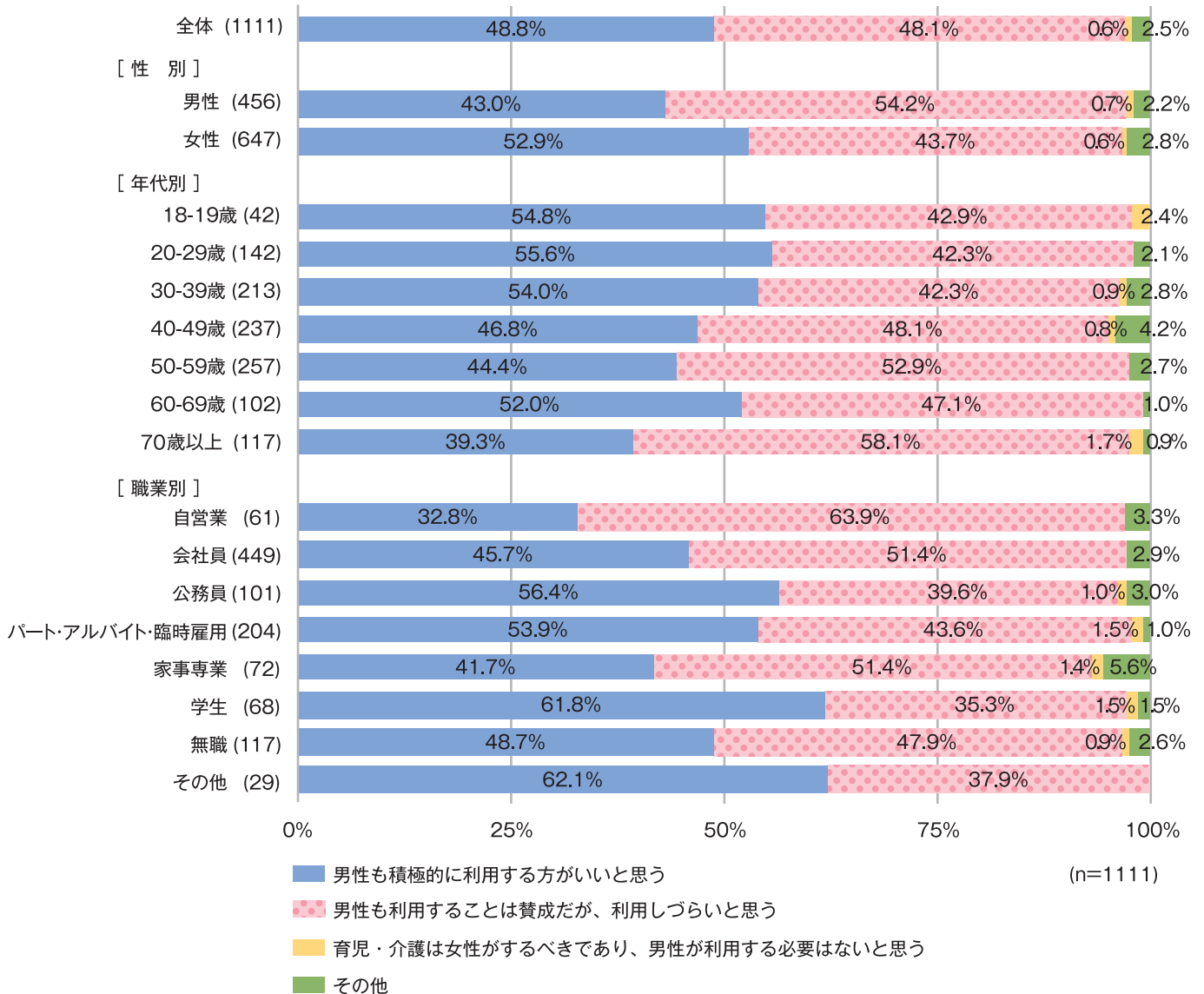
問13. 仕事と家庭生活の両立のために最も必要なことは何だと思いますか。



- 全体では、「男女が共に家事・育児・介護などの家庭生活を協力しあう意識」が47.9%で最も高く、次いで「週休二日制や労働時間の短縮、働き方の多様性などの推進」が17.9%、「男女が共に育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境」が17.5%となっている。
- 性別にみると、男女ともに「男女が共に家事・育児・介護などの家庭生活を協力しあう意識」が最も高く(男性47.4%、女性48.5%)、次いで男性では「男女が共に育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境」(18.9%)となっているが、女性は「週休二日制や労働時間の短縮、働き方の多様性などの推進」(20.2%)となっており、男女間で認識の差がうかがえる。
- 年代別にみると、18-19歳は「男女が共に育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境」が40.0%で最も高いが、その他の年代では「男女が共に家事・育児・介護などの家庭生活を協力しあう意識」が最も高くなっている。
- 職業別にみると、すべての職業区分で「男女が共に家事・育児・介護などの家庭生活を協力しあう意識」が最も高くなっている。

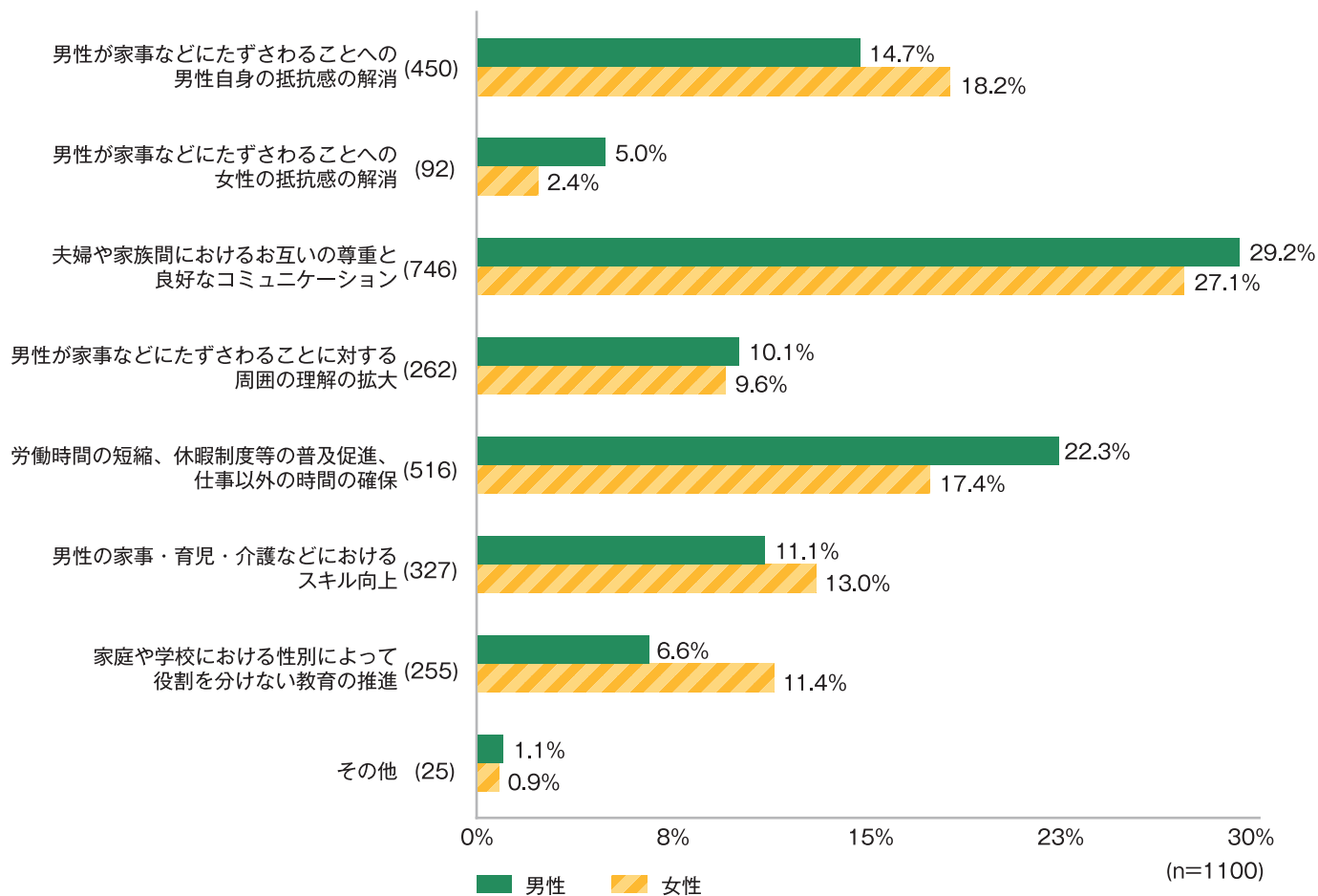
4. 子育て・介護について

問14. 育児・介護休業制度を利用する男性は、まだまだ少ないのが現状です。男性の育児・介護休業制度の利用について、どう思いますか。



- 全体では、「男性も積極的に利用する方がよいと思う」が48.8%で最も高いが、「男性も利用することは賛成だが、利用しづらいと思う」が48.1%で僅差となっている。
- 性別にみると、男性は「男性も利用することは賛成だが、利用しづらいと思う」が54.2%と最も高くなっているが、女性は「男性も積極的に利用する方がよいと思う」が52.9%で最も高くなっており、男女間で認識の差がうかがえる。
- 年代別にみると、18-19歳、20-29歳、30-39歳、60-69歳では「男性も積極的に利用する方がよいと思う」が最も高くなっているが、40-49歳、50-59歳、70歳以上では「男性も利用することは賛成だが、利用しづらいと思う」が最も高くなっている。
- 職業別にみると、多くの職業区分で「男性も積極的に利用する方がよいと思う」が最も高くなっているが、自営業、会社員、家事専業では「男性も利用することは賛成だが、利用しづらいと思う」が最も高くなっている。

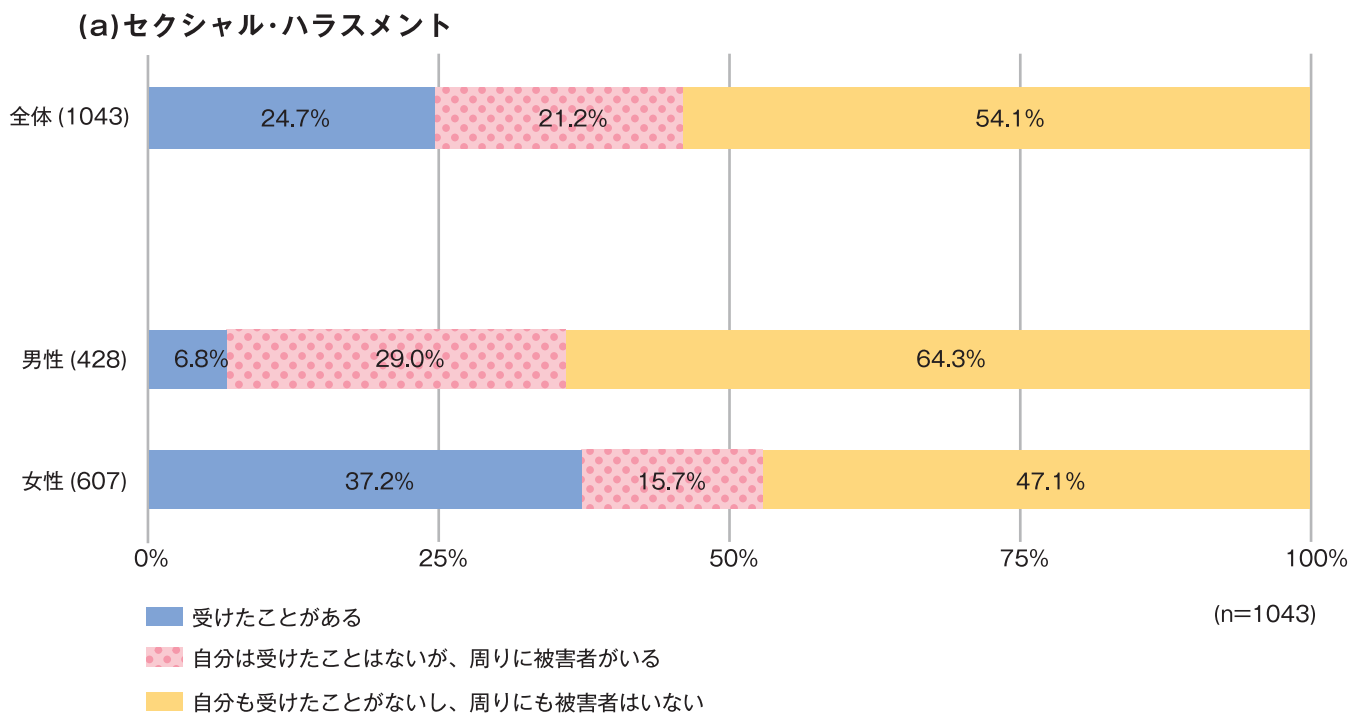
問15. 男女がともに家事・育児・介護に積極的にたずさわっていくためには、何が必要だと思いますか。
(○は3つまで)



- 男女ともに「夫婦や家族間におけるお互いの尊重と良好なコミュニケーション」が最も高く（男性29.2%、女性27.1%）、次いで男性では「労働時間の短縮、休暇制度等の普及促進、仕事以外の時間の確保」（22.3%）となっているが、女性は「男性が家事などにたずさわることへの男性自身の抵抗感の解消」（18.2%）となっている。

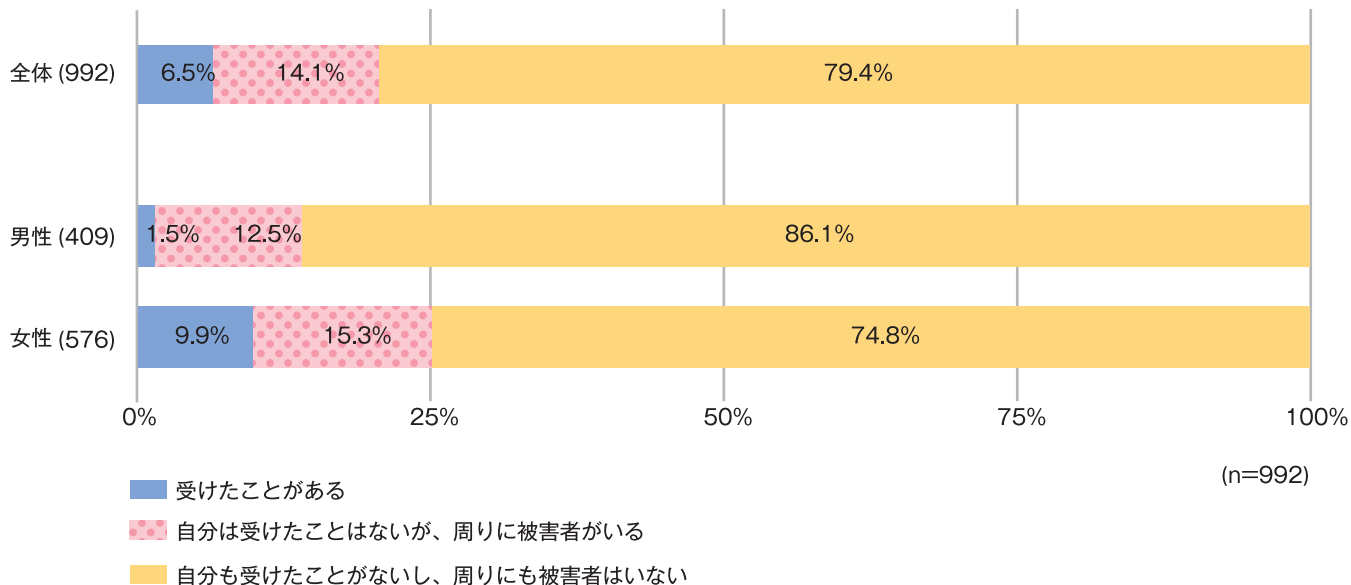
5. ハラスメントについて

問16. あなた自身またはあなたの周りで、次のようなハラスメントを受けた経験のある人はいですか。



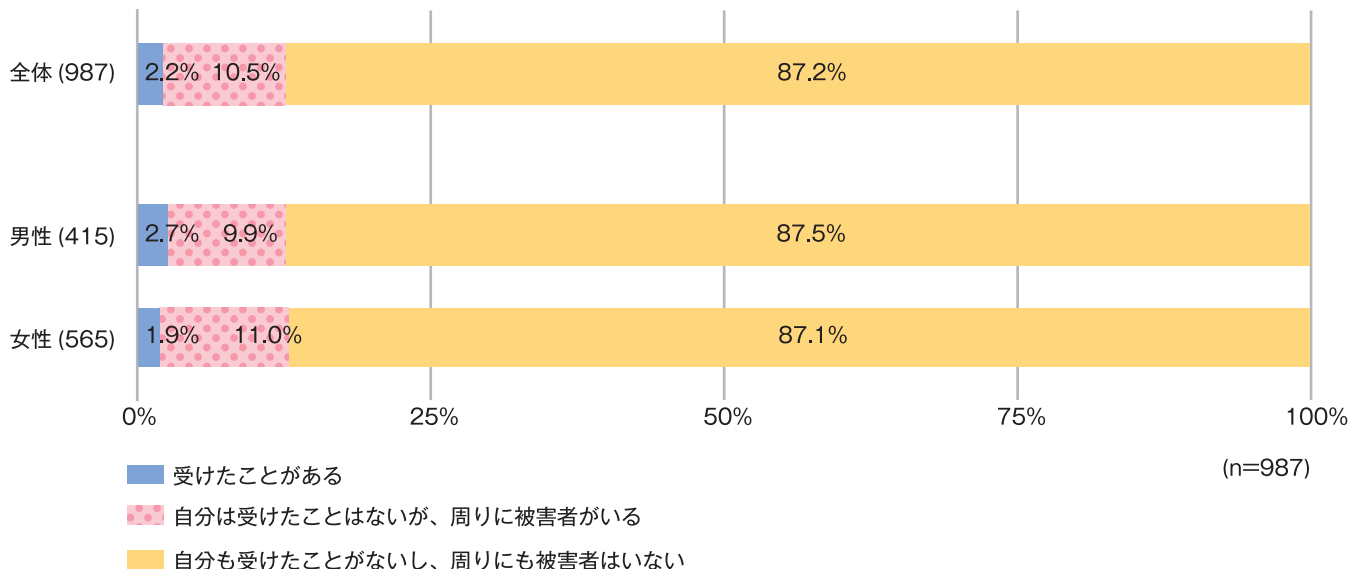
- 全体では、「自分も受けたことがないし、周りにも被害者はいない」が54.1%で最も高く、次いで「受けたことがある」が24.7%となっている。
- 性別にみると、男女ともに「自分も受けたことがないし、周りにも被害者はいない」が最も高い（男性64.3%、女性47.1%）が、「受けたことがある」では、男性6.8%に対し、女性は37.2%と高くなっている。

(b) マタニティ・ハラスメント



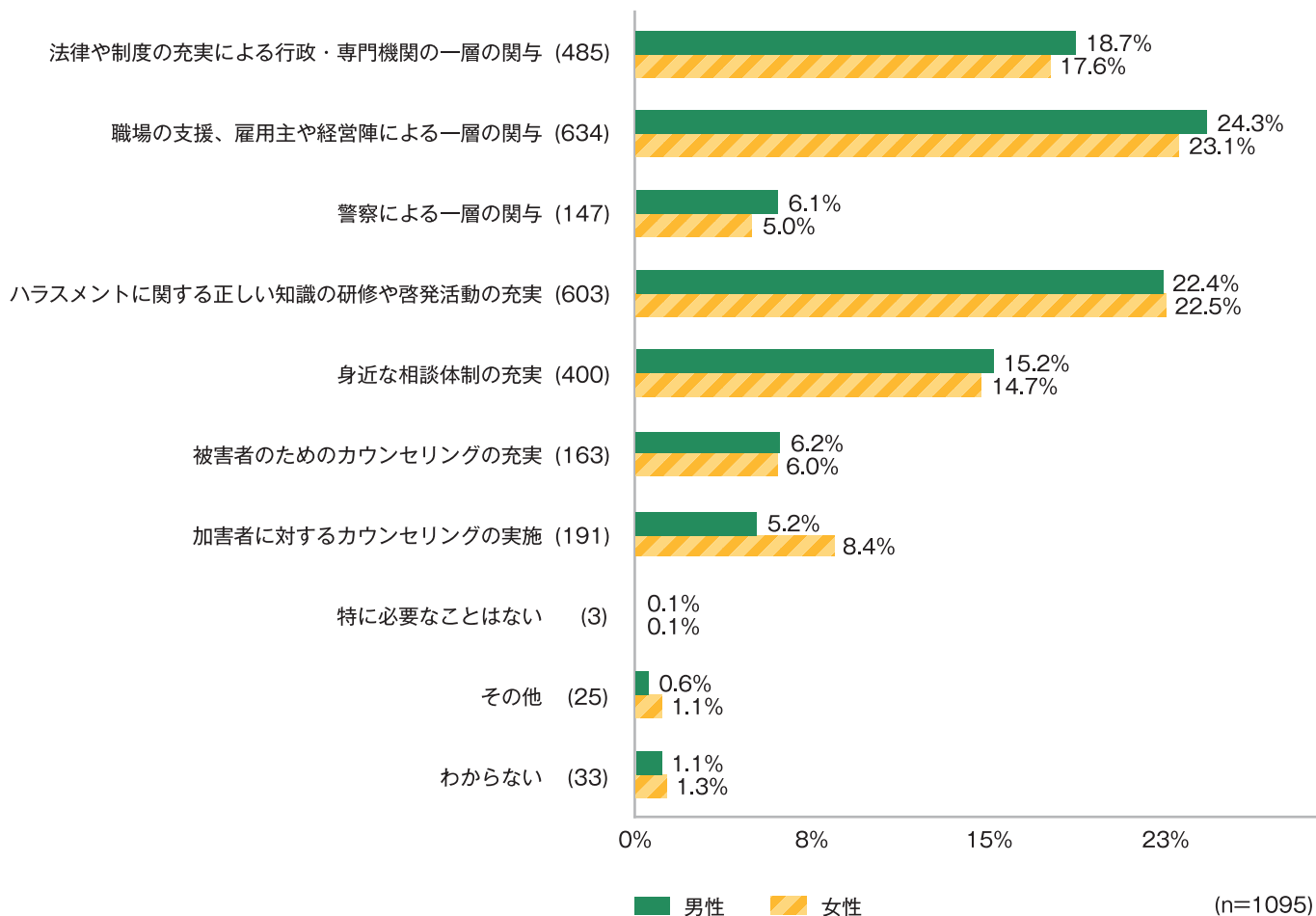
- 全体では、「自分も受けたことがないし、周りにも被害者はいない」が79.4%で最も高く、次いで「自分は受けたことはないが、周りに被害者がいる」が14.1%、「受けたことがある」が6.5%となっている。
- 性別にみると、男女ともに「自分も受けたことがないし、周りにも被害者はいない」が最も高い（男性86.1%、女性74.8%）が、「受けたことがある」では、男性1.5%に対し、女性は9.9%と高くなっている。

(c) パタニティ・ハラスメント



- 全体では、「自分も受けたことがないし、周りにも被害者はいない」が87.2%で最も高く、次いで「自分は受けたことはないが、周りに被害者がいる」が10.5%、「受けたことがある」が2.2%となっている。
- 性別にみると、男女ともに「自分も受けたことがないし、周りにも被害者はいない」が最も高い（男性87.5%、女性87.1%）が、「受けたことがある」では、男性2.7%に対し、女性は1.9%となっている。

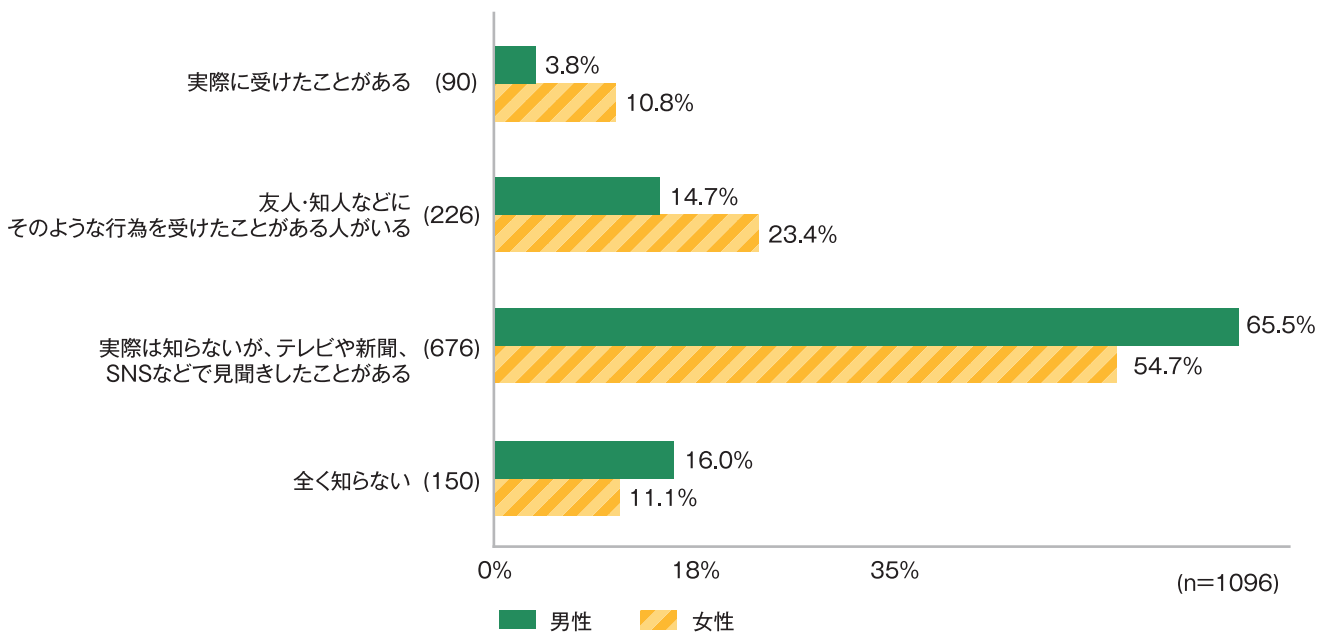
問17. ハラスメントを防止するためには、どのような対策が必要だと思いますか。(〇は3つまで)



- 男女ともに「職場の支援、雇用主や経営陣による一層の関与」が最も高く（男性24.3%、女性23.1%）、次いで「ハラスメントに関する正しい知識の研修や啓発活動の充実」（男性22.4%、女性22.5%）、「法律や制度の充実による行政・専門機関の一層の関与」（男性18.7%、女性17.6%）となっている。

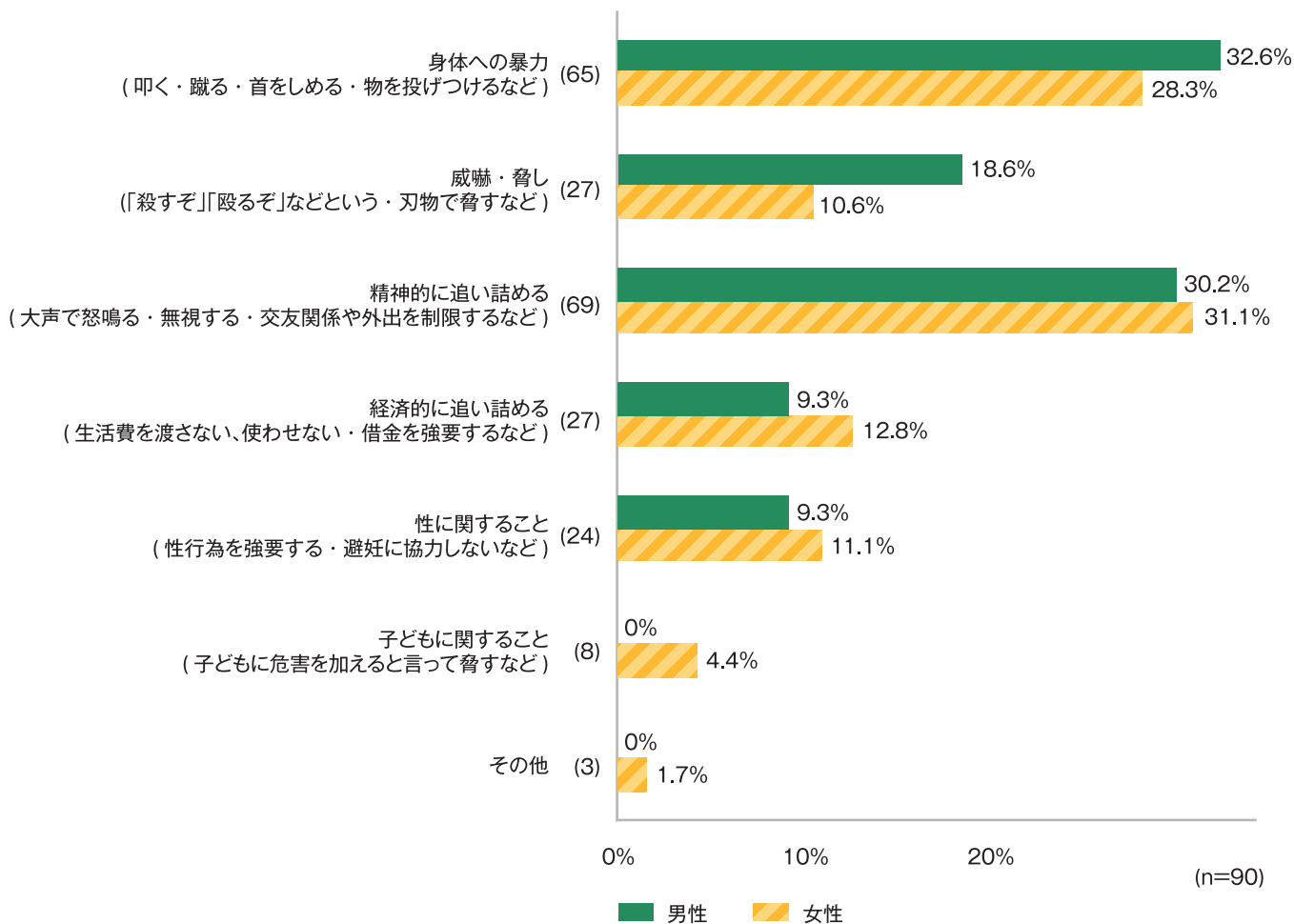
6. ドメスティック・バイオレンス（DV）について

問18. 配偶者等からの暴力について、あなた自身またはあなたの周りで見たり聞いたりしたことがありますか。（○はいくつでも）



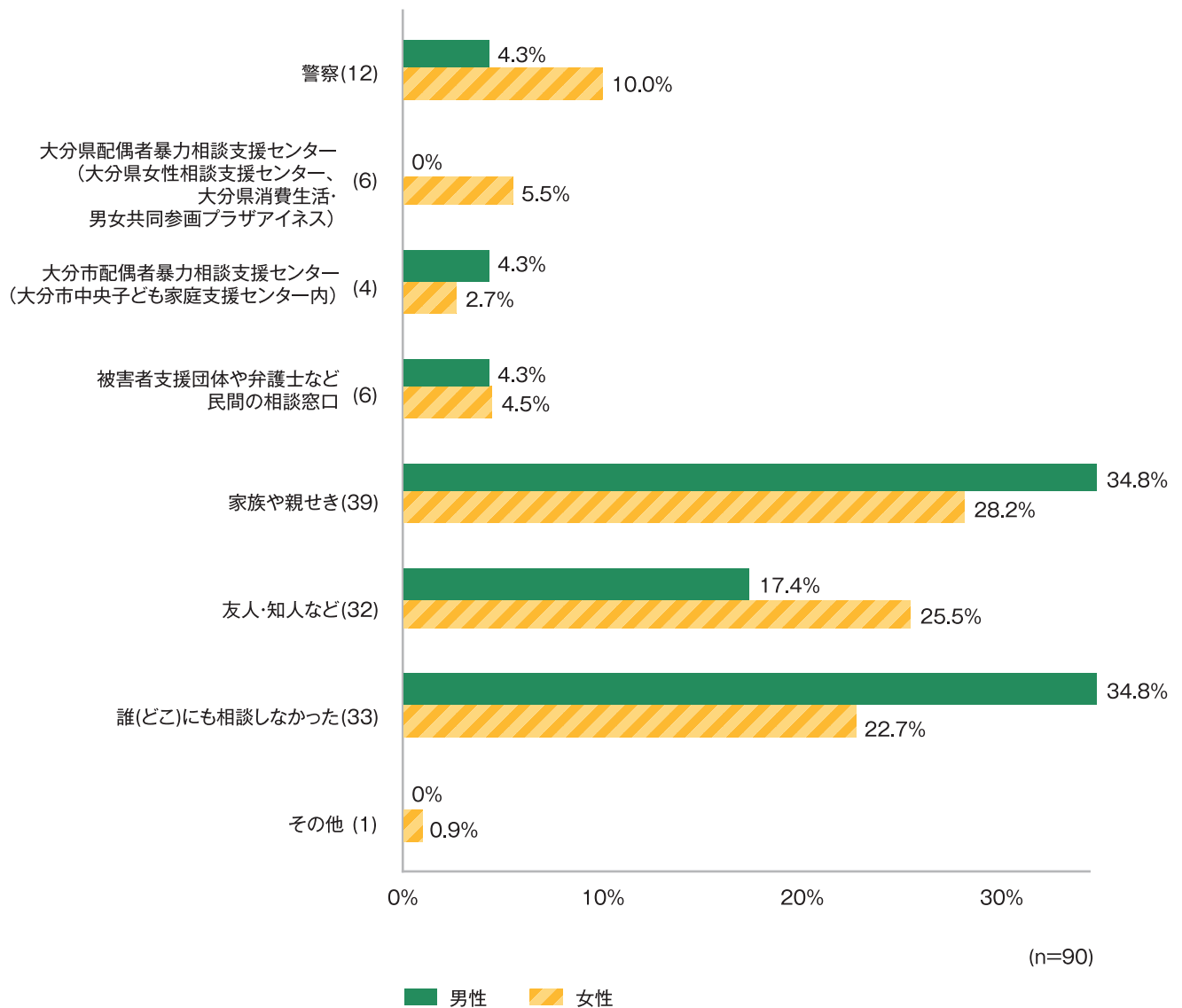
- 男女ともに「実際は知らないが、テレビや新聞、SNSなどで見聞きしたことがある」が最も高く（男性65.5%、女性54.7%）、次いで男性では「全く知らない」（16.0%）、「友人・知人などにそのような行為を受けたことがある人がある」（14.7%）となっているが、女性は「友人・知人などにそのような行為を受けたことがある人がある」（23.4%）、「実際に受けたことがある」（10.8%）となっており、男女間で差異がある。

問19. 問18で「実際に受けたことがある」を選んだ方にお聞きします。それは次のどれにあたりますか。
(○はいくつでも)



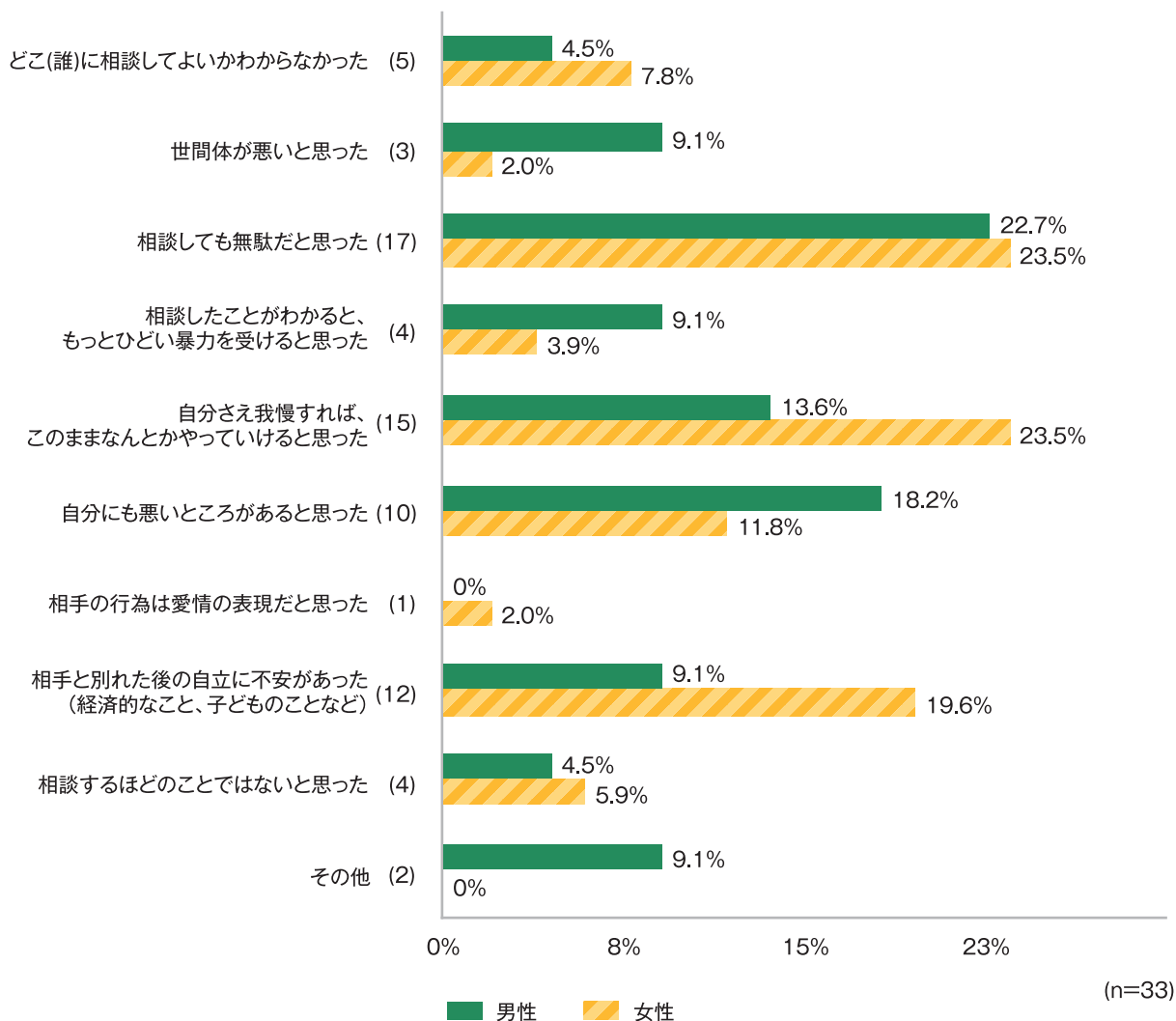
- 男性は「身体への暴力(叩く・蹴る・首をしめる・物を投げつけるなど)」が32.6%と最も高く、次いで「精神的に追い詰める(大声で怒鳴る・無視する・交友関係や外出を制限するなど)」(30.2%)となっている。
女性も「精神的に追い詰める(大声で怒鳴る・無視する・交友関係や外出を制限するなど)」が31.1%で最も高く、次いで「身体への暴力(叩く・蹴る・首をしめる・物を投げつけるなど)」(28.3%)となっており、男女間で差異がある。

問20. 問18で「実際に受けたことがある」を選んだ方にお聞きします。誰か(どこか)に相談しましたか。
(○はいくつでも)



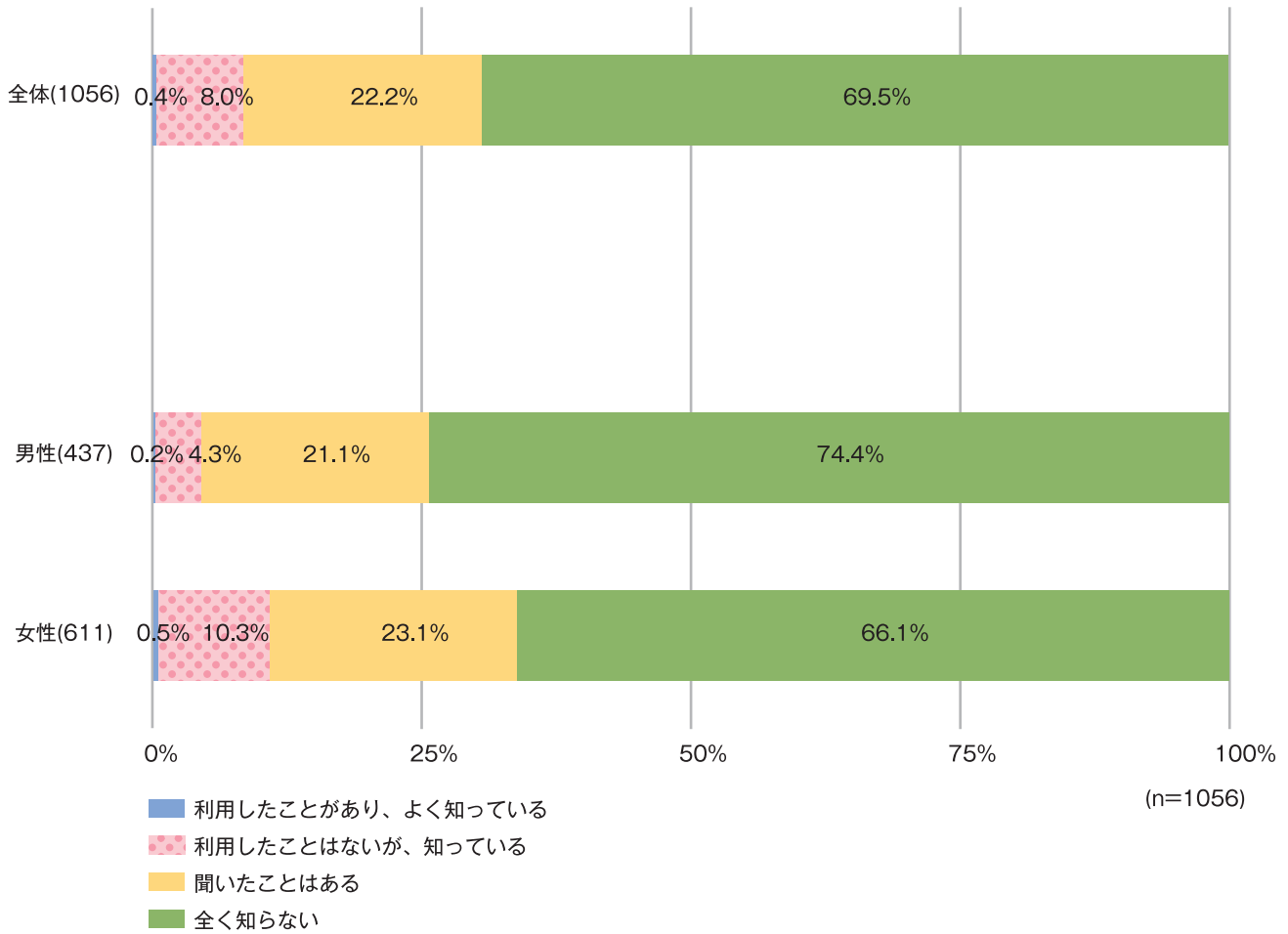
- 男性は「家族や親せき」「誰(どこ)にも相談しなかった」がともに34.8%と最も高く、女性は「家族や親せき」が28.2%と最も高く、次いで「友人・知人など」が25.2%、「誰(どこ)にも相談しなかった」が22.7%となっている。

問21. 問20で「誰(どこ)にも相談しなかった」を選んだ方にお聞きします。その理由は次のどれにあたりますか。(〇はいくつでも)



- 男性は「相談しても無駄だと思った」が22.7%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」18.2%、「自分さえ我慢すれば、このままなんとかやっていけると思った」が13.6%となっている。
 女性は「相談しても無駄だと思った」「自分さえ我慢すれば、このままなんとかやっていけると思った」がともに23.5%と最も高く、次いで「相手と別れた後の自立に不安があった(経済的なこと、子どものことなど)」が19.6%で僅差となっており、男女間で認識の差がうかがえる。

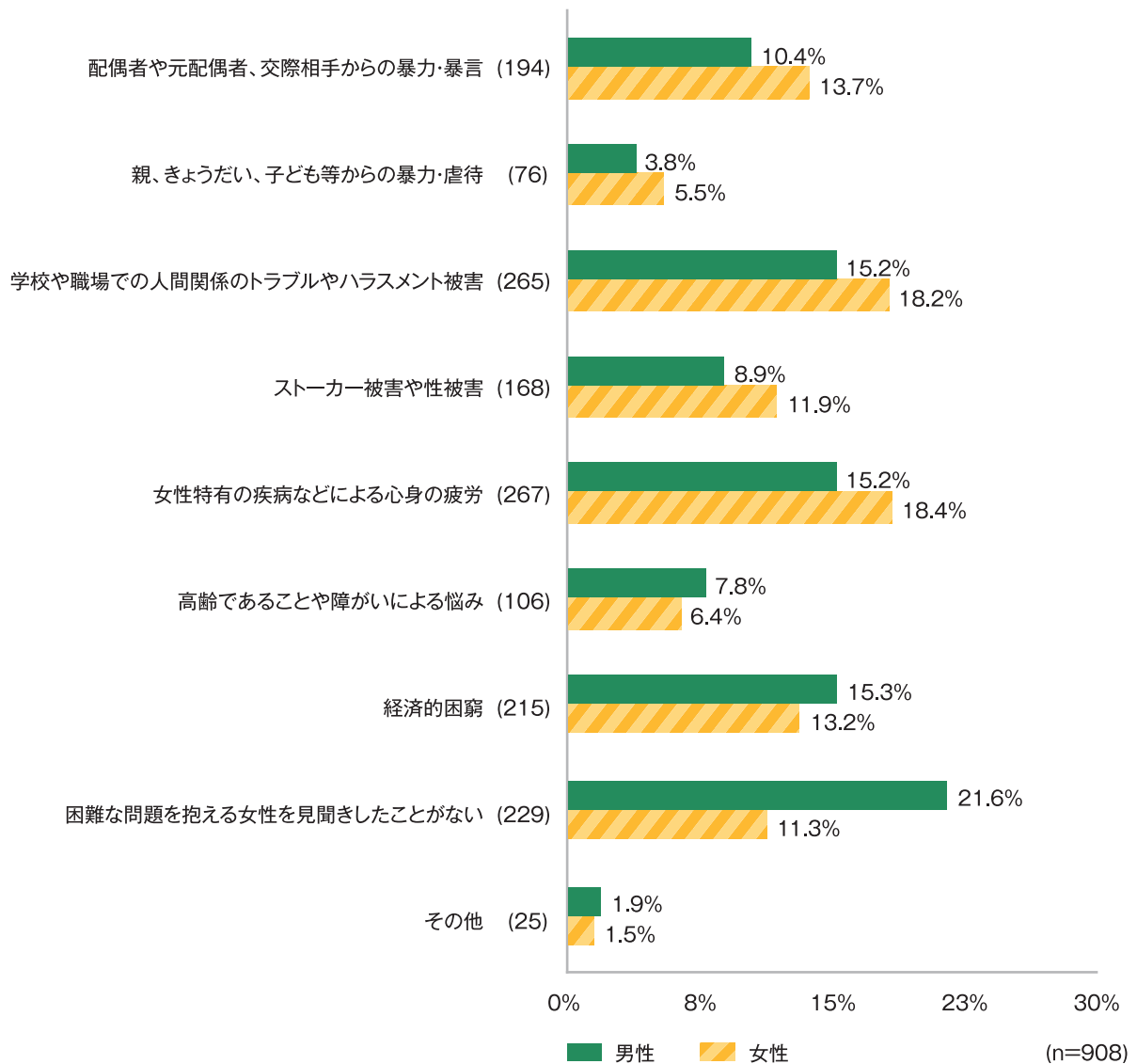
問22. 大分市配偶者暴力相談支援センターをご存じですか。



- 全体では、「全く知らない」が69.5%で最も高く、次いで「聞いたことはある」が22.2%となっている。

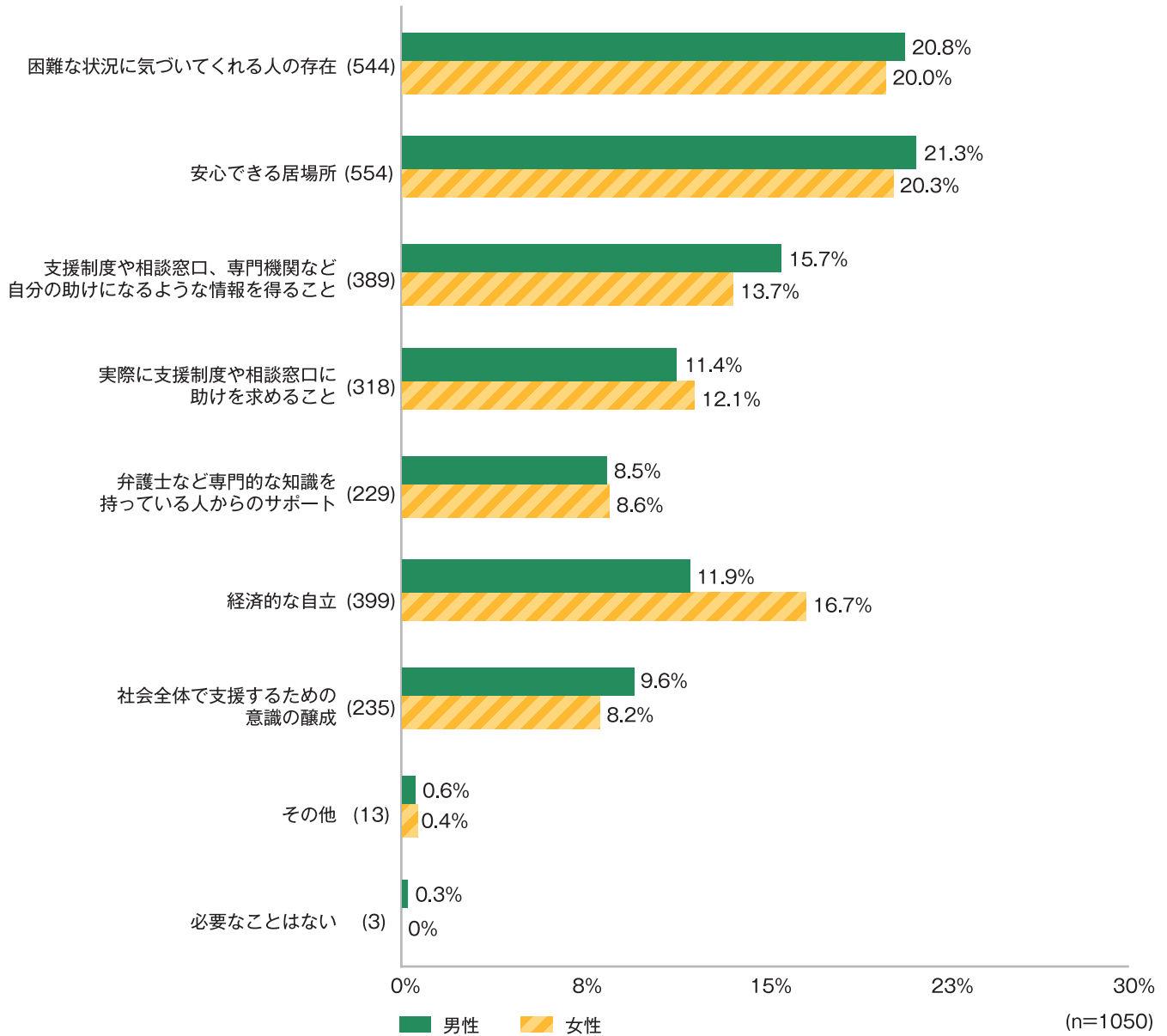
7. 困難な問題を抱える女性について

問23. あなた自身、もしくは身近な女性で、女性であることを理由として困難な問題を経験したり、見たり聞いたりしたことがありますか。(○はいくつでも)



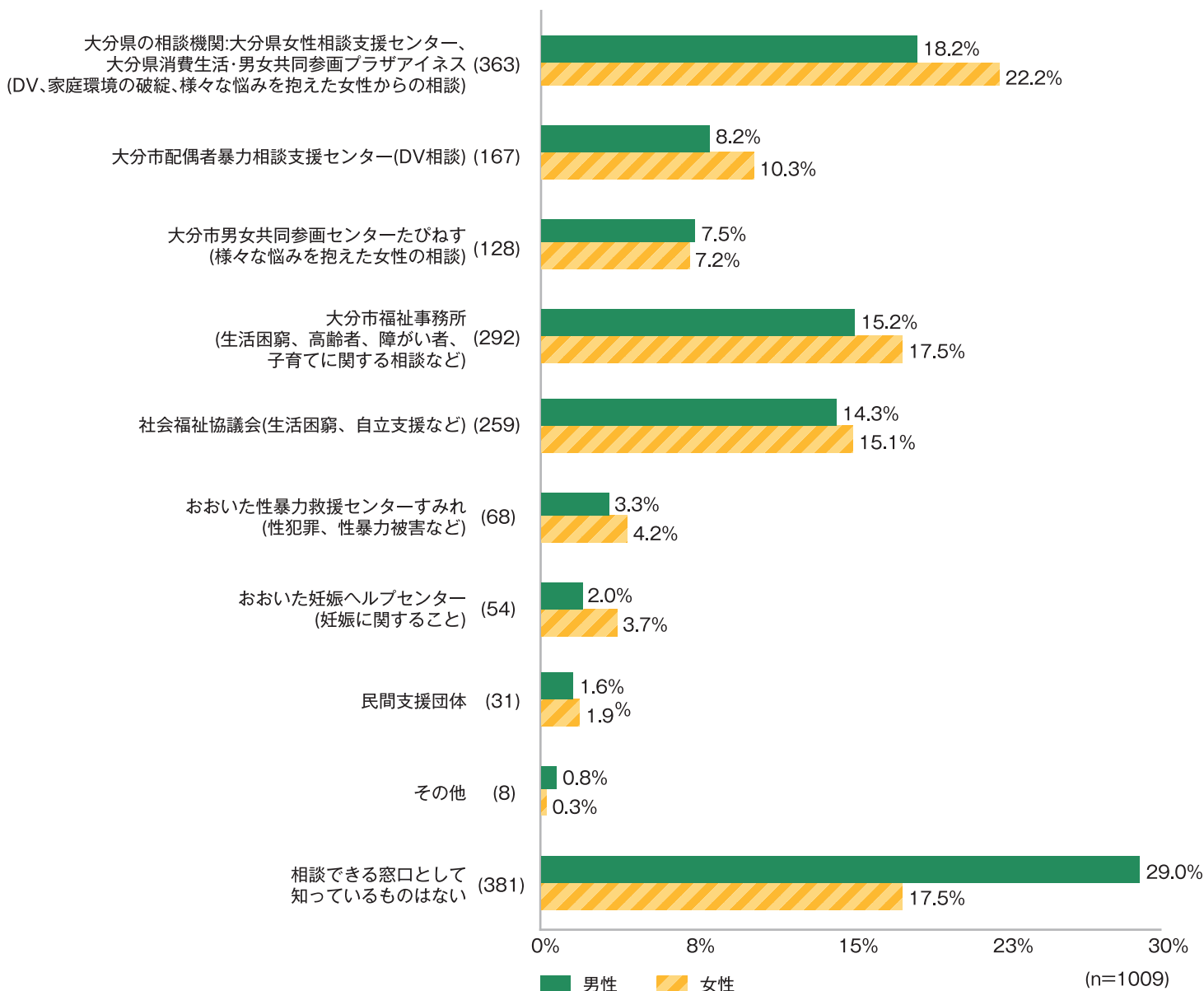
- 男性は「困難な問題を抱える女性を見聞きしたことがない」が21.6%と最も高く、次いで「経済的困窮」が15.3%となっているが、女性は「女性特有の疾病などによる心身の疲労」が18.4%と最も高く、次いで「学校や職場での人間関係のトラブルやハラスメント被害」が18.2%で僅差となっている。

問24. 女性が困難な状況から回復するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
 (特に必要だと思うものを3つまで○)



- 男女ともに「安心できる居場所」が最も高く(男性21.3%、女性20.3%)、次いで男女ともに「困難な状況に気づいてくれる人の存在」(男性20.8%、女性20.0%)で僅差となっている。

問25. 生活困窮、性暴力被害、DVなど、困難な問題を抱える女性が相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。(〇はいくつでも)

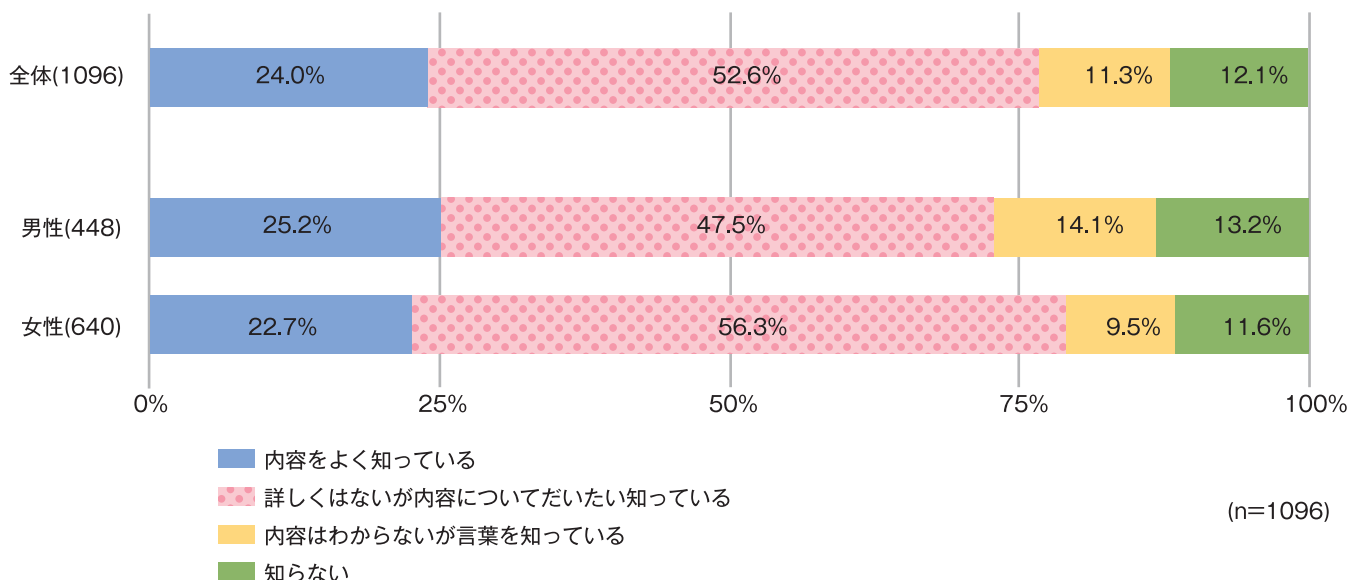


- 男性は「相談できる窓口として知っているものはない」が29.0%で最も高く、次いで「大分県の相談機関:大分県女性相談支援センター、大分県消費生活・男女共同参画プラザアイネス(DV、家庭環境の破綻、様々な悩みを抱えた女性からの相談)」が18.2%、「大分市福祉事務所(生活困窮、高齢者、障がい者、子育てに関する相談など)」が15.2%となっている。
女性は「大分県の相談機関:大分県女性相談支援センター、大分県消費生活・男女共同参画プラザアイネス(DV、家庭環境の破綻、様々な悩みを抱えた女性からの相談)」が22.2%と最も高く、次いで「大分市福祉事務所(生活困窮、高齢者、障がい者、子育てに関する相談など)」「相談できる窓口として知っているものはない」がともに17.5%となっている。

8. 性的マイノリティについて

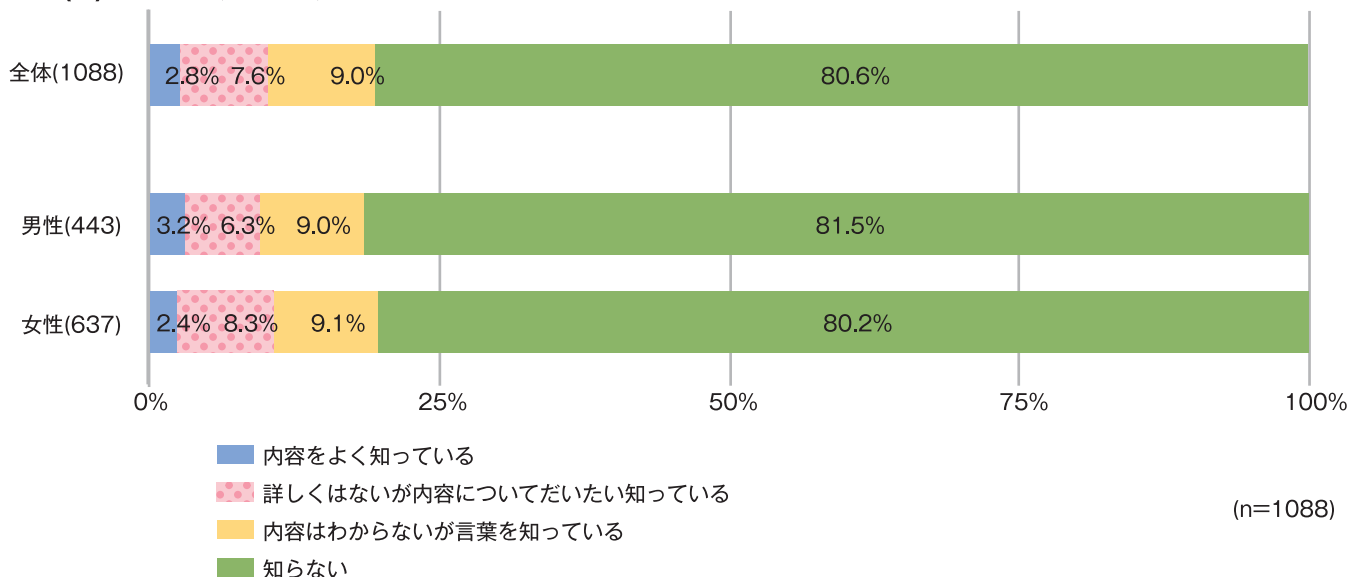
問26. 次の言葉について知っていますか。

(a)LGBT



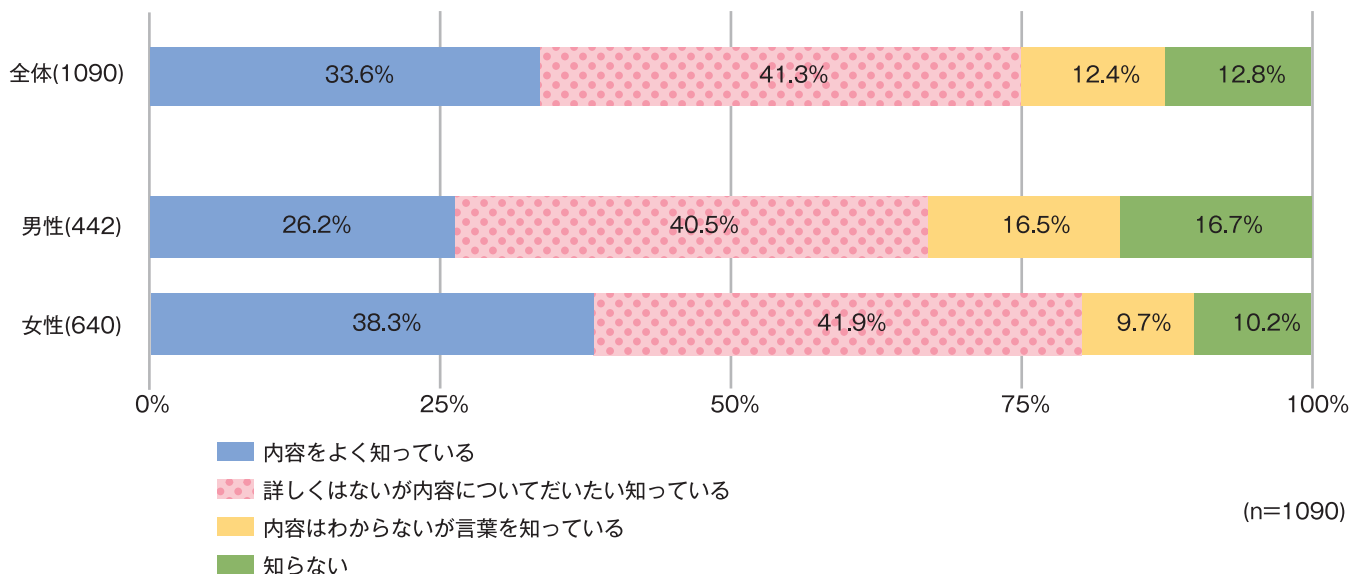
- 全体では、「詳しくはないが内容についてだいたい知っている」が52.6%と最も高く、次いで「内容をよく知っている」が24.0%となっている。

(b)SOGIE(ソジー)



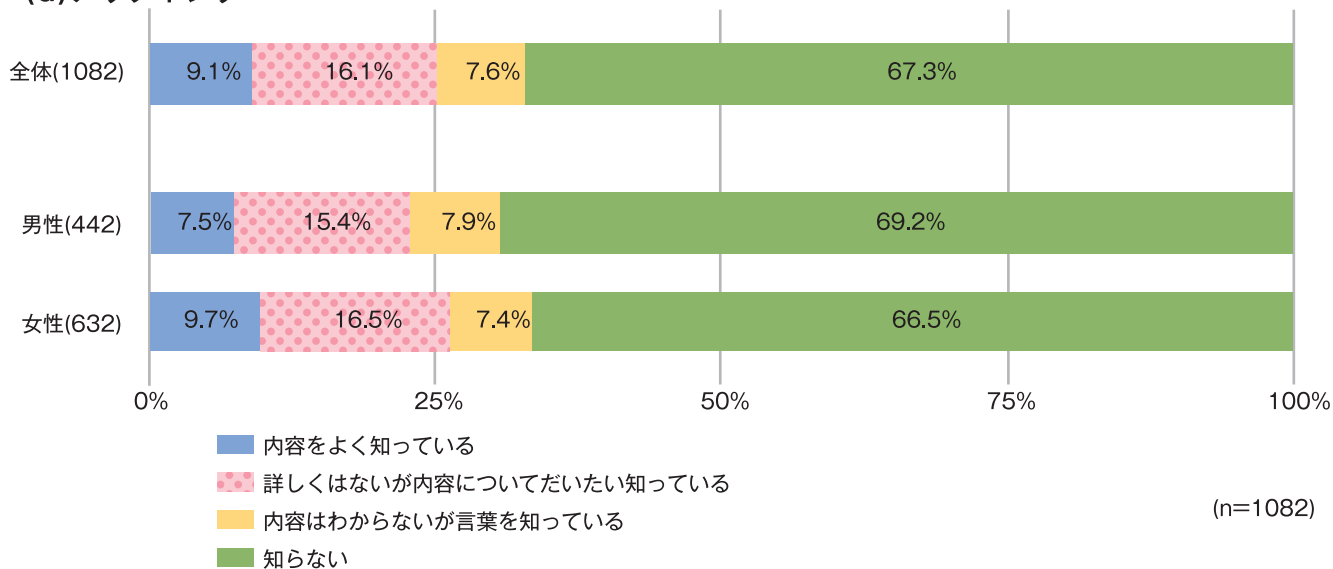
- 全体では、「知らない」が80.6%と最も高く、次いで「内容はわからないが言葉を知っている」が9.0%となっている。

(c)カミングアウト



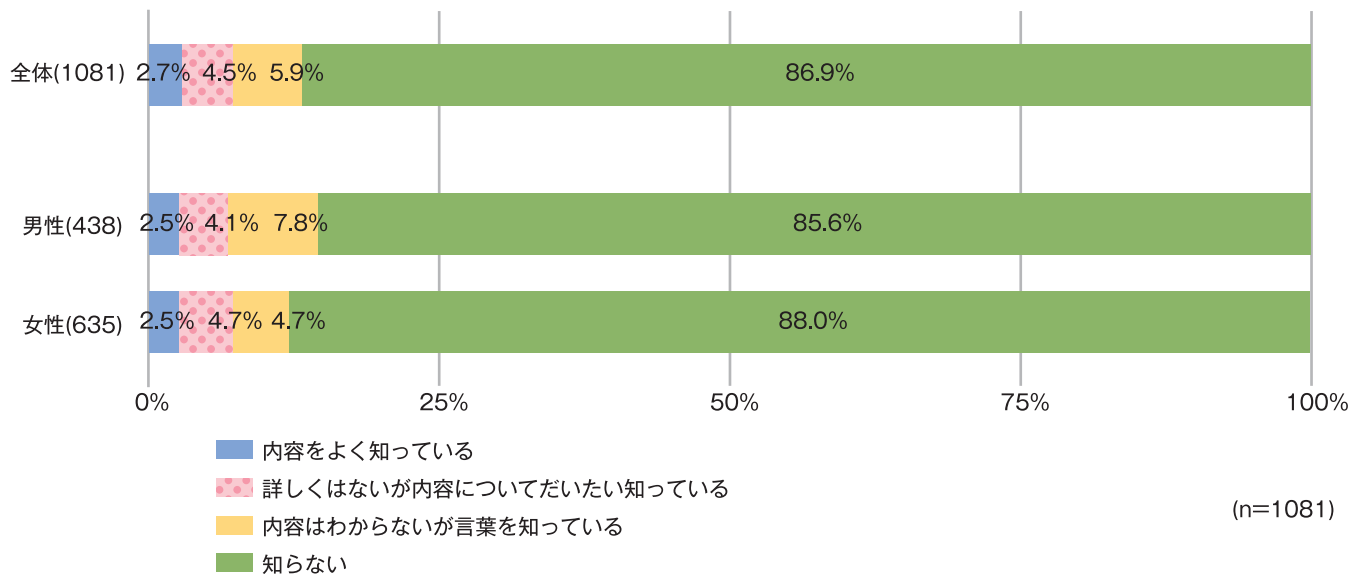
- 全体では、「詳しくはないが内容についてだいたい知っている」が41.3%と最も高く、次いで「内容をよく知っている」が33.6%となっている。

(d)アウティング



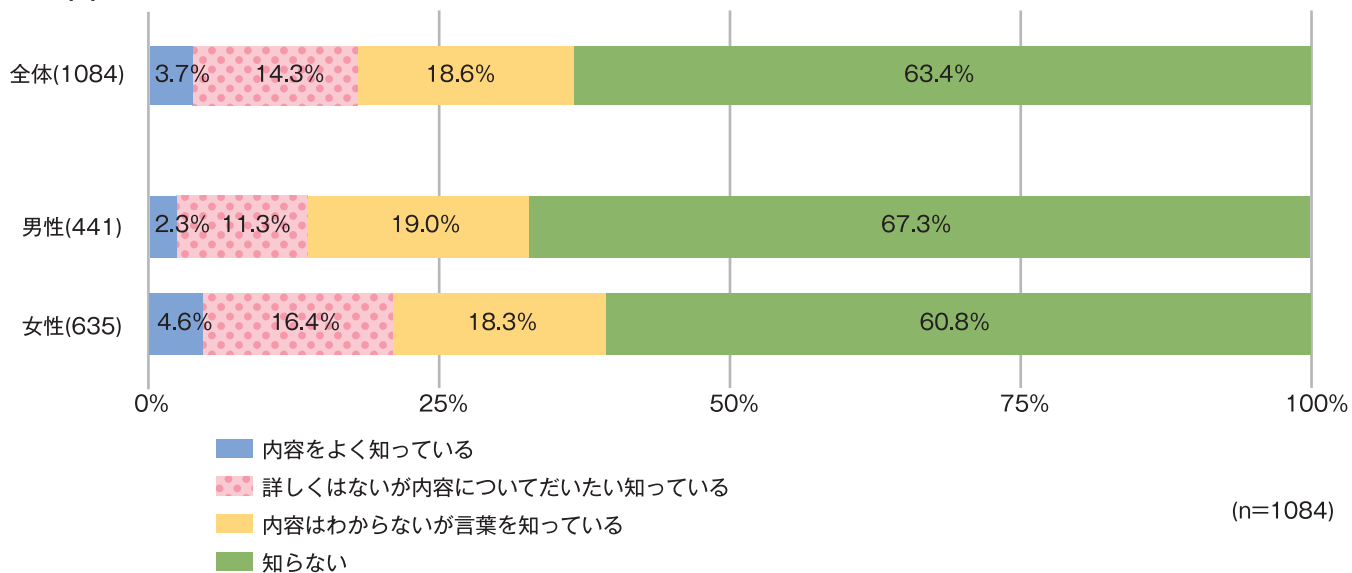
- 全体では、「知らない」が67.3%と最も高く、次いで「詳しくはないが内容についてだいたい知っている」が16.1%となっている。

(e)アライ



- 全体では、「知らない」が86.9%と最も高く、次いで「内容はわからないが言葉を知っている」が5.9%となっている。

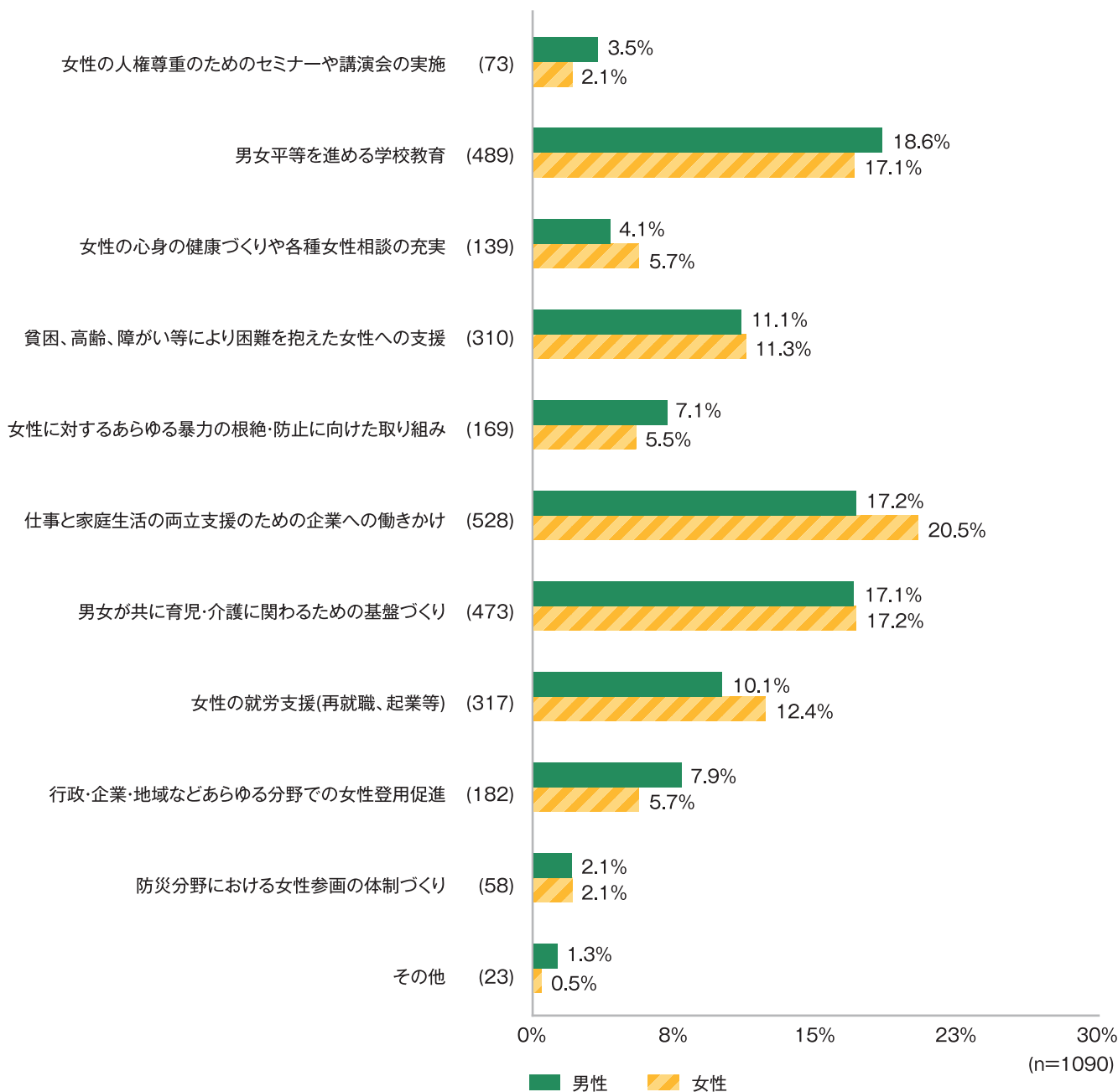
(f)おおいたパートナーシップ宣誓制度



- 全体では、「知らない」が63.4%と最も高く、次いで「内容はわからないが言葉を知っている」が18.6%となっている。

9. 男女共同参画に関する施策などについて

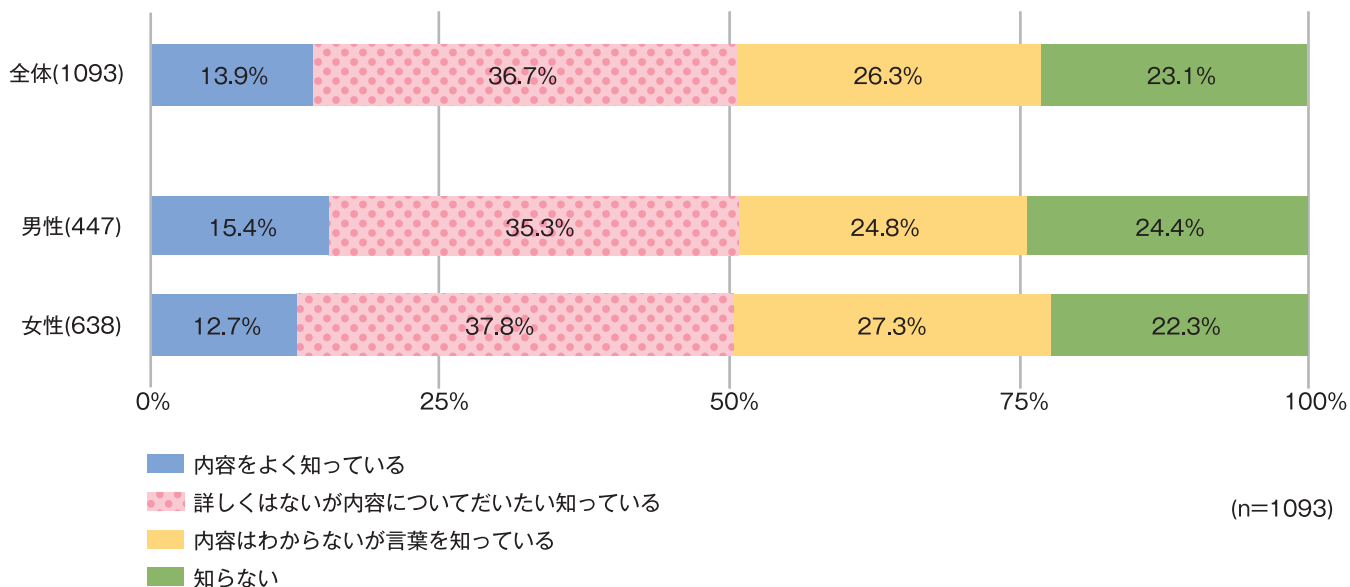
問27. 男女共同参画社会の実現のために大分市にどのような施策を望みますか。(○は3つまで)



- 男性は「男女平等を進める学校教育」が18.6%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活の両立支援のための企業への働きかけ」が17.2%、「男女が共に育児・介護に関わるための基盤づくり」が17.1%で僅差となっている。
女性も、「仕事と家庭生活の両立支援のための企業への働きかけ」が20.5%と最も高く、次いで「男女が共に育児・介護に関わるための基盤づくり」が17.2%、「男女平等を進める学校教育」が17.1%となっている。

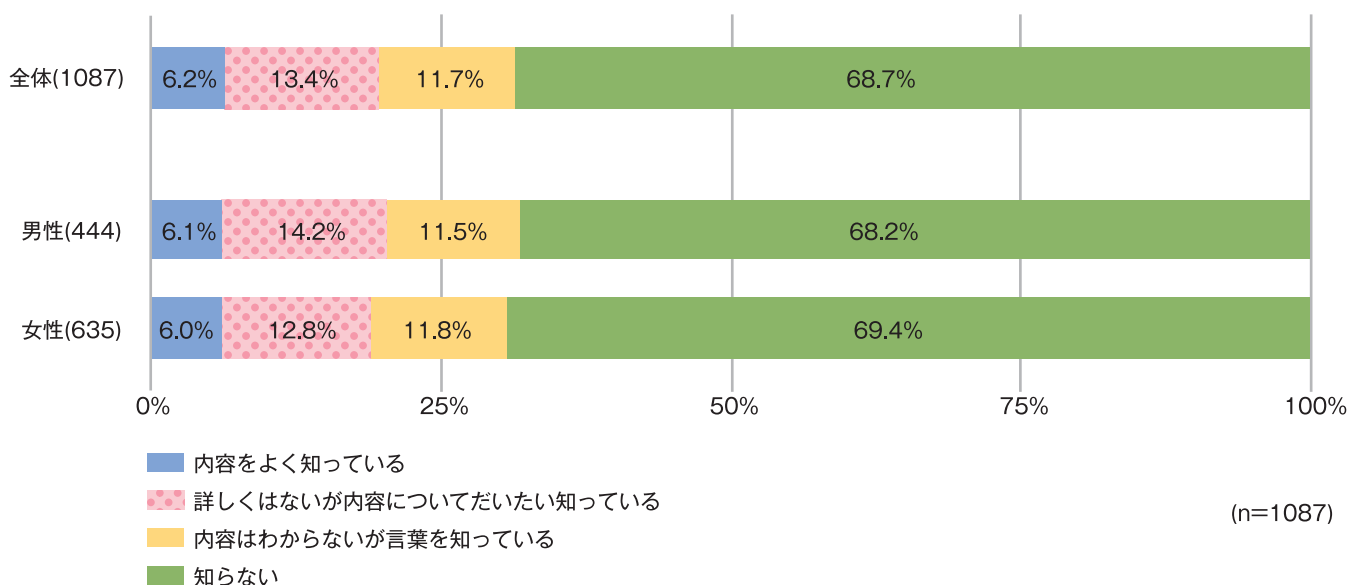
問28. 下記の項目について知っていますか。

(a) 男女共同参画社会



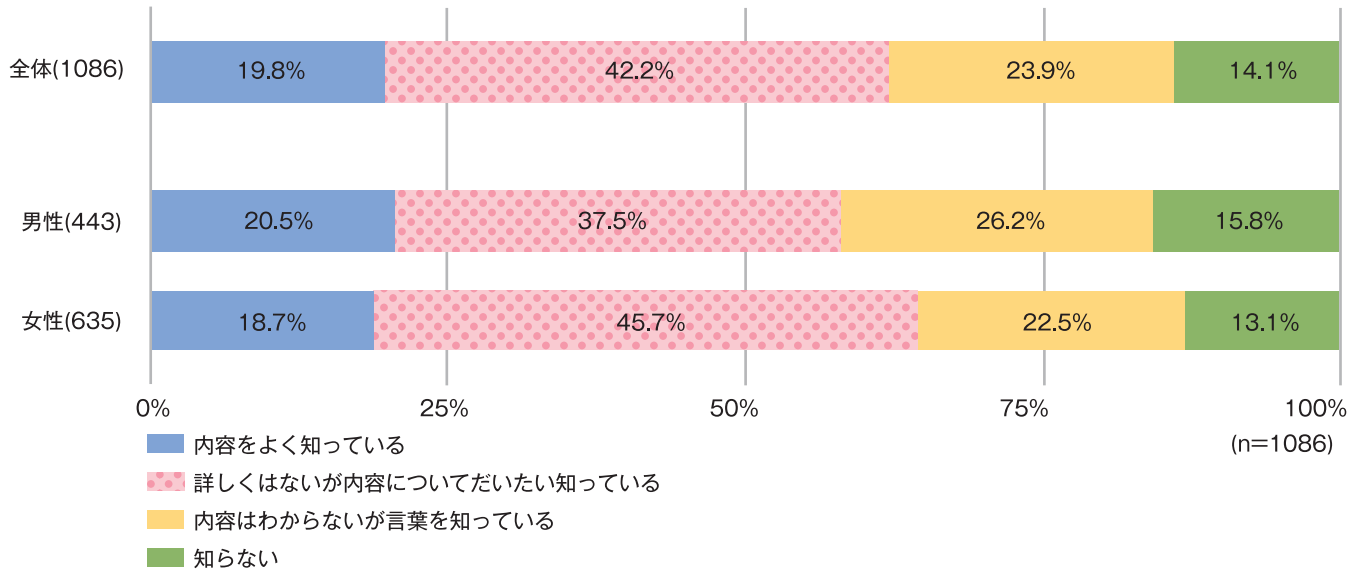
- 全体では、「詳しくはないが内容についてだいたい知っている」が36.7%と最も高く、次いで「内容はわからないが言葉を知っている」が26.3%となっている。

(b) アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)



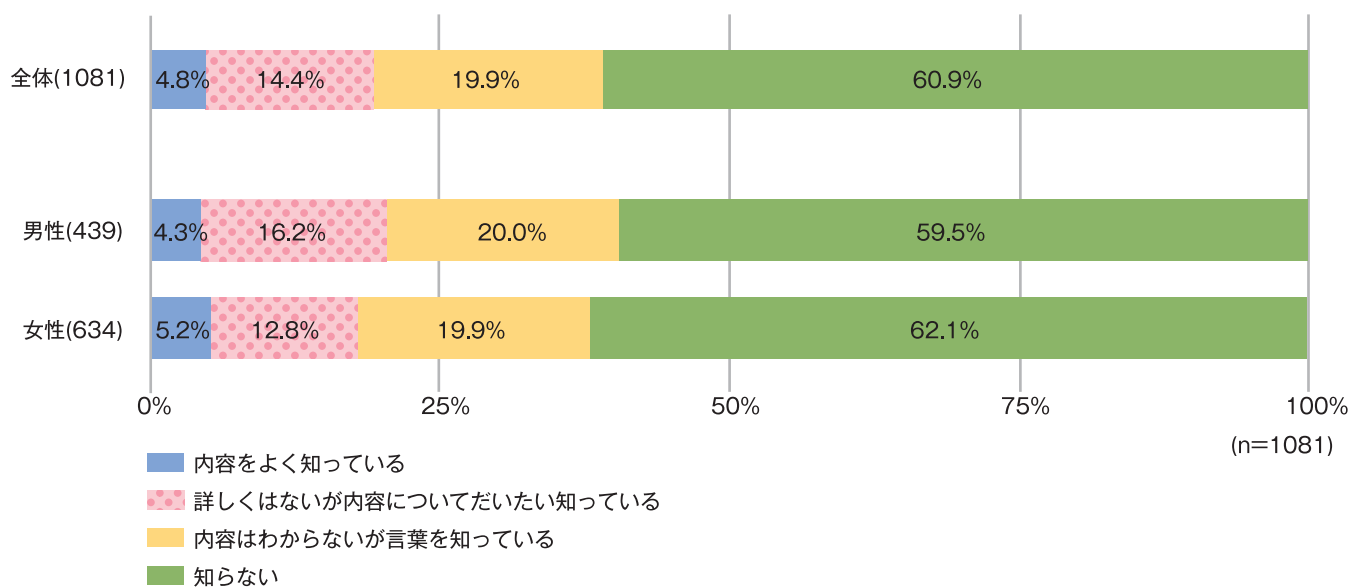
- 全体では、「知らない」が68.7%と最も高く、次いで「詳しくはないが内容についてだいたい知っている」が13.4%となっている。

(c) ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)



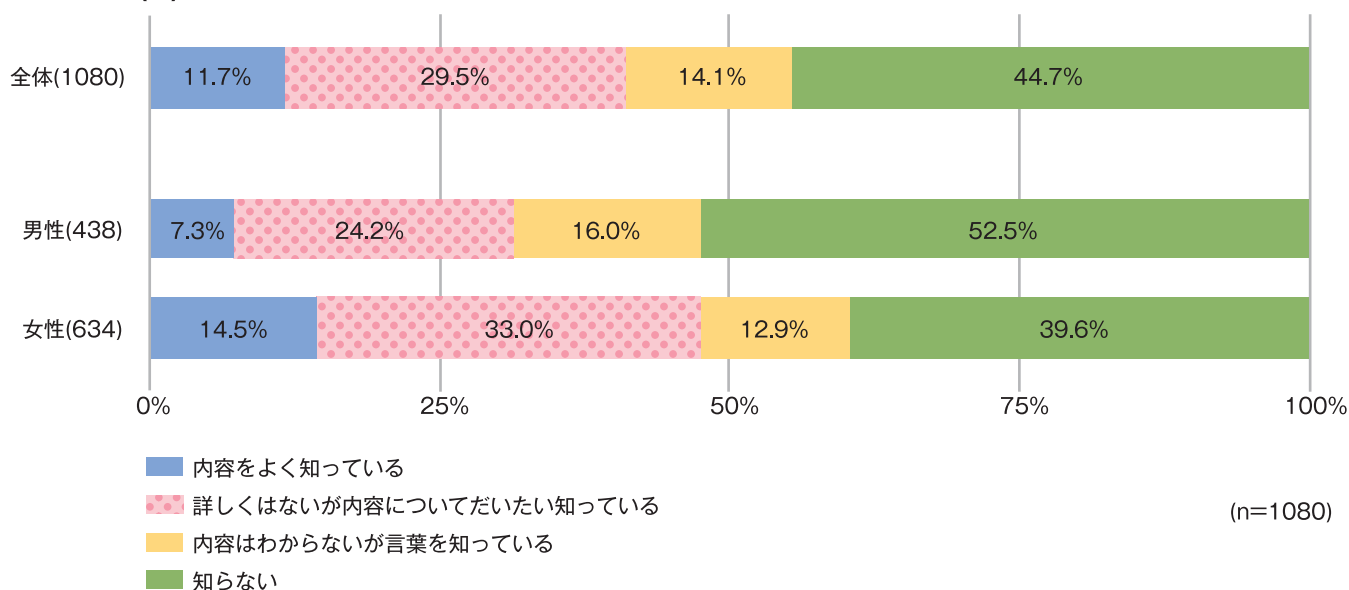
- 全体では、「詳しくはないが内容についてだいたい知っている」が42.2%と最も高く、次いで「内容はわからないが言葉を知っている」が23.9%となっている。

(d) ジェンダーギャップ指数



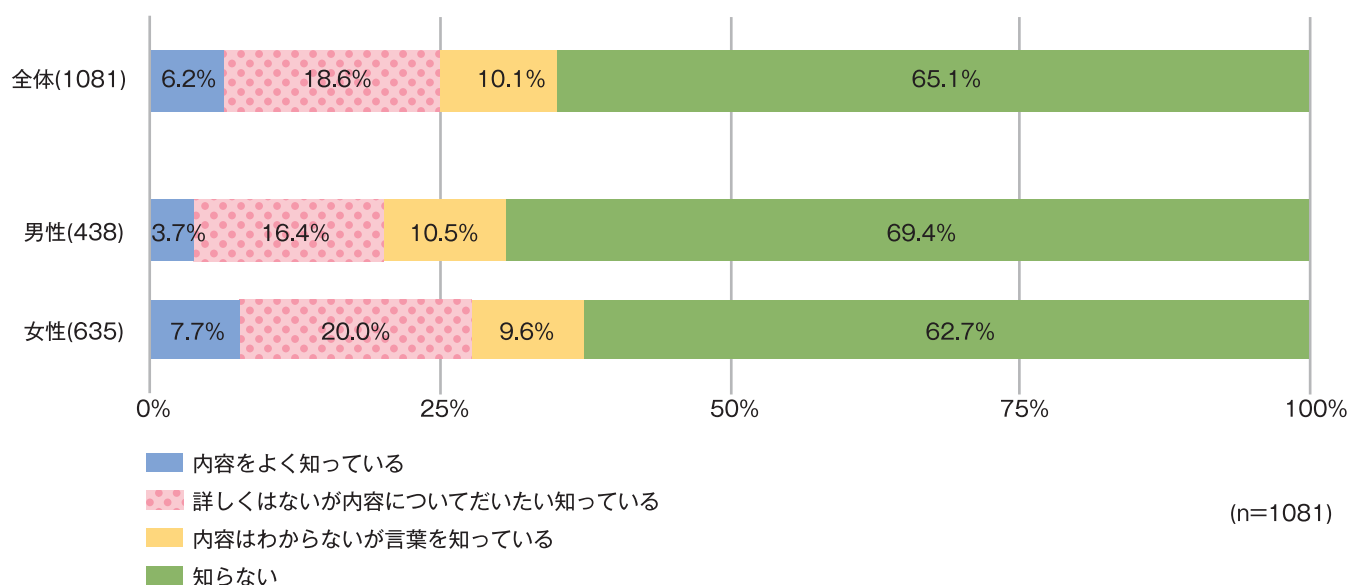
- 全体では、「知らない」が60.9%と最も高く、次いで「内容はわからないが言葉を知っている」が19.9%となっている。

(e)デートDV



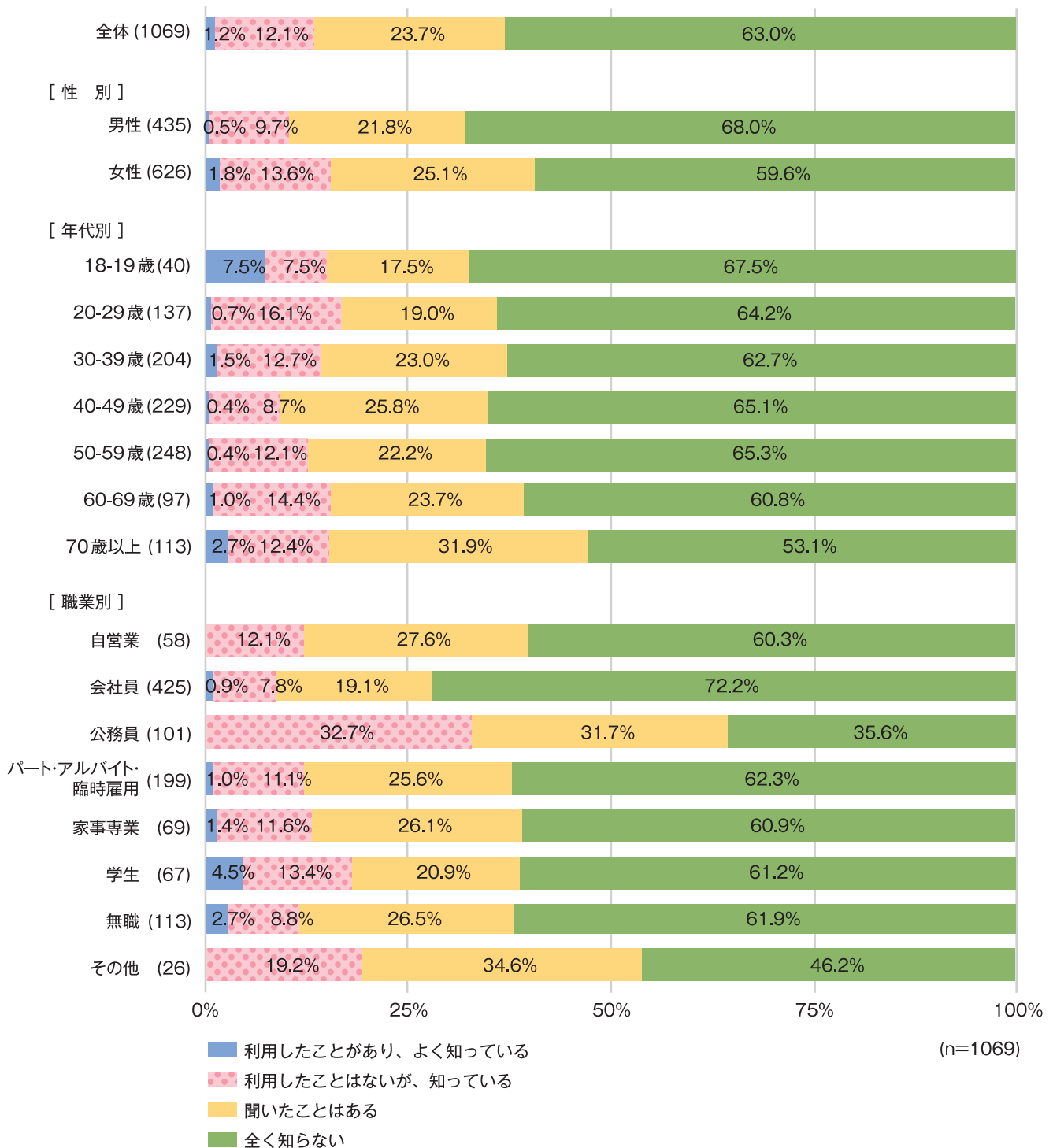
- 全体では、「知らない」が44.7%と最も高いが、「内容をよく知っている」と「詳しくはないが内容についてだいたい知っている」を合わせると、41.2%となっている。
- 性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高いが、男性52.5%に対し、女性は39.6%と低くなっている。
 「内容をよく知っている」と「詳しくはないが内容についてだいたい知っている」を合わせると、男性は31.5%、女性は47.5%と男女間で差異がある。

(f)面前DV



- 全体では、「知らない」が65.1%と最も高く、次いで「詳しくはないが内容についてだいたい知っている」が18.6%となっている。

問29. 大分市男女共同参画センター(たびねす)をご存じですか。



- 全体では、「全く知らない」が63.0%で最も高く、次いで「聞いたことはある」が23.7%、「利用したことはないが、知っている」が12.1%となっている。
- 性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く(男性68.0%、女性59.6%)、次いで男女ともに「聞いたことはある」となっている(男性21.8%、女性25.1%)。
- 年代別にみると、全ての年代で「全く知らない」が最も高くなっている。なお、70歳以上では「聞いたことはある」が31.9%と比較的高くなっている。
- 職業別にみると、多くの職業区分で「全く知らない」が最も高くなっている。特に会社員では72.2%と高くなっている。

自由意見（男女共同参画および女性問題等に対するご意見）

本項目には、調査票の自由記述欄に寄せられた意見を掲載する。

なお、掲載にあたり「第4次おおいた男女共同参画推進プラン」の基本目標として掲げた5つの分野ごとに分類して掲載する。＊自由意見の内容は、個人が特定できないよう配慮のうえ掲載している。

【I 男女共同参画社会に向けた意識づくり】

- 男女で区別する必要があるのか、その場面によって考えることが大事になってくると思います。性別で考えるのではなく、その人の良さや個性を見つめて、活かせる社会になってほしいです。それは、学校教育の場で進めていくことも必要かもしれません。(40代・女性)
- 参画を進めるあまり、それを望まない人の声も一定数あると思います。声を上げたもの勝ち、みたいな世の中になっていると感じます。例えば、結婚して子どもを産んだ女性で専業主婦を望み、子どもとしっかり向き合いたい人もいないのでしょうか。サイレントマジョリティの意見も大切にしてほしいです。(40代・男性)
- 女性は、男性は、子どもは、高齢者は、など自分の中にある思い込みや固定観念をなくすように日々努力しているつもりです。(50代・女性)
- まだまだ女性が育児と家事をしないといけないという風習がある気がします。もっと男性も有休を気軽に使えたら、女性も息抜きができる時間が増えると思います。有休は自由に使えるようになってくれれば本当にありがたいと思います。(30代・女性)
- 女性が活躍していける社会を実現していくことも大事だと思いますが、その女性自身も変わらうとする意識や、周りに助けを求められるようになるといいのかなと思いました。市政や国政などの政策が現実的なものになり、女性が生きやすい社会になっていくことを心から強く望みます。(10代・女性)
- 家庭や学校での教育から、男女差より個人差であることを基本にしてほしいと思います。女性も困難な問題があった場合、「女性だから」と言い訳をせず、解決する能力をつけてほしいと思います。過去に比べて女性も参画する機会が増えてきました。すぐに変えることはできないと思いますが、一つ一つ解決していくことが大切だと思います。(60代・女性)
- 家庭内・職場同様、男性と女性の価値観や意識の乖離が大きいので、女性が我慢する方が円滑に進むことの方が多いと思います。でも、男女平等社会を作っていくには、学校教育の充実と、家庭で男性も女性も役割を平等にしている姿を、子どもに見せておく必要があると思います。(40代・女性)

- 昭和の時代よりも、女性が生きやすい世の中になってきていると思われます。しかし、地域の役員決めや地区の会議・総会などでは女性の発言者はほとんどなく、座る場所も後ろの方であり、男性のみならず女性の中にも「女性は〇〇であるべき」といった固定観念が根強く残っています。また、大分市や別府市などと郡部では、女性に対する意識や教育などにも格差を感じられます。実際、娘が国立大学医学部に合格した時、郡部に住んでいる夫の母(姑)から「〇ちゃんはまるで男みたいだね」と言われたことがありました。女性には学歴や学問はあまり必要ではないといった風潮があることに驚きを感じました。性差による職業の選択はある程度生じるかもしれませんが、女性ももっと活躍していける社会に変えていかなくてはなりません。男女ともに意識の変革を起こすことのできる世の中になってほしいと思います。(60代・女性)
- もっと男女共同参画の内容を市民に教えてほしい。今回初めて知った。(70代以上・男性)
- 男女共同参画について知らないなので、これから考えます。(40代・女性)
- 私は学校や職場などで女性を理由に理不尽な扱いを受けました。教育で基礎を正しく導き、大分市の政策を固める際にも女性の委員などを採用し、声を吸い上げてほしい。施策に反映してほしい。(60代・女性)
- 女性は何かしら制限されることが多いと思います。男女共同参画と言われても難しいです。根本的に昔から男の人は女をバカにする！！これ一択です！男の人の意識の問題だと！(50代・女性)
- 一般人向けセミナーなどは、あまり有益ではない。行政、企業、教育などに直接働きかけるのが公的機関の仕事だと思う。(40代・女性)
- 子どもの頃から学校では、男だからランドセルは黒、女だから赤と決まっていた。学校教育の場では教師もそのような考えだったから、当たり前のことととらえていた。結婚したら男は仕事、女は家庭のことをするのが当たり前だったが、社会が多様化しても変化に追いつけていない。男は「俺みたいに給料を稼いでみる、できないくせに」と優位に立とうとする(家庭)。職場では大学を出ているから基本給が高いのは当たり前と言う。どんなに仕事ができても、資格を取っても、高卒は大卒を超えられない。女は男を超えることができるのでしょうか(職場や家庭において)。どんな方法があるのでしょうか。(50代・女性)
- 皆に優しい市政を希望します。苦しんでいる人を助けられる市政であってほしい。(70代以上・女性)
- 男女平等とは女性の主張である。男女の平等などはない。(40代・男性)
- 男性だけではなく女性も一人の人として平等に権利があることを考え、行動してほしい。平等の権利がある中でお互いを尊重し助け合える家庭・職場・学校になればと思います。(50代・女性)

- この言葉がある時点で男女が平等でない気がする。女性・男性に力の差などないし、できる人ができることをすればいい。
それをお互いに尊重できれば、男女の格差なんてものは生まれない。(30代・男性)
- 育児、介護などに関してはとても良い考えだと思いますが、社会生活にあたっては、「平等」を考えすぎて女性優位へと傾いているような印象を受けています。
ジェンダー的な平等はもちろん必要と考えますが、生物学的な平等はつくれないものである以上、その点が「男らしさ」「女らしさ」として、これまでの社会的役割としてできていたのだろうと考えられるので、社会的な平等を目指すには、表面上だけではなく、そのジェンダーギャップが生まれた歴史を考えることが一番だと考えます。
要は、何でもかんでも性差別と言うのではなく、なぜ差が出ているのかを生物学的観点までさかのぼって考えるべきということです。(20代・男性)
- もっとアピールしてくれないと全く知らないです。「家事は女の仕事」みたいな典型的な姑、だんなのところなので、共働きですけど、当たり前みたいにしています。
おかしいな、「二人の仕事」のはずなんですけどね。熟年離婚も増えるはずですよ、そりゃ。職場も男性優位な感じだし、社会……本当に変わるのかなあ。(50代・女性)
- 男女共同参画は性別に関係なく、お互いの強みを活かし合える社会を作るために必要であり、社会全体で意識を変えることが大切であると考えます。(40代・男性)
- 生理があったり出産があったり、筋肉の付き方、体力など、男女で生物学的な差はある。
その中で、どうしても男性が戦力となる場面が多いと思う。子育ての中でも、共感力や危険察知能力は女性の方が高い傾向にあるのは脳のつくりの違いなのではないかと考えたりする。
そういった男女の体や脳のつくりの違いの中で、本当の男女平等とは何か考えさせられる。
誰かに配慮すれば、誰かが不便になったり。大切なことは、皆が自分の権利を叫ぶ前に、互いのことを本当に思いやれる感覚が必要なのではないかと思う。
互いの不得意を補う感覚で生活すると、性役割のある状態になることもあるのではないかと考えたり。各々が目指す人生像をかなえられる、努力が報われる、なるべく理不尽のない社会になってほしいなと思います。(30代・女性)
- 福祉や介護分野で地域共生社会の実現ということを知ったことがあります。男性・女性、高齢者、障がい者と分け隔てなく生きていける社会になればと思っています。(40代・男性)
- 今回のアンケートが届き、男女共同参画について知ることができました。(30代・女性)
- 男女の身体的差異は当然のものとして、それを各人の心がけや、制度などで補い合えたら良いと思います。
自分と違うもののことをよく理解することができたら、偏見による差別をなくしていけるのではないかとと思います。(20代・女性)

- 政治や自治会など、性別によって固定的な役割を分担することがまだ多いと思う。それぞれの特性を生かして円滑に進めていくのであれば良いが、いつまでも性別の枠を超えられなければ、今後も女性の社会的地位は得られないと思う。(40代・女性)
- 都会の方では進んでいるのかもしれないが、大分のような昔ながらの考え方が根付いている田舎はなかなか難しいと思う。組織や団体の年上の世代が早く若い世代に役割を譲って変わっていけば、大分がもっと良くなると思う。(40代・女性)
- 明治や大正、昭和初期のような、女性に選挙権もないような時代から、今は極端すぎる変な平等が通ってきている。
男性は男性の役目、女性は女性の役目があるように、何もかもが平等とはいかないと思う。
行き過ぎた極端な話をモラルに置き換えるのはおかしいと思う。(60代・男性)
- 30代～50代の方は昔の考え方を変えないので、言っても無駄だと思う。これからの世代の子どもたちの教育をしっかりしていき、男女平等を当たり前にしてほしい。(30代・女性)
- 大切なことは、「知っている」が「理解していない、しようとしない」、特に「世の中を引っ張る人々」が根幹からできていないことだと思います。やはり古来の役割意識をくつがえす気力、日本本来の考え方をくつがえす方法、抽象的な表現しかできませんが、それがもどかしい。
今回のアンケートなどで少しでも意識を変えていけると良いですね。(70代以上・女性)
- 日頃、考えたことがないのが現実です。皆が生活しやすい社会になるような意識をつけていければ良いのですが……。今の政治では難しいと思います。(40代・男性)
- 男女でできることには当然ながら差がある。しかしながら、現代の風潮はどちらが優位か、平等に少数派の声を取り入れようと考えているように感じる。性別の区別はしっかりと行い、適材適所であるべきである。(20代・男性)
- もう少し、障がいのある人とない人の交流を増やしてほしい。(30代・女性)
- 初めて聞いたことが多くて勉強になりました。困っている人のために少しでも役に立てばと紙面で協力いたしました。年齢的に何もできませんが。(70代以上・女性)
- 1. 宗教、思想などとの関係はどう整理していくのでしょうか。(例：イスラム社会などと比べたとき)
2. 男女共同社会の実現には、焦りは禁物と考えます。長期的な姿勢、知見を望みます。
(70代以上・女性)
- まだ知らないことが多いので、もっとよく理解したいと思いました。(30代・女性)
- 男は男としての役割を、女は女としての役割を果たせばいいと思う。(50代・その他)
- これからも永久的に、男女平等である社会であってほしいです。(50代・男性)

- 家事はなんとなく女がするものとなっているので、男性は「手伝う」という意識になっていると思う。「手伝う」から「あたりまえ」の意識になると、男女という差は軽減するのでは？と思う。(40代・女性)
- 男女共同参画よりも、少子化対策が優先と思われるため、本取り組みには賛同できません。大分市、大分県の人口増を望みます。(50代・男性)
- 女性が得意そうという理由で、業務内容を区別することがないといいと思います。(女性でも苦手、男性でも得意ということを思う時点で性差別がある)(30代・女性)
- 男女平等な社会が理想だとは思いますが、現代社会においてはまだ不十分な気がします。男女問わず、さまざまな個人の個性を尊重し合える社会を望みます。(30代・男性)
- 過剰に協調しすぎる節があると思う。区別と差別の境目をなくす必要はないと思う。(20代・男性)
- 昔に比べると、男女は平等という意識は広がってきているように思いますが、子どものときからの教育の場での意識づけがもっと必要だと思います。男女共同参画「性別にかかわらず全ての人が個性と能力を発揮し、喜びや責任を分かち合える社会」は、子育て世代にはなかなか難しいように思います。子どもの世話や行事、体調を崩したときなど、ほぼ母親に負担がかかっているような。(40代・女性)
- 男女共同参画やジェンダーに関する定期的な研修講座、自主講座、読書会などが開かれ、さらに多くの市民が利用するようになるとよいと思います。
デートDV防止教育を男女共同参画センターや女性センターと市町村教委が連携し、予算化し、指導者を各学校へ派遣している地方自治体も全国的には数多く見られます。
私も同教育の指導者(ファシリテーター)の資格を取得しましたが、現状では大分市内の学校で実施することはなかなか困難です。デートDV防止教育は、ジェンダー平等の視点に立ち、ジェンダー平等や性教育を包括的に進める教育です。10年以上前から児童・生徒間の性加害・性被害の問題は増加しています(教職、SCの経験から)。これらの問題に対する対応が学校現場では十分になされておらず(教師の多忙、指導の力量不足)、学校は事後的な指導で手一杯です。何とか解決を図るべきです。(70代以上・女性)
- 大分市は大企業もいくつかあるので、このテーマについて意識が進んでいる人が多いと思うが、まだまだ昭和世代が現役で、その人たちの認識を変えるのは難しいため、あと十数年はじわじわとしか進まないと思います。ただ中身は変われなくても、表面上だけでも変わることはできると思います。表面上でも多数を占めれば、流されやすい日本人なら、男女共同参画の風土ができあがると思いますので、中小企業への働きかけを、めげずに続けていただけたらと思います。(40代・男性)
- 男女平等も、共同参画も良いものだと思う。しかし、現在そのために行われていることは「女子枠」などという、平等とは程遠い「女尊男卑」であり、これを解消しないことには溝は深まるばかりだと思う。(40代・男性)

- 世の中の的には平等になっている。“平等”と謳っているが、まだ男性優位な面も感じる。10年後には世の中も変わり、今よりも平等になっているとも思う。(30代・男性)
- 男女平等な社会になってきていると思うが、仕事改革と言いながら多忙になるばかりで、どうしても男女で違いはあると思う。女性が遅くまで仕事をしていると「家庭は大丈夫か」と心配されるのはなぜだろうと思う。(50代・女性)
- 大変申し訳ありませんが、私、市報など全く目を通しておらず、皆さんの活動内容や結果を知りません。アンケートの質問がすでに女性が社会から冷遇されているような話ばかりでしたが、この社会は男女関係なく本人の実力次第です。女性という性別にとらわれず、己を鍛えるべきです。(40代・男性)
- なぜ今の時代に男女共同という名詞で謳うのでしょうか。言葉だけが浮いている感はありますが、いつからこのような言葉ができたのでしょうか？
戦後80年から、いつしか、人間は変わろうとしたでしょうが、いまだにこのような名詞がある(使う)のはおかしいのでは。(70代以上・女性)
- 男女が平等である必要はないと思っている。それぞれに役割があり、お互いが尊重し合えばよい。女性の社会進出を促した結果が、未婚率の上昇と少子化であると考えます。
女性は結婚・子育てに専念できるよう、夫の収入のみでも生活できない家庭が多く、結果、女性が働かなくてはならないのだと思う。(50代・女性)
- アンケートに回答するのに考え込む項目が多く、男女共同参画について何も考えていなかったことに気づかされました。女性にとって仕事・出産・子育て・介護を気負わずに、いろいろな制度を知って使えるとよいと思いました。(50代・女性)
- 「男は仕事、女は家事育児」の思想を持っている方々が、現在の社会の中で、企業のトップだったり、上司だったり、上の立場の人に多いので、まずはそこから意識改革が必要だと考えます。重度障がいのある子どもを育てています。障がい児の育児についての情報が少なく、知ってもらう機会がまだまだ少ないと感じます。
私のような母親が社会で活動(就労)できる社会になってほしいです。(40代・女性)
- 社会に出てから、女性だからと下に見られたり、「女性は感情的な生き物だ」というような偏見を持っている人が多いと感じるようになりました。学生の頃にはあまり感じたことがなかったので、学校教育の過程で生まれたものではないと思いますが、これからの学校教育によって変えられるものがあるだろうと思います。例えば、女性と男性の考え方の違いや、「性差」を前提とした公平とは何かを考えてみるなど、専門家ではないので詳しくは分かりませんが、まだまだ改善できることがあるのではと日々考えています。(20代・女性)
- 男女平等社会は、久しく言われているので、理解はできつつあります。但し、性的指向についての近年の変化が著しく、ついて行けていない部分が大いにあります。(40代・男性)

- 男には男の、女には女の役割があって良いと思う。すべてを平等にはできない。でも弱者を支援することは必要。強いものに押さえつけられるのもいけない。DVはもってのほか。(50代・女性)
- 知らない人が多いと思うので、広報活動などを充実させることが必要だと思います。(40代・男性)
- このアンケートに答えるまで「男女共同参画」について考えたことはなかったし、今回この機会を得て考えるきっかけになった。(50代・男性)
- 昔からの風習や年配の方の意見を重視してしまうと、男女共同参画は難しいのではないかと思います。(50代・女性)
- 建前の社会が変わらない限り、変化しないと思う。社会生活の中で、対等であるという意識づけが重要である。助けるべきところはお互いに助け合う気持ちも大切(人として)。(50代・女性)
- 男女差や性差、能力差があることを悪いことだと思わず、それぞれの特性を活かして社会を形づくれるようになればよいと思いますが、現実はそれとかけ離れています。
誰もが優しく、生きやすい世界になるには、まだまだ人間の修練が足りず、実現は難しいと思います。しかし、それでも男女平等・共同参画社会の実現を目指し、掲げ続けることには意義があると考えます。(40代・男性)
- 男女の区別と差別等、子どもの頃からの教育を見直さないと変わらないと感じます。また、日本では常識とされていることが、海外では非常識とされる事柄等多々あると思う。
行政も何がしたいのか分かりにくく、流行のようにさまざまな用語を使用していますが、もっと分かりやすく進めた方がいいかと。難しい問題ですが、みんなが過ごしやすい社会になるよう、一緒に取り組みたいですね。(50代・男性)
- もっとテレビでアピールしてほしいです。家事分担を当たり前にするよう、今の時代は昔とは違い平等であるというメッセージをテレビやCMでも流せば、少しは変わるのではないかと思います。(40代・女性)
- 男女共同参画と言いつつも、結局のところ男性優位な状態は変わっていない。
男性は仕事さえが出来ていれば評価されるのに、女性は家事、育児、仕事の全てが出来ていないと評価されない。
また、子どもに何かあれば、当たり前のようにほぼ母親が面倒をみるため、結局キャリアを諦めなければならなくなるケースが多い。
かと言って、キャリアを優先させれば、「母親のくせに子どもの事を一番に考えないのか」、子どもがいなくても「女のくせに出しゃばるな」等と言われ、正當に評価されにくい。
業績をあげても、「女を使った」等と心無い事を言われるケースも多く、努力を正しく認めてもらえない。
男女共同参画と立派な標語はあるが、実質的には旧体制の「男は外、女は中」という意識が拭いきれておらず、言葉に端々に男尊女卑を感じることが多い。(30代・女性)

- 多様性や平等という言葉が、ある意味流行っていることで、色々な場面で男女平等が叫ばれるようになりました。男女での物理的な力の差や女性は出産による仕事からの離脱もあるので、向き不向きは当然あると思います。
いつでも多様性を大切にできるかと言えば、難しい側面があると思います。(20代・男性)
- このような調査をして結果を数字で示したところで、何が変わるのでしょうか。昭和世代の男性に女性の生活を実体験させることが一番の近道だと思います。いかに女性が男性以上の働きをしているかを実感してもらうことが、最も有効な施策だと思います。(10代・男性)
- 生物学的に男女には能力差があるのは当然です。平等を目指すこと自体に問題はありませんが、平等にするために能力のない人まで参加させることには疑問を感じます。
ただし、参加への障壁はなくすべきだと思います。(50代・男性)
- 制度を整えることは必須ですが、意識改革は困難であることを実感しています。女性である自分でさえそう感じるのですから、男性はなおさらでしょう。男女という対立構図を生み出すのではない改革が求められています。女性にとって快適な社会であれば、性別や年齢、障がいの有無にかかわらず、あらゆる人にとっても暮らしやすい社会になるはずです。
そのような社会の構築を目指すべきですが、夫婦別姓も実現できない日本では、まだまだ困難だと思います。(50代・女性)
- 家事の分担は女性の生活を豊かにすることに非常に役立っています。ただ、介護の問題になると、なぜ男性は積極的にならず、女性が担う雰囲気になるのか分かりません。(50代・女性)
- 時間はかかるかもしれませんが、教育の重要性を感じるし必要だと思う。高齢の世代を今から教育するのは困難なので、若いうちから教育していくことで、少しずつ広がってほしいと願っています。(40代・女性)
- 「○○だからこうあるべき」という考えは、自分も相手も窮屈にしまいます。
それを良くしていかなければ、いくら法的整備が進んでも、根本的な意味での平等な社会の実現は難しいと考えます。(40代・女性)
- 男性の意識が重要な鍵になってくると感じています。(20代・女性)
- 学生時代から女性がリーダーになる機会が増えることで、将来的にマネージャー職に就く機会が増えたり、給与格差もなくなってくると思うので、リーダーになる機会を増やしてあげたいです。
(30代・男性)

- 家庭における仕事において、男性はすべてにおいて「手伝う」という意識だと思う。
「手伝う」とは、自分の仕事ではないものを手助けする、という意味であり、自分の仕事として認識していない証拠。
つまり、女性の仕事としてとらえているので、一向に家庭の中での男女平等はなくなる。
夫が勤めているときは、私は専業主婦だったので、家事をすることに何の不満もなかったが、二人とも家にいる今では、「掃除ぐらいして」といっているのだが、一向に聞いてくれない。
そういう時代に育った人だからと諦めている(夫婦仲はいいです)が、若い人には家庭でも平等であってほしいと思っている。
夫婦共働き社会の現在は、夫も、家事育児は夫婦の仕事として、率先してやらないといけないと思う。
そういう教育を子どもの時代から身につけさせていくと、女性を優遇するような制度を作らなくても、自然に平等になると思う。
介護もしかりです。(70代以上・女性)
- やりにくい、行き場のない社会。いっそのこと弥生時代から元に戻って見たら、ってたまに思います。いつ頃から男性優位なんですか、と声をあげても仕方ないので、愚痴でした。
市役所の皆様、頑張ってください。(50代・女性)
- 政治の動向が、男女平等から遠ざかる可能性があることを非常に危惧しています。(20代・その他)
- 年配者に意識が低い人が多い傾向にあり、若い世代の考えとギャップがあります。特に会社では、年齢が高いほど立場のあるポジションにいる傾向があるため、その個人の考えに影響を受けてしまい、抗えない状況にあります。
自治体などの社会的支援と、会社の中は別世界のような雰囲気があり、必要な人に支援が行き届いているとは思えません。(30代・男性)
- 大分県(市)は、まだまだ意識が追いついていないと思います。例えばテレビなどでこのことが取り上げられても、取り上げられている水準に大分県(市)は全然届いていないと感じます。
収入や勤務条件なども、昔と変わっていないように思います。(50代・女性)
- 設問に「1日の家事・育児への参加時間」とありましたが、母親視点の意見で言うと、この質問自体がナンセンスだと思いました。家事育児に「きちり何時間」という概念はありません。子どもが寝たあとも寒くないか、熱は出ているか様子を見たり、仕事でも子どもの予定、体調、食事に関する事などを常に考えています。24時間、育児に関わらない時間などありません。
男性には上記のような意識が低い方が多いので、女性の不満が募ったり、不平等と感じる場面が日々多いのではないのでしょうか。家事育児を女性と同じ意識まで高めてくれた時こそ、本当の男女平等と言えるのではないかと思います。(30代・女性)

- 男女共同参画を目指す流れとは反対に、近年は世界的に見ても保守や右翼が台頭してきており、女性へのバックラッシュが強くなってきていると思います。九州はSNSで「さす九」と揶揄されるくらい男尊女卑の考えが根強く、大分市でもまだ男女平等の考えが浸透していないのを日々感じています。女性に対する支援もあるにはありますが、一番の原因は男性の意識が変わっていないことではないかと思います。本当に男女共同参画を実現したいと思っているのでしょうか。もし男性の意識を変えられないのであれば、女性が男性に頼らずに生きていけるような制度設計が必要だと考えます。(30代・女性)
- LGBTの考え方は理解できますし否定もしませんが、公共の場でそれを理由に押し通すことはあってはならないと考える。心はこちらの性だから～、等見えない事柄で判断するのは、確たる証拠もないまま公の場で不明瞭な根拠を押し通すことになり、結果犯罪や社会の秩序を乱す。LGBTに対して、しっかりとした基準を設けるべき。(20代・女性)
- いま大人と呼ばれる人たちの意識を変えるのは難しいと思う。男が偉いと教わって生きてきているから。新しい人たちがより良い生活を送れるように、教育してほしい。だから教育者に変わってほしい。抜きんでできた新しい人たちを叩かないでほしい。(40代・女性)
- 「私はいいから、大丈夫だから」ではなく、「ちょっとこんなことがあったから行ってみよう」など、受け入れるハードルが低くなるような基盤づくりをしたいです。(10代・女性)
- 若い世代とシニア世代で差があると思いますが、男性が家事に対して「手伝う」意識でいることがまだまだ多いです。「言ってくれたらする」ではなく、共に自分ごととして考えてほしい。逆に男性は「言わなくてもわかってきている」と思っている節があります。会話が必要です。(50代・女性)
- 学校に通っていて、30人のクラスで女性は2人いるが、ちょうど私の出席番号の前後が女性である。でも、日頃から男性だから女性だからで考えることは特になく、勉強でも私が数学と英語、隣の女性がプログラミングと得意分野をそれぞれ補い合い、勉強している。学校は社会の縮図であるとはよく言ったものだと思う。だから、男女で差があること自体が謎なのだ。ただ、「女性が」「男性が」と分けるのは納得することでもある。それは、男性が通常妊娠できないからだ。しかし、それらは元来の性別によって区別されるものであり、考え方等で区別はできない。以上のことから、私がよく考えるのが、なぜ男尊女卑という言葉が生まれ、ハラスメントという言葉ができ、区別するようになったのか。その背景について考えては見るものの、一向に答えは出ないままである。(20代・男性)
- それぞれの役割が根付いているなぁと感じます。職場では、「子どもがいて小学校に行ったらどうやって働くつもりなの？」や、「可愛い頃を見逃していいの？」などと言われたり、「旦那さんの収入でやっていけないの？」などと言われて、辛くてたまりませんでした。そんなことを思っただけで口に出す年代の方がいる間は、変わらないのかなと思います。(40代・女性)

- 自身が学んでいる場や、今後働いていく場に女性が多いので、働く女性や働くことに積極的な女性を見ていて、世間の一部の方が抱いているような女性差別的な視点や偏見は、いち早く認識を改めさせるように制度を整えていくべきだと感じています。
また、講演会等で世間の認識を啓発していくことも必要な一方で、根本的な制度や、行政を担う方々の認識が変わらない限り、男女平等の完全な実施には至らないとも考えているので、そういったことについて市の方々にも、ぜひ議論していただきたいと思っています。長文駄文、失礼いたしました。お役に立てていれば幸いです。(20代・男性)

- 最近、育児や家事などにとっても協力的な夫婦を見かけるようになりました。ベビーカーを押して子どもの散歩や買い物をする男性も多く見かけるようになり、とても良い傾向だと思います。
一方で、高齢者は今も変わらず、意識として男性が優位であり、何かと女性が男性に気を遣ったり、遠慮したりする場面が多いように思います。冠婚葬祭や地域のしきたりなど、昔からの風習が根づいており、男女が平等であるかどうか疑問です。
私が子どもだった頃感じた、親世代がもつ地域や人に対する偏見、差別的な風潮がまだ残っていて、その断片を垣間見ると、すごく嫌な気持ちが蘇ってきます。世代や社会全体の意識が変わらないことには、世の中は簡単には変わらないと思います。(60代・女性)

- 優しい世界になってほしい。(30代・女性)

- 言葉が一人歩きしていて、内容や取り組みなどの詳細は知らないことばかりで、馴染みがなく、興味を持ちにくい。(60代・女性)

【Ⅱ あらゆる分野における男女の活躍】

- 男女の収入差がなぜ広がっているのか。生理用品や下着など費用がかかるものが社会や会社の手当に入っていない。男性優位なのが不思議です。(40代・女性)
- 仕事上、女性が多い職場でなかなかうまくいかないことが多いです。今は若いスタッフが入らず、年齢層が高くて困っています。いじめもありました。女性のいじめが多かったです。専門のスタッフがいれば解決するのではないかと思います。僕自身は、明るく楽しい職場にしたいと思っています。(50代・男性)
- 女性の働きやすい環境づくりを整えてほしいです。何らかの理由で正社員ではなく派遣社員で働く方はいます。優秀な方はたくさんいます。また、結婚後に働いていない方もいます。そのような方々が社会で活躍できる場所を作ってほしいです。自分の意見をはっきりと伝えることができる社会です。会社でもです。よろしくお願いします。(50代・男性)
- 「男女共同参画」は絵に描いた餅、現実には甘くない。学校での教育が必要だと思う。男社会に入っていくには、働くには……こなしていくのは大変。孫の世話をしているけれど、小学生の見守りも一苦労。残業なしの定時(8:30~17:00)に親が帰ることを希望する。男性と女性は違うので、女性に夜は仕事をさせないでほしい。(70代以上・女性)
- 自分の職場でも女性の活躍の場を増やそうとする動きが見られるが、実際にはなかなか難しいと思う。今後活発になると思うが、その対象に入れないことが残念(年齢的に……)。自信はあるが機会がなくモチベーションが低下。本題からそれるが、年配者にも活躍の場がほしい。早期の男女共同参画実現を願っています！(50代・女性)
- 昨年、子どもを出産し、初めて小さい子どもを抱えながら働くことの大変さを実感しています。保育園に入れるかどうかや、保育園に入れても慣らし保育期間や子どものことで休むことが難しいと感じています。(30代・女性)
- 私の職場は全国に支店があり、男性の育休や生理休暇、子の看護休暇を取る方がちらほら、または部署によっては結構増えてきています。地元の中小企業にも広がってほしいと思います。子どもは上が10歳、下が6歳ですが、10年前は保育園に入れるのも至難の連続だったり男性が育休を取るのとは考えられない時代でしたが、この10年でいろいろな面で良い変化が起きていると感じます。人口の中でも人数が多い高齢者の方々の中には、男尊女卑の考えが固定されている感じがするので、その世代へのアプローチにも力を入れてほしいです。(30代・女性)

- 育児休業を取得したとしても代替要員がパートになりがちで、結局、他の正社員や正職員に負担を強いてしまうことになり、それを考えると長期で育児休業が取りづらいという職場の環境を改善しないことには、男女共同参画は進まない。男性中心で職場が回りがちだと思うため、男性の育児休業も短期になってしまうのではないかと考える。(30代・男性)
- 子育て世代が安心して働ける職場環境を充実させてもらいたい。(子どもの突発的なけがや病気など)休みを取りやすい環境が望ましい。(60代・女性)
- 共働きなのに、女性の負担が大きい(子どもが小さいと特に)。しかし、しょうがないと思う面もある。人間の生物的な暮らし方と、今の社会の働き方がそもそもマッチしていないような……。男女平等は分かるけど、女は子を産まなければならないし、仕事を頑張りたい女性、家庭にいたい女性、どちらに合わせるとかではなく、選択できるといいなあ。どちらの人生も幸せであるといい。(30代・女性)
- 男性は先に犠牲になる。男性は女・子どもを守る。それでいいと思う。(50代・男性)
- 子どもがいる家庭への金銭的な負担を、少しでも減らしていただけると嬉しいです。男性が少しでも育児に参加しやすい世の中になると、ママさんたちの心も身体も軽くなり、子どもとの絆も生まれると思います。(20代・女性)
- 女性が活躍できる場が少ないのではないかと。もっと場を増やしてほしい。男女共同参画について、もっと行政が関与してほしい。(30代・男性)
- 男女対等・平等は、私個人的にはまだまだ難しいと思います。子育てのため一度仕事を辞め、今はパートですが最低の時給です。収入の面で主人と差があるため、家の中の家事・育児はどうしても私の仕事です。
早く帰宅するのが私だからです。子どもの塾の送り迎えなども主人はしたことはありません。暗黙の了解で、主人は稼ぎが多いので家のことは私がするのが当然だと思っています。先日、「同じ稼ぎがあるなら俺が家事をするわ」と言われましたが、私は50歳を過ぎ、パート以外の仕事には就けないと思い、何も言えませんでした。このような家庭は多いと思います。(50代・女性)
- 女性が結婚、出産しても働きやすい環境を作ってほしい。(50代・女性)
- 男女において何もかも平等にというのではなく、生物学的な違い、体力格差など、どうしても男女には差異があるので(もちろん、それぞれ個人差もありますが)、ニーズや役割なども考慮しつつ、それぞれに合った支援や制度などの選択肢が充実されることを願います。(50代・女性)

- 子どもの未来が明るいものであるように、食べる物に不自由なく、また能力がある方はお金のことを考えることなく、勉強ができる環境を整えてほしい。生まれた境遇で選択がせめられることのないような社会であつたらいいなと思います。(50代・女性)
- 私の職場では、産休、育休、時短など実際に取っている人も多く、働くお母さんの支援はできていると思う。しかし、実際は時短(子育て)をしながら働くことは、精神的にも肉体的にも大変そうだと感じる。
周囲の助けがなければ厳しいと思う。経済的な面や社会とのつながりを持ちたい女性にとって、もう少し労働時間の短縮や週に一度の休みなどを入れてあげられる体制があつたらと思う。保育園や家事の負担などさまざまな助けはあるけれど、子どもの成長にはやはり母親がそばにすることが必要で、母親の代わりはできないと思う。あまりにも両親が忙しすぎると子どものサインも見落としがちであるし、子どもに、側にいる安心感を与えることが難しいと思う。(50代・女性)
- 女性の方が強い、守られているなどと感じることが多い職場のため、あまり男女の差を意識したことがない。私の上司も女性。女性の先輩の方がもちろん給与が高い。身近な場面で女性への差別はあまりないと思う。(30代・男性)
- 女性を必ず何人かメンバーに入れるなど、男ばかりの意見が出ないようにする。5対5など、事前に決めると良いと思う。(40代・男性)
- 社会で生活する上で完全に男女間で平等になることは難しいと思います。子どもを産んでも女性が働くのは当たり前という時代ではありますが、やはり家庭の中で女性の負担が大きいと感じます。子どもがある程度大きくなり、再び働きだすときに派遣やアルバイトなどではなく、安定した雇用があれば出生率も上がり、女性の社会進出もかなえられると思います。(30代・女性)
- 自分の子どものことで仕事を休むと、職場の仲間たちは嫌な顔をするそうです。よく聞きます。気まずい……と。自分に子どもがいない人もいる人も、子育てが終わった人も「他人の子どもは、自分の子どもである」「日本の子どもは、日本の大人全員で育てましょう」という世の中になればよい。子どもと高齢者(働けない人)は全国民で支えるべき。かといって現金は配ってはいけない。必要なこと(物)を無償に。(40代・女性)
- 今の時代は共稼ぎを勧め、若い子どもたちは子育て、仕事を二人で頑張っています。産後、仕事に復帰したいと保育園に入園手続きをしても、兄妹での入園がかなわず、あちらの保育園、こちらの保育園と朝・夕の忙しい時に頑張っています。同じ保育園に入れるように、子育て支援課にお願いしたいと常々思っています。時間がないと若い夫婦の顔から笑顔が消え、けんかになる。子育てが重荷になっていることもあります。子育てしやすい大分であってほしいです。(60代・女性)

- 生活圏の中や会社の中で、パートの女性が活かされていない男性社会を感じる。(70代以上・女性)
- 男女平等を訴える国や地方自治体が、まずは自分たちがという気持ちで議員の割合の是正に取り組むべきだと思う。役所の管理職なども同様。(10代・男性)
- 世の中には仕事をリタイアした元気な高齢者がたくさんいます。子育てしながら頑張っている若い夫婦もたくさんいます。夏休みなどの長期休暇や急な(子どもの)体調不良で思うように仕事に集中できない親を、少しでも手助けできるサロンや仕組みが身近にたくさんあると助かると思います。私も近くにそういう所があれば積極的にお手伝いに行きたいです。子育て環境を整えば出生率も上がるのでは？誰もが安心・安全で暮らせる社会であってほしいです。
(70代以上・女性)
- 定年後の期限付きの就労をしていましたが、現場で女性事務員が発達障がい児を抱えて仕事をしている状況で、上司があまり理解していない発言や行動をし、その方が退職した現場を見て、もっとこうした方々への支援が必要だと痛感しました。
それも市の外郭団体だったので(3年ほど前)、驚きでした！。その後、彼女がどうなったかは知りませんが、昔と違って子どもが大変な状況になっていることを、もっと世間に知ってほしいです。
(70代以上・男性)
- ちょっと、箸休めの意見です。世界各国と比べて日本の女性の地位は極端に低いとされ、その大きな理由の一つが「女性議員が少ない」からとされています。しかし、それは日本の政治に魅力が少ないせいではないでしょうか。派閥や裏金を大事にする、そんな集団には加わりたくない。日本の女性は賢いのです。半面、日本に女性政治家や女性経営者が爆発的に増える時代が来るような気がします。(70代以上・男性)
- 会社にパパ育休について詳しく知っている人がいませんでした。
もっと知っている人が増えるようになってほしいです。(20代・男性)
- 女性の年収を上げていかないと、ずっとこのままだと思います。(40代・女性)
- 私は女性なので、どうしても女性寄りの意見になってしまいすみません。大企業では女性の働き方が少し優遇されてきていますが、地方や中小企業では、まだまだ厳しいなと感じます。女性ならではの体調が悪い時など理解されず悲しいです。男性にすべて分かってほしいとは思いますが、そういうこともあるということを理解してほしいです。(20代・女性)
- 国の様々なことを決めていく国会議員の男女の割合が平等ではないのに、何かを決めても実際に社会の中では浸透しないし、こうなればいい、ああしたらいいという段階でストップしている。
(30代・その他)

- 私は病院に勤めているので比較的女性の意見も採用されていますが、土木系など男性が主体となっている社会では、まだ男性優遇な気がします。どんな仕事においても男女関係なく意思決定の場への参画意識を強めて、公平で豊かな社会づくりを目指すべき…と考えます。(30代・男性)
- あまり参考にならなかったと思います。これからの若い方々には、明るい家庭を築いてほしいと願います。(お互いを思い、協力する温かい心が必要ですね。)(70代以上・女性)
- 今年度、自治会の班長をしていますが、幹部が定年退職をされた男性が多いため、班長会の時間が長引いたり、反省会などあったり…集まりが多い。女性は子どもの夕食や習い事の送迎など、夕方からの仕事(家事・育児)も多く、正直嫌ですが言えず。男女共同参画はそれぞれの意識のアップデートが必要だし…。それを必要と思っていない、気づかない人に伝えることが大切だと思う。(50代・女性)
- 男女共同参画は、単に女性を優遇するというのではなく、男性も女性も個性と能力を尊重し、平等に活躍できる社会を目指すこと。固定観念を打破し、ワーク・ライフ・バランスを実現し、意思決定の場への女性参画を進め、ハラスメントを根絶することで、誰もが自分らしく生きられる社会をつくることが重要だと考えています。(10代・女性)
- 男女共同参画社会は、性別に関係なく一人ひとりが尊重され、自分らしく活躍しながら生きられる社会のことだが、日本はまだまだ男性が優位である印象です。特に政治の場において男性や高齢者が優位な印象であるため、女性や若者が参入しやすくするため、政治の場でも定年制度を設けるなど、内閣の男女の割合を平等にするなどの取り組みをしてほしいです。(20代・女性)
- 出産が女性にしかできない以上、平等は無理。キャリアは途絶えるし、男性の同期に追い抜かされる。スキルの無い人は会社も使わない。企業へ働きかけしても使う場所が無いから辞めていく。(40代・女性)
- 私は今育休中で、会社から仕事復帰後は扶養内で働く方向で話をされています。まだまだ働きたいが、子どもの病気(保育園の迎え)のことを言われると、扶養内や時短勤務は仕方ないと思いつつ、母が当たり前のように何かあれば行かないといけないという固定観念もおかしいと思います。社会全体の考え方が、少しずつ変わることを願っています。(30代・女性)
- 女性の自立の促進、男性の性的役割からの解放を進めていくべきだと考える。(20代・女性)
- 男女が共に育児に関わるため、働きやすい環境と保育所を整えてもらえたらと思います。(60代・男性)

- 家事・育児と両立できる働き方が広く普及すれば良いと思います。女性向けの再就職フェアなどはもっと増えてほしい。年配の方や考え方が古い方から、女性の役職者を見下す発言を受けたことがあります。セミナーなど啓発活動があっても、そういう人は聞く耳を持たないので変わらないかなと思う。(40代・女性)
- 女性に家事・育児・仕事を求められるのが辛い。子育てで寝不足の中、この3つをしないといけないのが現実。経済的に不安があるが、子どもの病気や行事などに参加することを考えると、両親が正社員は難しい。お互いの両親が助けてくれる家庭がうらやましい。正社員の夫でも、もっと休みが取りやすい会社づくりをしてほしい。ジェンダー問題は大事にしすぎていると思う。女性用トイレは生物的に子どもが産める女性だけの利用にしてほしい。生物的な男性が女子トイレを使うのは犯罪につながる恐れがあるのと、多目的トイレを使えばよいだけの話。女性側の気持ちを考えずに、自分たちだけ主張しているのにうんざりする。(30代・女性)
- 仕事をしたくても預け先がなく仕事ができない。無認可保育園ばかり勧められても保育料ばかりかかってしまい、仕事をしている意味がない。男女平等になんて全くなっていない。(30代・女性)
- 育児をしながら時短で働いている女性は、私の職場にも多数いて、大変な中頑張っている姿は応援したいと思う反面、フルタイムで働く人に負担があることも事実である(身をもって感じている)。仕事量が増える人に対して賃金の補填があるなど、企業の取り組みの拡充を希望する。助け合いの社会である認識を行政からもアピールしてほしい。また、家庭での男性の育児・家事のバランスが向上すれば、女性も社会で働きやすくなると思うので、もっと協力してあげてほしいと願う。(40代・女性)
- アンケートの回答項目を見ていると、女性への施策について多く示されていたが、これらで示した施策を同じく男性についても行えばよいのではないかと感じた。(20代・男性)
- 女性雇用の促進はもちろん大切だとは思いますが、家事・育児・介護などの無償労働の男女配分も同時に改善していく必要があると考えます。実力に見合ったポスト、給料が与えられることが多くなっているため、表面上は男女平等に雇用機会や賃金が払われる仕組みに変わっているようでも、家庭内での不平等により本来の実力が発揮できないケースは依然として女性に多く残っているようです。家庭内のことに行政が介入することは難しいと思いますが、双方向からのアプローチが必要になると思います。(10代・女性)
- もっといろいろな場面で、女性の社会進出が進めばいいと思います。(50代・男性)

- すべての平等はなかなか難しいのかなあと思っています。同様の仕事をしていても、収入や雇用形態に男女差があるのがやるせなくなってきました。(40代・女性)
- 私は政府(国会議員など)にも半数が女性になってもらいたいと思います。特に若い人には、これからの日本を住みやすくするために政治に参加してもらいたいです。女性からの視点や意見なども取り入れれば、より良くなると思います。それが本来あるべき理想の国だと思います。(60代・男性)
- 子育てについて、親は子どもを育てるべき、当然という考えが根強い。子どもを預けて男性並みに働きたいという女性も多いはず。女性の昇進・昇任が少ない、遅いのは育児に時間を取られ、その分評価が下がるからで、男性・女性の能力差はよほど優秀でない限りそこまで差はない。社会で育てるという選択肢がないのは残念だし、育てていないと育児放棄とみなされるのはおかしい。常識の思い込みである。中小企業に育児介護制度拡充を押しつけても、経営者に理解されていない現実を行政はもっと見直すべきである。(40代・女性)
- 男女共同参画とは関係ないかもしれませんが、ひとり親家庭で働きながら子育てしています。フルタイムで働くと、子どもとの時間がかなり少なくなりますし、仕事をセーブすると、生活できなくなるし、子どものために一生懸命働いても、税金などで苦しめられるし悪循環になります。子どもが育ち上がるまでは、女性だけで稼ぐには生活がギリギリの所得で、男女平等と言われていますが、まだ格差はあるのかなと思います。子育て支援(出産を応援する)制度はどんどん充実しているように思いますが、今現在、子どもを育てている、ひとり親家庭(母子・父子ともに)には、まだとても厳しい大分市だと思っています。ひとり親の方を、他の方と同様に楽をして生きようなどと誰も思っていないと思うし、必死に子どもを育てていかないと！と思っているはずです。もう少し、ひとり親家庭の存在に温かな目を向けてほしいです。(30代・女性)
- 男性が家庭において「お手伝い」感覚では駄目だと思う。どうしても女性が担うものが多すぎる。労働・家事・育児・介護・地域の行事・PTA(主体となってる)。体がいくつあっても足りない。(50代・女性)

- 女性版骨太方針2025の5項目を確認、従来からの国や自治体の啓発事業も承知。現状では県民市民の中小事業者、農林水産生産者の方々にてこの10年間コンプライアンスの中で男女共同参画社会を掲げている。骨太方針2025はこのコンプライアンスの深堀でありこの10年間で周知、成果も伺える。今後の取組について、国を挙げて少子高齢化対策を施策しているが地方に於いては老若男女の知的資源、豊かな文化・自然資源の深堀と活用を目的に未来を描くオリジナリティのロードマップが最優先と考える(市独自の元気な個性/潜在知的資源の活用、既にEU諸国では人的資源の再活用促進中)

具体的にできる事

1. 次世代・青少年の育成。誇れる故郷の社会、産業見学、現場体験(自治会、議会、製造現場、病院、会社他)狙いは社会の仕組みを理解して大人になったら担いたい事への動機づけ(起業や政治、法律、製造生産、社会福祉等)

2. 故郷・大分市のオリジナリティを創造、見える化、青少年から子育て世代までが何が安全安心か、何が誇れてどんな未来が描けるか、それを誰がいつまでにどのようにして実現、カタチにするか、市民が自分事として議論し行動する為の動機づけが狙い。例:社会の身近な課題を何でも話し合う「しゃべり場」的なフォーラムの実施。市民(老若男女)が多種多様なアイデアを自ら提案カタチ(手法SNS/市民凡そ5万人参加目標/10%)にする。小中高、大学、子育て世代、壮年高齢者、サービス、生産製造者等。何らかのインセンティブも必要、賞金公募コンクール等。狙い/次世代育成、市民の価値観と誇り醸成、地域経済活性、UIターン促進等。

3. 課題 働き方改革のプレッシャーについて 施策は国民末端、地方に於いて違和感が露呈している。働き方改革は大手中小企業には適応した施策。しかし地方のサービス、運送、製造生産現場で働く、子育て世代の給与減が顕著(時間制限で手取り減少、外国人雇用)、地方自治体の企業や業種に於いては独自のケースバイケースの施策が必要である。手法として現状60~70代迄の経験豊富な人材を活用(専門知識やスキル、健康な人、障がいのある人)する。又20~40代迄の日本人潜在者の復活雇用促進を優先事項として多様な働き方(労働時間の工夫や組織システムの改善)とする(同時AI機能のフル活用2030年には社会全体で約16%/日経データ)で労働力補充が想定(人口減/EU圏既実践)。従って安易な外国人雇用は将来的にリスク大(経験から)国の外国人雇用促進は地方小企業には簡単ではない(6月のコミュニケーション習得/意思疎通/、専門用語、生活習慣、健康精神面、雇用主保障責任等)。現状は派遣会社に丸投げ(2~3社下請経由)施策を優先するのであれば直企業や雇用主に補助金を充当する等国の政策・施策システムの改革が必要である。(70代以上・女性)

- 私自身の子育て当時に比べると、今の若い世代の方々の子育て環境は現実的に厳しい中、よく頑張っているらっしゃると感心するばかりです。ぜひ国のレベルで厚い支援をお願いします。(50代・女性)

- 女性登用を全体の〇割にするなどは良くないことであると考えます。男女関係なく、意欲や能力のある方が進出できる環境をつくること。下駄を履かせるような行為は、そのことそのものが女性差別と感じます。生物学的な性別の役割もやはりあるとは思いますが、個人の幸福権の追求は尊重されなければなりません。男女ともにそれぞれの生物学的役割をしっかりと考え直した上で、協力し合って社会をつくっていくことが望ましいと思います。男だから、女だからと我慢を強いられることはありません。ただし、政治が口を出すことではないと感じます。意識を高める啓発活動は行ってほしいと思います。(40代・男性)

- 性差別が社会内に多少あるため、完全な共同参画はまだ先の未来だと思う。(40代・男性)
- 男女が平等に社会に参加するというのは理想的な社会だと思う一方で、子育てにおいて乳幼児の世話をするために、夫婦のどちらかが仕事を休む・辞めるというのが避けられない今の社会状況において、女性側が仕事を休む・辞めるということが多く感じる。
例えば、男性側が1年近く育休を取るという選択をするとなった場合、職場が「男側が休むの？」という雰囲気になることが多いと思う。
実際、今の職場では、「男性の育休は長くても一ヶ月だよな」という暗黙の了解のような雰囲気があるように感じる。
そういう雰囲気があるからこそ、男性側が休みにくい→女性側に休ませるという選択になるのではないか。
休職する職員が分かった時点で、人事異動や短期採用による人的補償をするという制度を作ることで、休む側も休みやすい社会になるように感じる。実現は難しいかもしれないが、意識改革だけでなく、制度作りをしないと社会は変わらないと思う。(20代・男性)
- 男女共同参画について、その言葉や活動がスタートした頃と比較して、その概念はだいぶ浸透していると思うし、実際に様々な制度や対策は取られてきていると思う。しかし、特に子育てや介護は女性が担う部分がいまだに多く、仕事との両立を目指して頑張っても疲弊して幸福感を得られなかったり、ドロップアウトせざるを得ない状況に追い込まれていくことが多いと思う。働き方の多様性を認める社会、大切な子どもや高齢者をみんなで守る社会、将来の経済的な不安が少ない社会など、すべてを可能にするのは大変だと思うが、確実にやってきている高齢社会で皆が幸せに暮らしていけるよう、これからも社会全体で考えていくことが大切だと思う。今回、このアンケートに回答させていただき、自分自身もこれからの生き方について考えるよい機会となりました。ありがとうございました。(50代・女性)
- 男女共同参画について、職場側の取り組みが男女問わず可視化されることで、特に求職者が自主的に選んでいける仕組みがあればよいと思います。制度による働きかけはあくまで補助的なものであり、個々の意識や自主性が第一だと考えます。また、その意識を促すような場を設けることも必要だと思います。(20代・男性)
- 女性が母親として子育てをしながら就労を続けるには、今の日本の雇用状況では男女平等とはなりません。
フルタイムで父母とも働いている場合、父が残業すれば、子どもがいるので母は残業せず家事育児もしなければなりません。会社には迷惑をかけている意識がありつつ、フルタイムなら限られた時間で家事育児もこなすので大変です。よって、フルタイム就労を女性は諦めなければならないことが多いと思います。
フルタイムで働かないと正社員の地位でいられないという今の労働規則的なものが、女性の権利を奪っている気がします。
子育てをするには平日の学校行事、子どもの看護等、仕事を休む場面が多くあります。そもそも、学校から帰宅後の子どもの面倒を見たり、夏休みは一日預ける場所の確保等、フルタイム就労であれば頭を悩ます場面が日常的です。
正社員でも就労時間が柔軟に選択できることや、地域社会で子どもを預けられる場所がもっと必要です。(30代・女性)

- 中学校の教師をしています。行政の支援の拡大に感謝しています。ありがとうございます。日本全体の管理職の割合(政治を含む)において、女性が4割を超えるべきだと考えています。学校の成績で上位8割以上が男子になることはほとんどなく、ほぼ半数であるにもかかわらず、社会で管理職になる女性が少なすぎます。日本の働き方があまりにも長時間であることが大きな原因と思っています。男女問わず働き方改革を推進し、ワークシェアリングや部分的な働き方を進め、発達障がいや障がいのある人も雇用に参加できるようにしなければ、少子化の一途をたどっているこの国は立ち行かなくなると思います。(30代・女性)
- 女性と男性とわけるのではなく、その人その人の能力でわけるべき。
男性でも女性でも得意なものはそれぞれ違うのだから、適材適所に。
まずは個々人の能力を見極めようとするシステムの構築が急務。(40代・男性)
- 職場における男性の長時間労働の改善をさらに加速させなければ、結局は女性の家庭内での家事や育児の負担は改善されないと思います。そのような状況の人が多いためこそ、管理職を目指す女性が少ないのだと感じます。(40代・男性)
- お互いの立場を想像し、負担が偏らないよう思いやることが大切だと思います。思いやるためには心に余裕が必要です。そのためにも、男女ともに子育てをしながら働きやすい職場の仕組み(育休制度、看護休暇制度、時短制度など)と、それを利用できる環境が不可欠です。(30代・女性)
- 男女で仕事に対する考え方に乖離があるように思います。(40代・男性)
- 待機児童ゼロと言いますが、育児休業から仕事復帰する際、希望する保育園に入りたい時期に入りにくい現状や、兄弟児で違う保育園に入らざるをえない現状があります。保育士の給料の賃上げや業務内容を見直し人材確保をする、地域差をなくすような点に力を入れていただきたいです。そうすることで育児休業から仕事復帰する際、安心して子どもを保育園に預け働くことができると思い、強く願っています。(30代・女性)
- 男女が平等に生活できる社会。(50代・男性)
- 「男だから、女だから」という区別した言葉は、高齢の方からよく聞く言葉のように感じます。生まれ持った体格など、男女差はあると思いますが、男女に関係なく参画してほしいという思いを伝える機会や、男女に関係なく参画してよいという環境づくりを増やしていけるといいと思います。(20代・女性)
- 災害時の避難所などで、性被害が発生するという情報に触れたことがあります。避難所運営も含め、防災についても女性に積極的に参加していただき、そういった被害が起こらない仕組みづくりをする必要があると考えています。(30代・男性)
- 男女共同参画を推し進めるために、無理やり女性を昇進させるのは本末転倒だと考えます。よって、しっかりと能力があれば性別に関係なく昇進できるようにすることが大切だと思います。(20代・男性)

- 創業年数の長い企業ほど、男女間の賃金格差が激しく、30代から40代では2倍ほど違います。同等の仕事をしているのに、女性というだけで評価をつけないのはおかしいのではないのでしょうか。企業は社内での男女間の賃金格差を公表すべきです。(30代・女性)
- 平均給与で女性が男性より少ないのは、妊娠・出産で休職期間が存在していることが考慮されているのか疑問です。それを考慮せずに、女性の平均給与を、基本的に休職しない男性と同等にしようとするのは、男性に対する逆差別になるのではないのでしょうか。男女共同参画には一定の必要性は認めますが、全体として胡散臭さを感じています。こども家庭庁とともに、今すぐ解体して、防災や教育など、予算の分だけ着実に進捗する分野に予算を使ってほしいです。そもそも、経済的に先細っているからこんなみみっちい話になるわけで、高度経済成長のようなとんでもない好景気とは言わないまでも、他の先進国並みに成長していれば、国民みんなが今だけのことしか考えないデフレ脳にはなっていないと思います。少子化も女性の地位向上云々も、非正規雇用の解禁で労働者を安く雇おうとする雇用者の意見ありきで政策を決めていた政府の方針が、大きなつまずきの始まりで、まだ立ち上がれていないのだと思います。いい加減にしよう。(40代・男性)
- 女性に対しての改善策について考える風潮はありますが、男性が「男性としてこうあるべき」と求められることがあり、それが苦痛です。なぜそういった点の改善策は考えてくれないのだろうかと思います。(30代・男性)
- 昔に比べて税金(支払い負担)が高くなり、共に働かないと生きていけない家族が増えていると思います。男女が平等な立場になるように、もっと女性が参加できる企画が増えたらと思います。(40代・男性)
- 男性の教員も長期間の育児休暇を取得しやすい環境を実現してほしいです。(10代・男性)
- 途中の回答欄にて記載させていただきましたので、参照願います。足立市長さま、女性だけでなく男性にも平等な政策を期待します。(50代・男性)
- 女性のみでなく、現状の経済状況を良くしない限り、男女共同参画基本計画の地盤そのものが存在しないと思います。こども家庭庁など、存在意義が分からない省庁がある限り、男女共同参画基本計画の基本的な方針そのものが弱くなっていると感じます。子どもを産めるのは適齢期の女性であり、それを支えるのは夫婦の経済的地盤だと考えられます。国民負担率が46%もあるにもかかわらず社会的な幸福感を得られないのは、政治分野でのフォローアップが十分でないからだと考えます。(40代・男性)
- 男女が同一の仕事をするのは厳しいと考えています。例えば重筋作業だと、男性が女性に任せると、任せた人間は男女両性から批判を受ける確率が高いです。だからとって、任せないと差別扱いをする人もいます。この場合、どちらもハラスメント扱いとなり、それぞれ対応していると仕事が滞ります。よって、女性の社会進出には賛成ですが、仕事内容に関しては考えていく必要があると思います。(40代・男性)

- 今の職場は人手不足だということをご存知ですか？ 早出や残業の毎日で、余裕がないのが現状です。まずは働きやすい環境整備。余裕ができれば必然的に、育児・家事・介護に男女で協力できると考える。しかし、それが実現したとしても、すべての人が協力的かと言えば、そうでないだろうが、自由自在と主張する人が増えている中で、なかなか難しいだろうけど、正直者がバカを見てしまう世の中をなんとか改善してもらいたい。(税優遇等)自分勝手な人が得をする仕組みは、「自由」と言えるのだろうか。(50代・男性)
- 女性の社会進出や管理職登用などについて、社会の強制的な流れを感じます。希望する人はよいですが、このような流れを望まない女性もいるのではないかと思います。「家庭にいるからつまらない」「管理職でない女性はダメだ。だから女性も前を向こう！」という一律的な風潮も、ハラスメントに近い雰囲気があるのではないのでしょうか。善意の押し売りの的な…。男女問わず、希望する生き方ができる社会の構築を望みます。(40代・男性)
- 私は工業系の女子で、最近、大学や企業で女子の受け入れ促進は進められていますが、まだまだだと思います。もっと取締役や役員に女性を登用して、女性の意見を取り入れていくべきだと思います。(10代・女性)
- どちらかに偏った施策を行うのではなく、男女共に関わる施策内容にしてもらいたいです。(40代・男性)
- 小学校で働いていましたが、子どもの出産・育児に伴い産休・育休を取得しました。職場復帰を望んでいますが、小学校現場では人手が少なく、時短勤務が取りづらいことや保育園が見つからないこともあり、なかなか難しい状況があります。子育てを楽しみながら働きたいという気持ちを理解し、少しでもそんな社会に変わってほしいです。
また、夫は今回の出産に伴い育児休業を取得しました。夫が子どもと2人で出かけた時に、男性だけでは不便なことがいくつかありました。例えば、おむつ替えの場所が女性トイレにしかなかったり、ミルクを作る場所(お湯などを提供しているところ)が授乳室の隣にあり、男性が入れないなどです。夫婦2人で育児を行うために、社会の環境づくりも進めてほしいと思います。(20代・女性)
- 死産の場合の制度がひどい。妊娠の周期の長さにより、休める・休めないがあるが、死産の場合の悲しみの深さは計り知れないので、妊娠の長さによって休める・休めないという制度はこくだと思う(私自身は男性)。
日本の政治に関して、女性が少ないのと若手が少ない。実力・能力の差はあるだろうが、女性や若手が首相になれる気がしない。一つに、長く政治活動(20年以上)をしていないと半人前という考え方が古いと思う。(30代・男性)
- 男性と女性の働き方が違って、当たり前になっているのはどうかと思う。(40代・女性)

- 女性が妊娠しやすい環境づくりと、男性が子育てのために休みを取りやすい社会の実現。
(20代・女性)
- 男女平等を達成するために、どちらかを優遇するような方法をとっている事例を時々目にするので、本末転倒だと感じる場合があります。(大学の女性卒や、企業で「女性だから」という理由で昇進させる事例など)。(30代・男性)
- 女性の社会進出は喫緊の課題であることは間違いないが、一方で、役員や管理職、議員への女性登用率だけが、女性の社会進出を表す数字のように取り沙汰されるのは甚だ疑問である。他国の状況と比較して、女性を参画させることだけが目的になってしまっただけでは、本当の意味での男女共同参画社会の実現はないと感じる。目指すべき社会の実現のために、何が必要なのか、今後も精査していてもらいたい。(20代・男性)
- 日頃からそんなことは考えていない。子育てをしている側としては、子育てしやすい市にしてほしいとしか考えていない。(30代・女性)
- 男女共同参画は大切なことだと思いますが、今の進め方には少し疑問もあります。女性が社会で活躍しやすくなることは良いことですが、その一方で、子育てや家庭のサポートが十分でないと少子化につながるのではないかと感じています。男女がお互いに無理なく協力できる社会の仕組みが、もっと整えばいいなと思います。(30代・女性)
- 行政の立場から、男性の育児休業取得率の増加等を図っているため、社会全体として男女平等の意識が芽生えていると考えます。(20代・男性)

【Ⅲ 男女が安心できる生活の確保】

- 子どもにとって一番大切なものは母親の愛情だと思います。女性の妊娠・出産の時期に十分な時間と子どもに愛情を注げる体制を社会が受け入れなければ、この国の未来はないと思います。(60代・男性)
- 周囲に働かず、うつ病で生活保護を受けている女性があります。うつ病だから働かないのはおかしいと思います。まず、生活保護や母子手当の基準を厳しくした方がよいと思います。(30代・女性)
- 毎年受ける健康診断で、男性の更年期障害も診断できるようにしてほしい。(50代・女性)
- 妊娠中の女性や働くことが困難な女性に対して、産前・産後等が楽になるような有利な政策を検討していただきたいのと、助成金や一時金などを大分市でも行ってほしいと思います。(30代・男性)
- ミクロの視点では女性の社会的地位向上を目指すのは理解出来るが、母性という観点からすると、女性が子どもを産み育てることが優先されるのは必然だと思う。(40代・男性)
- 子どもを産むのは女性であり、子どもが小さい時は母親の存在が子どもにとっても大きい存在であるのは明確である。仕事やキャリアアップにも当然影響するはずなのに、平等に共同参画を求めるのはおかしい話ではないでしょうか。(40代・男性)
- 男女平等を謳う世の中になってきて、賛成だと思っていた時期もありましたが、やはり男女で身体の構造も違うこと、ホルモンの影響、地方で社会的に得られる地位の差(賃金含め)を考えると、女性は仕事と子育てを両立するよりも育児だけに専念できる体制があった方がいいのではと感じますし、それを実現するためには、男性の所得向上がなければかなえられない話なのだろうと思っています。(30代・女性)
- 家事については平等意識に問題は感じませんが、育児については子どもの気持ちもあるため、画一的に制度を定めても適応できない場合があると思います。難しいとは思いますが、それぞれの家庭環境に応じて柔軟なアドバイスやフォローができる仕組みが必要になるのではないのでしょうか。(50代・女性)
- 女性がシングルマザーになっても働きやすい世の中になってほしいです。自立を支える環境づくりを進めてほしいと思います。(30代・女性)

- 私は男性ですが、女性の権利向上には大いに賛成です。
しかし女性がもっと子どもを産み育てたい、という意識がだんだんなくなっているのが少子化の大きな一因だと考えます。
これにはたくさん理由があるとは思いますが、大きな要因として、出産や育児を経て一度仕事を離脱すると、なかなか職場に戻りづらい環境にあります。統計的にも特に大分県は顕著で、まずは離脱しても職場に安心して復帰出来るような環境を整えることが一番ではないでしょうか。
また男性側も私自身含め女性DVの被害に遭っていたり(特に男性は力が強い、女性からの攻撃は耐えろなどのレッテルを貼られ、言い出しにくい)、育休取得に後ろ指をさされるようなことがあるのも事実です。
女性だけではなく、男性側の悩み相談の場所や考えも、もっとあるといいのかなと思います。
(30代・男性)
- 男女で体のつくりや得意なことが違い、生物的な役割も違う。それを全うしつつ、男女がお互いに尊重し合い、個々が自分のありたい姿でいられ、それが尊重される状態が理想だと思いますが、とても難しいことだと思います。単純な男女平等(すべて同じ条件)にしても、それは本当の平等ではないと思います。結局は、個々の意思が尊重され、それが何にも邪魔されず不当な扱いを受けない社会になってほしいです。
また、全国の他の市を参考に、大分市も、どんどん20~50代へ向けた画期的な取り組みを行ってほしいです。(30代・女性)
- 男女共同参画という名前の割には、女性の話ばかりの印象でした。補助が男性しかないのなら、その補助を女性も受けられるようにすればいいだけではないでしょうか。適材適所をぐちゃぐちゃにするような意見も見かけます。正直、女性の不満を並べ立てているだけのようにも感じます。(30代・男性)
- 今は女性優遇の社会で、職を選ばなければ若い女性の方は同年代の男性より稼げることも多々あるので、支障はないと思います。経済力に余裕があり仕事にも興味がないなら、結婚して子どもを出産し、専業主婦になるのが理想的なのではないでしょうか。(10代・男性)
- 男性には男性の、女性には女性の体のつくりやリズムがあって、それを受け入れ、それに沿った役割や人生があることはいいのでは、と個人的に思う。それを無視して何もかも平等にするのは無理があると思う。お互いの体の違いを知って、体の違いに合わせた社会づくりを基盤にしていく方が(人間は医学的には男と女の2種類だから)長く続くと思う。どちらの生き方にも当てはまらない人もいると思うけど、そういう人が自由な生き方ができるように配慮することも大切だとは思う。(20代・女性)

【Ⅳ 配偶者等からの暴力の根絶】

- 昔からのイメージに伴って、女の人が不利な世の中だとずっと思っています。特に私はDVの経験があり、男は力も経済力もあるという強みから見下され、家庭では言いなり、妻ではなく家政婦扱い。
また、相談機関を知らずに一人で抱え込む日々が数年。そんな人がまだまだたくさんいると思うので、もっと知らせる方法を考えるべきだと思います。交通量の多い所に看板を出すなど。私は携帯も見せてもらえず調べることができなかったので、目で見て記憶できるものがあればよかったかなあ、、、と今さらですが。(40代・女性)

- 今回、この機会にご協力できましたことは大変ありがたく感じております。私自身、DV、ストーカー被害、下着を盗まれたり、車のタイヤに釘を入れられたりしたことがございます。ある機関(警察含む)にお話しさせていただいたこともございます。被害にあったことにより、私が心身ともに病んでしまい、思うような解決ができていません。相手から謝罪などもなく、はがゆい思いを募らせております。現実には厳しく、男性上位の世の中がまだまだ根強くて、私のように泣き寝入りされている女性の方が多くいらっしゃるのでは?と考えます。このような被害者が一人でも少なくなれることを願っております。(50代・女性)

【V 推進体制】

- 自分が知らないだけかもしれないが、もっと知ってもらえるようにアピールをした方がいいと思う。(20代・男性)
- SNSを利用した情報発信を充実させた方がよいと考えます。(50代・女性)
- 大分市では男女共同参画に対する取り組みが遅れていると感じます。様々な立場の人の意見を取り入れ、少しでも早く具体的な施策が確立することを願います。(30代・女性)
- 市長と県知事、もっと頑張ってください。(50代・男性)
- マスメディア、動画サイト、インターネットを使用して、もっと男女共同参画について配信・宣伝を広げて、国民レベルで意識向上を促進していくのが一番早い方法ではないかと思います。男女共同参画社会をテーマに、もっと世間の認識を向上してもらうよう積極的に掲げていってほしいです。(50代・女性)
- 男女共同参画という言葉は知っていますが、実際にこの内容について様々な行動を起こす際、当事者の存在や意見などが反映されることが最重要なのではないかと思います。係だから、担当者だからと意見だけ聞いて対策を考えるだけでは、なかなか変化を得られないのではないかと思います。
当事者(特に就職・育児・介護で困っている方々)が不公平なく、人として様々なことに参画できる社会を願います。(50代・女性)
- こんなことをして何か変わるでしょうか。行動で示してください。(30代・女性)
- 公的機関としてさまざまな施策を検討するのは構いませんが、手段と目的が逆転すると効果が失われるどころか、私たちが納めた税金の無駄遣いになってしまいます。チェック体制を意識してほしいです。(20代・男性)